

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50^{6m} 1 2 3 4 5

64
233

始



IT 4F-89



維新日報
乘纂輯

第一



維新日乘纂輯第一

例言

一白石正一郎日記 正一郎ハ諱ヲ資風ト云ヘリ、舊山口藩下、關ノ商人ニシテ、世々船運業ヲ營ム。性慷慨義ヲ好ミ、國事ニ力ヲ盡スコト尠カラザリシカバ、薩侯擢ンテ士籍ニ列セリ。平生ノ交遊、同藩士ハ素ヨリ、鹿兒嶋藩士及筑前ノ平野國臣、久留米ノ眞木保臣、京都ノ僧月照等アリ。且ツ其地西國ノ要衝ニ當リ、諸侯伯ノ用達ヲモ務メシヲ以テ、四方ノ志士來寓スル者多ク、往々資産ヲ投ジテ援護ニ努メシカバ、其機微ニ通スルコトモ頗ル深

例言

一



カリシガ如シ。サレバ、コノ日記ノ價值ハ、細説ヲ用ヒズシテ自ラ明ナルベシ。資風ハ、明治十三年八月三十一日病ニ罹リテ家ニ歿ス。明治二十四年十二月、特旨ヲ以テ正五位ヲ贈ラル。

一 黒澤覺藏覺書 舊水戸藩那珂郡石神村ノ郷士黒澤覺藏ノ覺書ナリ。覺藏ハ覺右衛門某ノ次男ニシテ、兄ヲ覺助ト云ヘリ、闔族勤王ノ志深ク、特ニ覺藏ハ高橋多一郎、金子孫二郎等ノ信任ヲ受クルコト頗ル篤ク、常ニ其意ヲ受ケテ江水同士ノ間ヲ斡旋セリ、櫻田ノ變ノ際ハ、多一郎ニ從ヒテ大坂ニ在リテ舉兵ノ準備ニ怠ナカリシガ、事破レテ多一郎天王寺ニ自殺スルニ及ビ、潜行シテ

水戸ニ歸リ、一時職ヲ郡方ニ奉ジ、復タ力ヲ尊攘ノ事ニ盡セリ。明治二十三四年頃、水戸ニ歿シヌ。コノ日記ハ、密勅降下ヨリ井伊大老斬除ニ至ル迄ノ事ヲ記セルモノニシテ、後年其追憶ヲ辿リシモノナレバ、年月等ニ多少ノ相違アルモ、概ネ其遭遇ニ係ルヲ以テ、當時ノ事變ヲ窺知スベキ好史料ナリ。

一 遣倦録 愚葦筆記トモ稱ス。舊高知藩士樋口武ノ日記ニシテ同志ノ運動ノ裡面ヲ細叙シテ頗ル要ヲ得タリ。武通稱ハ眞吉、彬齋ト號ス。西郡勤王家ノ領袖ニシテ、文久慶應ノ間國事ニ奔走シ、其聲望武市瑞山ト雁行ス。明治三十六年十一月特旨ヲ以テ從四位ヲ贈ラル。

一 壬戌事變 子爵福岡孝弟ノ文久二年四月吉田正秋(東洋)横死前後ノ記録ニシテ、正秋ハ高知藩參政ノ要路ニ在リテ、内外ノ政務ヲ決裁シ、子爵ハ其門下トシテ、衣鉢ヲ繼承セシ人ナレバ、此記録ハ、當時、高知藩ノ藩是轉換ノ真相ヲ知ル上ニ於テ、極メテ重要史料ナリ。

一再遊筆記 舊高知藩士千屋孝健ノ日記ナリ。孝健通稱ハ菊次郎、別ニ榮ト稱セリ。文久二年閏八月上京シテ交ヲ諸藩ノ有志ニ納レ、尊攘ノ說ヲ唱フ。文久三年八月、七卿ニ長門ニ從ヒ、翌元治元年七月、京師清側ノ軍ト共ニ西上シテ、關下ニ戰ヒ、敗レテ天王山ニ自殺ス。年二十八。明治二十四年十二月特旨ヲ以テ從四位ヲ贈ラル。コノ

日記ハ全篇ヲ通ジテ史料トナルベキモノナルモ、特ニ勅使東下ノ前後ヨリ、大將軍上洛ノ頃ノ記事ニ於テ出色ノ處尠カラズ。

一 御評議簡條 正親町三條(後嵯峨)實愛ガ議奏トシテ朝政ヲ輔翼セシ際、日次ニ從ヒテ朝議ノ簡條ヲ列記シ、備忘トセシモノニシテ、其記スル所簡約ナリト雖モ、頗ル要ヲ得タリ。以テ議奏府記録ノ補遺トナスベク、頗ル重要ノ史料ナリ。

一 三條西季知日記 當年西竄七卿ノ一人西三條季知ノ日記ニシテ、文久三年八月十八日ニ始マリ、元治二年正月二十日以後ハ、壬生基修ノ日記ニ據リテ、之ヲ記セリ

ト云フ。基修亦タ七卿ノ一人ナレバ、其記事ノ共ニ、此種ノ記録中ノ壓卷タルハ贅スルヲ須ヒザルナリ。

一七生日録 男爵南部襄男ノ元治元年六月從軍ノ日記ナリ。襄男敗軍ノ際、鎧櫃ト共ニ戰場ニ遺棄シ去リシガ、後年或人ノ手ニヨリ再ビ襄男ニ贈ラレシトゾ。禁門事變ノ貴重史料ノ一ナリ。

一江月齋日乘 舊山口藩志士ノ領袖久坂通武ノ日記ナリ。通武初ノ名ハ誠、又玄瑞、義助トモ稱ス、別ニ秋湖ノ號アリ。夙ニ吉田松陰ノ門ニ遊ビ、高杉春風(晋作)ト共ニ雙璧ヲ以テ稱セララル。長井雅樂ニヨリテ唱導セラレタル、公武合體、航海遠略ノ藩是ヲ打破シテ、一意勤王、即今攘

夷ニ轉ゼシメシハ、多ク通武ノ功ナリ。通武ハ元治元年七月同志ト共ニ清側ノ軍ヲ起シテ、西上、鷹司邸内ニ戰死セリ。年僅ニ二十六。明治二十四年四月、特旨ヲ以テ正四位ヲ贈ラル。長藩勤王正系ノ傳統者トシテ、一代ノ風雲兒タル通武其人ノ面目ハ、此日記ヲ通ジテ躍如タルモノアル也。

大正十四年十一月

日本史籍協會

維新日乘纂輯第一

目次

一 白石正一 日記	自安政五年正月十五日 至明治十一年十月十五日	一頁	
一 黑澤覺藏 覺書	自安政五年八月二十三日 至萬延元年三月二十三日	一四七	
一 遣倦錄	樋口真吉 日記 (愚菴筆記)	自文久元年九月二十四日 至慶應三年二月二十四日	一五三
一 壬戌事	自文久元年六月 至文久二年十月	二三一	
一 千屋榮再遊筆記	自文久二年閏八月三日 至文久三年三月廿四日	二四九	
一 御評議箇條	自文久三年八月八日 至慶應二年八月十六日	二九三	
一 三條西季知筆記	自文久三年八月十八日 至慶應三年十二月十九日	三八七	

白石正一郎日記

目次

一七生日錄

自元治元年六月八日
至同年七月十六日

四六五

一江月齋

久坂
瑞

日乘

自文久二年正月朔日
至同年三月十八日

四七五

二

白石資風日記

白石資風日記

コハ伯兄資風カ世ニアル時安政五年戊午
ノトシノ春ノ頃ヨリ日毎ニ書記シ集メタ
ル事トモノ内勤王ノ事ニ縁因シタル事柄
ヲヌキエラミテ此ニ舉ルニ南舞

弟景明

安政五年戊午

○正月十五日廉作薩州行發足(朱書)白石廉作資敏郎正一郎資風ノ實弟ナリ

○二月十三日在筑ノ工藤氏洋中氏さつまノ井上彌八郎君ナド上下四人來

訪(朱書)工藤洋中元薩ノ藩士故アツテ此時筑前ニ在リ

○十八日右四人陸地岩國行

○廿六日洋中氏岩國ヨリ歸關工藤井上ノ兩士上坂今日薩摩ノ管船新役高崎善兵衛君來訪是ハ工藤氏ノ親類ノ由兼而承ル今夜及深更廉作さつま

ヨリ歸リ來ル在筑ノ北條右門君同道ニテ歸關(朱書)此高崎善兵衛君ハ日下岡山縣令高崎五六君ノ實父也

○廿七日北條高崎洋中一席ニテ談話北條洋中滞在

○三月二日薩藩毛利強兵衛ト云人來訪

白石正一郎日記 (安政五)



- 四日北條洋中歸筑
- 廿日工藤井上ノ兩士上方ヨリ歸リ入來
- 廿八日歸筑
- 四月四日工藤君又入來
- 八日歸筑
- 十八日工藤君又々來
- 五月三日歸筑
- 六月十二日笞船ノ高崎翁(朱書)善兵衛君ヲ云フ入來有談薩州御產物ノ藍玉ノ事承ル
- 廿三日薩州ノ藍玉ノ事ニ付正一郎出萩
- 八月十日歸宅薩長藍玉御取組并ニ其外ノ品々御交易事相調フ
- 九月十四日正一郎薩州行發足
- 忍向上人西郷ノ來レルハ此ノ不在中十月朔日ナリ翌二日出發
- 十一月三十日歸宅

○ 十二月一日さつま高崎喜兵衛君(朱書)善兵衛君ノ一門ト聞ク來訪江戸行也

○ 八日竹崎目明仁作申來ル先達而薩行御留守中ニ京都ノ忍向ト云僧ノ事

ニ付京都ノ中野甚介目明仁作ノヨシ御口書ヲ乞ニ參候段申來候故程能ヲサマリ候様相頼置追而品モノナド差遣ス(朱書)是ヨリ先キ四郷君忍向僧同行薩地京實ハ白石ヘ止宿シ白石ヨリ船ヲ筑前若松ニ向ケ渡航スルカ爲メ兩人ノ足跡不見ナリ

○ 十二月九日中野甚介ヲノレヘ相對之儀申參候故及相對候中野勝之介ト云モノ及馬關ノ目明松屋久吉竹崎目明仁作ナド同道ニテ來ル中野甚介ヨリ土産持參ニ付大ニ馳走イタシ物ナド遣シ候處凡無事ニヲサマリ口ニ相成致安心候

○ 十二日筑前亡命平野二郎入來止宿ス(朱書)平野氏はヨリ先キニ幾度モ白石ヘ往返ス

○ 十三日工藤君入來

○ 廿四日歸筑

○ 廿五日薩州板鼻俊藏ト云人江戸ヨリ歸リガケ立寄ラレ直様歸薩

安政六年己未

- 正月五日夜ニ入薩藩堀仲左衛門君來訪止宿同七日出立江戸行
- 七日本藩有馬新七桂民之進米良喜之介石見半兵衛ノ四君高崎翁誘引ニテ入來同八日堀君船未出再入來止宿同九日五士發足
- 二月二日平野二郎上方ヨリ歸關止宿同八日歸筑
- 十六日平野又々入來止宿
- 十六日筑前大島(朱書)玄海洋中ニアル孤島ナリノ大宮司河野若狹之進來訪上京之由
- 十九日河野平野同行上方行
- 三月二日平野二郎變名宮崎司備中連嶋ヨリ來豐景明日ク(朱書)筑前藩俗政府探案嚴ナルカ爲ニ此時變名ス
- 三日笈船新役濱田勇右衛門君高崎翁誘引ニ而入來
- 十日宮崎司備中守ヨリ歸關
- 十五日宮崎ト廉作ト同道筑前行同廿八日夜兩人トモ歸關
- 四月廿六日薩州有村俊齋君ヨリ來書宮崎届ノ狀入組來ル

- 五月六日薩州君公馬關御止宿嶋津豐後太夫ノ旅宿へ御尋申上候處御逢有之候而引取同七日早曉ヨリ正一郎小倉へワタリ御用人三原藤五郎君へ相尋御相對何角及談話候
- 十三日同藩與倉猶二郎君へ常陸帶二冊カス
- 七月十七日宮崎備中ヨリ歸リ來ル同廿一日宮崎ト廉作同道筑前行
- 廿九日益山東石ト云人入來有村俊齋君ノ書翰持參
- 八月九日廉作筑前ヨリ歸ル
- 十五日春風樓ニテ高崎翁ト及談話今夜宮崎筑ヨリ歸關
- 同十九日高崎翁來談當夏ノ頃ヨリアルマガモノ、タメニ薩長御交易大破ニ相成夫ニ付テ高崎翁モ不首尾ニテ久敷來訪モ無之疎遠ノ處今日ヨリ又々游來

○廿七日徳山藩本城清江村彦之進來訪止宿同廿九日出立九州行景明云フ(朱書)此兩人ハ

兄弟ニテ本城ヲ兄トキク江村ハ弟也
後ヲ俗政府ト不合牢中ニ死スト云フ

- 十一月八日本城江村九州ヨリカヘリ來リ止宿ス
- 十二月五日筑前ヨリ工藤氏來駕同廿日歸筑
- 廿九日夜半濱門ヲ叩キ薩藩堀仲左衛門君高崎猪太郎君男爵(朱書)高崎五六君也原田彦右衛門ヲ御召連急御用ニテ歸薩ノヨシ來訪但シ高崎翁此方へ滞在ニ付來駕ナリ薩州ノ御交易一條先達而讒訴故ニ此方手ヲ引キ居候段氣之毒ニヲモハレテ其取成十二八九相調候様可致トノ懇切ノ御談承ル同晦日堀君高崎猪太郎君原田ト三人歸薩高崎善兵衛君ト宮崎司兩人ハ滞在越年

安政七年庚申

後萬延ト改元

- 二月十二日廉作サツマ行
- 十七日薩藩田中直之進君來訪江戶ノ密策景明日ク(朱書)是櫻田一舉ノヲナリ承ル路費不足ノ趣ニ付之ヲ弁ス大急歸國トノ事ニ付大里迄漁船ニテ送リス

- 廿二日高崎翁歸薩ニ付滯薩ノ廉作へ一書言傳ル
- 廿六日堀仲左衛門君來駕過ル十九日出立ノ由廉作田中ナドイマダ着薩不仕内出國ノ由今夜止宿翌廿七日上坂
- 廿九日宮崎筑前行
- 三月二日筑前工藤君ヨリ飛脚來ル製練所産物一條ニ付早々致出筑候様ニ申來ル同五日宮崎ヨリモ態々飛脚ニテ申來ル
- 五日夜正一郎直様大里へワタリ今夜富野正一郎(朱書)妻ノ家本小倉城外一里ニアリへ一宿同七日福岡着
- 八日工藤君ノ周旋ニテ御用人吉永源八郎君へ行談話馳走有之
- 九日宮崎ノ實父何某及舍弟ナド旅宿へ尋來リ種々饗應有之
- 同日工藤氏誘引ニテ澤原與左衛門君宅へ行熊谷丈平清水正平入江勝四郎大内左内等ノ諸君ニ逢大ニ馳走有之此衆ハミナ製練所御産物懸りの役人ナリ

- 同十一日製練所諸品見ニ行
- 十五日戸田六郎小田部龍右衛門平山宇八郎ノ三士旅宿へ來訪夜ニ入北條右門君姫シマヨリ渡海ニテヲノレガ旅宿へ入來
- 十六日高橋亭ニテ工藤北條ノ兩士ヨリ別盃ノマウケ有之同日晝過福岡出立宮崎同道ニテ十七日歸關今日新宮船岩城氏着關
- 十七日正一郎歸宅ニテ承ル去ル六日薩州田中直之進君來リ先日ノ金子返却手紙一通殘シ有之其内ニ高崎猪太郎君ヨリノ書翰又大久保君大久保利通公ヨリ宮崎へノ書狀モ有之直様宮崎へ渡ス扱田中ハ其翌七日出帆上坂ノ由
- 十八日馬關凡聞江戸先達而騒動有之由承リ直様宮崎ヲ阿彌陀寺町ノ狀屋御手洗屋迄遣シ實否聞合セ候處伊井櫻田ニテ殺害ニ逢候由水藩十七人ト申事ナリ翌十九日右ノ風聞ヲ薩州ニ爲知狀數通仕出ス宮崎分モ入組宮船へ相頼

- 廿四日薩州君公江戸登リ御延引ノヨシ承ル
- 廿七日サツマ田中直之進君昨日あみだしニテ認置クレシ狀トテ今日着改名田邊三八ト有之宮崎直様小倉へワタリ田中へ逢取
- 閏三月七日筑前福岡ヨリ廉作來書サツマ御買入米ノ事申來ル
- 十日備中ノ商人二人サツマヨリ歸リ來ル福岡ニテ廉作ヨリ狀言傳リ持來ル
- 十二日僕嘉吉筑前ヨリカヘル宮崎ノ事ヤカマシキ趣承リカヘル
- 十三日高崎翁ト廉作黒崎船ニテ歸關宮崎事春風樓ニ潜伏頼遣ス夜ニ入此方へ呼取ナリ筑ノ鷹取養巴ヨリ來書宮崎届入組有
- 十五日筑前産物役人入江勝四郎入來今夜宮崎ヲ又々春風樓へ預ケル廉作進行同廿日入江歸筑
- 十六日サツマノ伊牟田尙平君來訪關山糺君同船ノ由承リ候ニ付翌十七日關山氏ヲ迎ニ遣シ候得共無程出帆故ニ入來ナシ

- 廿二日宮崎春風樓ヨリカヘル
- 廿六日高崎翁歸薩今日筥船新役中馬廉四郎殿宮城源七郎殿入來今日晝過目明仁作來筑前盜賊方淺井大藏外壺人筑前ノ目明モ付添平野二郎尋方トシテ來ル
- 廿七日朝仁作方へ滞留ノ筑前ノ目明綱ヤ勘右衛門ヲ手先ノ長二郎連來リ平野二郎ガ事猶又委ク尋候故程克申置
- 四月二日廉作筑前行
- 十一日彦根家中少々馬關へ入込居候由風聞
- 十八日正一郎新地會所ノ乃美織部君ノ所ニテ一酌中竹崎目明仁作乃美氏へ尋來リ申様薩州ノ田中直之進事京都中野甚介ヨリ尋方トシテ馬關ノ目明松屋久吉并私へモ嘗テ人相書ヲ以頼來リ候段其書面ヲ持參相尋候故此方ハ一切不存人ト相答置候
- 十九日竹崎目明仁作ハジメ博多ノ目明綱ヤ勘右衛門其外手先トモ來備

中ヨリ歸リ懸のヨシ平野二郎ガ事又々尋候故程能申述置今日サツ高崎翁へ出狀昨日ノ人相書ノ事申遣ス今夜廉作チク前ヨリカヘル

- 廿五日筑前ヨリ工藤君入來止宿
- 廿八日工藤君歸筑
- 五月八日目明仁作ト手先八百ヤ林三ト來ル筑前ヨリノ書狀ヲ以平野二郎事又々尋來ル
- 十二日宮崎薩行路費金少許差贈
- 十八日肥後藩上松已八堤左衛門ノ兩人來訪轟武兵衛川上彦齊ノ添書持參翌日歸ル
- 廿八日福岡ヨリ高橋ヤ勘六宮崎ノ妾召連來ル六月二日勘六歸筑
- 六月七日筑前藤四郎來ル
- 十八日サツマ高崎猪太郎君ヨリ廉作へ來書
- 廿五日宮崎肥後ヨリノ書翰二通春風樓ヨリ持來ル

- 七月十二日薩州高崎君ヨリ過ル四日出之狀着同日此方ヨリモ書狀數通入組筈船岩城氏へ頼送リ出ス
- 十三日肥後熊本ヨリ宮崎ノ書翰二通着山形典二郎へ潜居之處當時町宿ニ相成候由申來ル
- 十八日肥後ノ宮崎へ返書仕出ス藤井五兵衛ト云名當ニスル
- 廿六日サツマ稅處喜三左衛門君來訪翌日歸省
- 八月九日サツマ高崎善兵衛君ヨリ來書七月廿九日出ナリ
- 十一日宮崎肥後ヨリカヘリ來ル翌十二日妾お秀へ宮崎ノ書面ヲ以歸筑ノ事申聞ル同十三日お秀歸筑ス
- 十六日目明仁作同松屋久吉八百ヤ林三ナド來平野二郎ノ事相尋候故此五六日以前筑前相ノシマ漁船ニ乘來リ直様又其船ニテ旅行ノ由申テ致出帆候尤當家へ凡半時バカリ上リ居食事ナド仕舞旅費不足ノヨシ申ニ付金少許相渡コリニツ預リ居候段申聞ル

○十七日廉作筑前工藤氏へ行今日晝過筑前盜賊方宮園令助山本駒太兩人來ル平野二郎入魂ノ由來相尋候故凡三年前ヨリ懇意ニ相成候次第相咄候處兩人申様當春同役之者參上之節此後二郎御宅へ參リ候ハ、御留メ置仁作方へ爲御知被下候様御頼申置候處此度無其義ハ御園被成候様相見へ候ナド怨言申述候故御尤ニ候得共二郎先年來懇意ニ致來候テ人柄強テ惡人トモ見へ不申候ニ付筑前様ヨリ貴君兼々御尋之有之ハ何等ノ惡事ヲ被犯候哉ト二郎へ相尋候得ドモ犯シタル罪ノ覺モ無之ト申ニ付當春御同役方へ仁作ヲ以テ二郎義イカナル罪人カト御尋申サセ候得共何ト云罪ノ御存モ無之只々御詮儀被成候トノ御事故旁以強テノ罪人ニテモ有之間敷且此度二郎久敷振ニ參候處ヲ態々留置仁作へ爲相知仁作ヨリ御國へ注進シテ其末於當家召捕ラセ候テハ何トモ不人情ニ相當且ハ薩州ノ高崎氏ヨリ兼而被相頼候事柄モ有之旁以其通りニハ難仕ニ付不答ニ及申候ト相答申候然ル處二郎ノ荷物ノコリニツ御預リノ分ハ人

ヲ以テ取ニ參リ候トモ御渡シ不被下様ニト申ニ付心得候ト返答イタシ
候所無程兩人罷歸候

○八月廿日今夜宮崎ヲ春風樓へ潜居爲致候

○廿一日竹崎在番役渡邊氏ヨリ正一郎呼出シ有之罷出候處宮崎一條ノ尋
有之候故委敷申述候此渡邊氏ハ勤王家ナリ今夜及深更宮崎此方へ歸
ル

○廿二日平野二郎ヨリ預リ置候コリニツ筑前盜賊方へ引渡シ請取一筆取
置候様在番ヨリ取計ラウ同廿三日廉作筑前行

○廿八日薩州高橋新八君平野ヲ尋テ入來高崎猪太郎君ヨリ添書持參ニ付
茶室ニ通シ平野へ逢ハスル

○九月一日薩州高崎猪太郎君ヨリ廉作へ來書

○五日宮崎ヲ二階潜匿サスル

○六日高崎猪太郎君ヨリ又廉作へ來書

○廿一日高橋新八君下向ノヨシニテ來訪今夜止宿廿二日出立同日肥後川
上ヨリ來書江戸ヨリ仁牟田尙平來書

○廿八日薩ノ稅處喜三左衛門殿大坂ヨリ下リ懸入來直様歸サツ廉作筑前
ニテ相待并高橋新八君ハ南肥ニテ相待居候等ノ事知ラセ宮崎ノ肥後書
付モ相渡申候

○十一月五日肥後木原楮太ト云人ヨリ平野二郎へ届ノ狀送り來ル

○九日平野二郎一件此節又々尋方嚴敷困リ入候故急飛脚ヲ筑前へ遣シ廉
作へ申遣スタ方新地ノ目明源三來平野一條何角トヤカマシク申候得共
此方其後ノ行衛不存故筑ノ盜賊方へ程克申吳候様申聞セ置候同十三日
平野二郎一件ニ付竹崎町方役石田へ口書ヲ差出ス同十六日廉作歸ル
十九日夜俄ニ町方役所へ呼出シ有之罷出候處平野一件筑前盜賊方六ツ
ヶ敷申趣承ル及深更目明仁作來ル

○十二月十三日筑前ヨリ池野永太ト云モノ平野二郎一條尋方ニ來ル及相

對程々ニ申置候

萬延二年辛酉

後文久ト改元

- 正月十五日筑前盜賊方池野永太平野事ニ付テ來ル
- 二月四日薩州町田直五郎君來訪
- 五日同藩橋口傳藏君入來
- 十四日笠船新役川上作右衛門君來ル
- 廿六日肥後堤松左衛門宮崎ノ書翰持來ル
- 六月十二日高崎猪太郎君ヨリ來書兼而懇願一條何トカ可被仰付趣内意申來ル
- 七月五日廉作筑前ヨリ來書薩ノ堀君ト高崎猪太郎君ノ書狀入組有之吉事ナリ
- 十日廉作筑前ヨリカヘル
- 八月十一日サツマノ馬關出役笠船川上氏ヨリ御用達被申付候

- 廿八日廉作出立サツマ行
- 九月十三日高崎翁ヨリ來書早々下薩候様申來ル
- 十月十日薩州井上彌八郎君井上右近君上下五人入來止宿同十二日上坂
- 廿日夜ニ入堀仲左衛門君入來次郎ト改名急御用ニテ出府ノヨシサツマノ事何角ト御咄シ承ル今夜止宿
- 十一月七日薩樺山三圓君來駕江戸下リノ由京都ニテ井上彌八郎君へ逢廉作サツマ行ノ事モ御存ニテ當時ノ形勢何角ト御咄シ承ル萩前田君へ一書托セラレ候間新地會所ヨリ送り出ス
- 廿七日伊牟田尙平外二人來ル翌日出立金少許ト玉ノ眞柱ニサツカス
- 十二月一日夜ニ入サツマヨリ僕良吉カヘル御客有之段シラセ一步先キニ歸ル
- 二日晝前大里船三艘ニテ廉作歸リ來ル森山新藏君及波江野休右衛門同道金貳万四千五百兩持歸ル右ノ内三千金當家へ拜借被仰付貳万金ハ米

御買入ノ御手當千五百兩ハ早船十艘御造立ノ御手當ナリ

○五日森山新藏君歸薩波江野ハ滞在追テ歸薩ス

文久二年壬戌

○正月五日薩州大久保一藏君上下四人來駕急ニ御上京ナリ

○六日波江野ヨリ急飛脚ヲ以米買入ノ事申來ル

○十一日波江野來關

○二月一日肥後藩松田十介ト云人來訪

○二日大久保君下向波江野隨從シテ大里へ渡海ス

○四日薩藩柴山愛二郎橋口壯介ノ兩君來訪同○次行へ續タカ

○五日出帆上方行

○十日同藩町田直五郎君江戸ヨリ下リ懸來訪路費拂底ノ由ニ付金少々用立

○十六日久留米、牟田、大介、川崎、三郎、兩人入來兩人トモ變名ナリ牟田本名淵

上丹下川崎本名角照三郎ナリ

○十七日牟田萩へ行川崎小倉へ行京師ヨリ田中河内介ノ下向ヲ相待故ナリ

○同日久藩大鳥居利兵衛ト云人父子上方行トシテ入來

○十八日先達テ目明仁作ノ世話ニテ當地ニ致開業候醫者池田何某ト云モノ來リテ久藩ヨリ來客ハ無之哉ト相尋候マハシモノトミユル

○廿日久藩原道太荒卷羊三郎兩人平野二郎ヨリノ添書持參ニ付潜伏爲致置昨十九日馬關ニテ久藩大鳥居父子被召捕候由今日駕籠ニテ久留米へ警固連歸候途中黑崎驛ニテ大鳥居致割腹候由相聞候殘念之次第ナリ此セツ久藩正義黨二十人余名出國イタシ俗論大沸騰ノヨシ承ル依之此間萩へ行候牟田ト小倉へユキ候川崎ナドノ事無心ニ付急飛脚ヲ以萩ト小倉へ内應ス小倉へ五兵衛萩へ嘉吉サシ遣ス尤此節ノ事故手紙ハ不遣兩人トモ口上申含遣スナリ

- 二月廿一日久留米盜賊方清末へ願出候ヨシニテ竹崎在番渡邊ヨリ牟田川崎ノ事尋方有之ニ付程々ニ申述置候是ハ目明仁作ナドノ差圖シテ久留米ノ盜賊方清末へ願出候事トミユル
- 廿三日萩ヨリ松浦龜太郎ト云人來ル變名松田和介ト云久阪玄瑞君ノ書狀持參此節ノ一條聞合セノ爲ナリ段々咄シノ上久藩潜伏ノ兩士へ引合セ談示相濟盡ヨリ歸萩
- 廿六日新地會所内廻リ山本春平來牟田川崎ノ事相尋候故形行荒マシ申聞セル
- 廿九日夜ニ入薩州ヨリ森山新藏君波江野休右衛門金子持參買入米代ノ引當ナリ森山君ヨリ町田直五郎君ノ手紙並返却金入組來候分受取
- 三月一日萩ヨリ松浦龜太郎來ル
- 四日萩ヨリ土屋矢之助君來ル山本春平同行ナリ夜ニ入山本春平又來ル御世帶方竹内正兵衛君小生へ御逢被成度之旨申來ル早速御旅宿へ罷出

- 候處他藩人ト御酒宴中ニテ小子モ二三杯傾ケ夫ヨリ別席にて此節ノ一件御尋有之候故極密久藩士ヨリ承候事件申上縮ル所 御兩殿様御在江戸不宜一日モ早ク御歸國被遊候様ニト申上置候
- 五日竹内君御滯關ニテ萩表前田君へ御報知ニ相成其狀山本春平早駕籠ニテ萩へ持カヘル
- 六日竹内君來訪ニ付此度ノサツ州ノ一條委ク申上候處大ニ御喜ナリ同日晝過土屋氏來訪薩ノ事情其外凡申聞置候江戸ニテ内山万之介切腹ノ書置持參ニ付一見ス今日サツマノ森山君へ久藩ノ兩士引合ス
- 八日夜ニ入山本春平ヨリ來書急ニ新地會所御殿へ參リ吳候様トノ義ニ付直様罷出候處久芳内記君竹内君御兩人ヨリ此度ノ一條御丁寧ニ御挨拶被仰聞猶又今夜通シ中村文右衛門出關ノ筈ニ付引合セ置度トノ御事然ル處今夜中村氏終出關無之ニ付夜八ツ時正一郎歸宅ス
- 九日今夕竹内君歸萩

○十日山本春平時山清之進來リ此節ノ事情相尋候故申聞セル
 ○十一日中村文右衛門君伊崎ノ小門ニ游行トシテ當家ノ濱門ノ下タニ船ヲ付ラレヲノレヲ乗セ船中ニテ此度ノ様子委シク被相尋候故諸事及談話候

○十二日夕土屋來關近日周布氏出關可有之旨承本藩大ニ奮起ノヨシ承ル
 ○三月十四日新地會所御用達被申付候段竹崎町方役所ヨリ達シ有之今日久坂君來訪薩ノ森山へ引合ス談話中土屋氏來一席ニテ各長談

○十五日夕久坂君來駕土州ノ吉村虎太郎ト云人同道ナリ今夜吉村止宿

○十六日夕久坂君來駕今夜止宿然ル處夜半頃萩士栗原良藏君サツマヨリ歸リガケ入來ニテ久坂君ヲ連テ他へ行

○十七日久坂君來駕サツマノ事情栗原ヨリ承候處モ大体同様ノ由被申久坂君晝夜通シ歸萩

○十九日薩ノ井上彌八郎君來駕 泉州様十六日御發駕被遊候由猶又。大嶋

廿一二日頃着關トノ義承ル 景明(大嶋トハ四郷君南)云フ(洲先生ノ事ナリ)

○廿日土屋氏入來又山田又助君入來サツ人へ逢度トノ事ニ付井上森山ニ引合ス又丙辰丸ノ船將松島君來駕各一同一席ニテユル々談話其末アミダジノ大早船壹艘カリ切ニテ松島君上坂其便ニサツノ井上彌八郎君上下久藩人潜伏ノ原荒卷モ登ル

○廿一日サツノ蒸氣船馬關入津曾山九兵衛君森山ヲ尋テ來ル曾山ハ蒸氣乗組ノ由ナリ夜ニ入豊後岡ノ藩小川彌右衛門君入來筑ノ平野二郎同道ナリ座敷ニテ山田森山曾山各一席ニテ大會ナリ岡藩赤野何某大里ヘツタル明朝多人數迎取ル手筈ナリ

○廿二日曉薩ノ大嶋君村田新八君同道入來森山氏ト閑談數刻酒店ノ二階へ止宿ナリ今日平野二郎へ餞別トシテ太刀一振金少許ヲ贈ル坐敷ニテ岡藩へ別盃ス凡上下二十人斗ナリ

○廿三日高崎猪太郎君へ別盃ヲ出ス今日山田又助君ヨリ來書村田二郎三

郎出關之處御目附役故ニ白石方へ難罷出ニ付正一郎何卒新地旅宿迄來
吳候様トノ御事故罷出夜ニ入迄及談話候

○廿四日山田又助君急ニ上坂土屋氏急歸萩同日肥後藩ノ森武平來訪廉作
逢彼國モ奮シヨシ承ル

○廿五日久坂君來駕公然ト上京ノヨシニテ暇乞ニ御出ナリ

○廿六日秋月藩海賀宮門來訪廉作逢取

○廿七日薩州小松帶刀君着關夜ニ入同藩奈良原喜八郎君有嶋五兵衛君兩
人來訪

○廿八日早天廉作黑崎ヨリカヘル薩ノ有馬新七君田中謙介君直之進來訪
サテ晝時分ヨリ正一郎廉作并波江野休右衛門同道ニテ出關 泉州様御
迎トシテナリ馬關ニテ此方ノ旅宿大坂ヤ勝兵衛方へ着献上モノ白木酒
樽ニツ白木折ニ鮮鯛二尾白木折ニ昆布三把用意シ麻上下着用御本陣佐
甲へ行御用部屋ノ書役四本助之丞君取次ニテ献上相濟夫ヨリ夜ニ入大

久保君ノ旅宿へ行此節ノ事情書差出ス是ハ黑崎へ廉作御出迎之時被申
付候故ニ御本陣ヨリ急御用申來早船之内壹艘三日切リ船マシニソ大坂
迄仕出之事ニ申付候アトノ七艘モ悉三日切室上リノ御沙汰相成候夕方
三雲東一郎君大脇祐九郎君旅宿へ被相尋候間一酌差出ス又夜ニ入吉井
仲介君高崎佐太郎君兩人御出同斷

○卅日竹崎宿本ヨリ爲知來ル昨夜及深更有馬新七君高崎佐太郎君御出ニ
テ森山新五左衛門其外四人國元亡命之段密々爲知ニ御出ナリト申來ル
今日高崎猪太郎君ヨリ菊油一瓶橙波油一瓶被貼候新地内廻リ山本春平
へ薩士亡命ノ五人潜伏之事談示見候得共六ツカシク申ニ付其段高崎佐
太郎君へ返答ス然ル處此上ハ右之五人着關次第密ニ上方へ參候様申通
ツノ義被托承諾ス今日金五百疋献上モノ、御挨拶トシテ頂戴被仰付候
今晝大久保君急御用ニテ御乗船上方行今夜筈船堀平太左衛門君高山方
へ出張居テ呼ニ參候間罷出候處サツノ脱走ノ五士ヲ潜伏爲致居候様ニ

疑ハレ候故決テ左様ノ儀無之段及返答候此筈船ナドハ俗吏トミユル

○四月一日四ツ半頃御乗船御門前ニテ御供目附山口彦五郎君ヨリ當地御用達白石ト正一郎廉作兩名披露有之候朝ノ間廉作ト波江野上坂ノ御沙汰有之候所俄ニ御差留相成リ吉井仲介君ヨリ在筑ノ工藤北條兩君宛書狀御托シ相成候正一郎夕方歸宅

○二日萩ヨリ土屋君來訪今日在筑ノ工藤君來關天氣次第上坂トノ事

○三日福岡ノ高橋や平左衛門來リ肥後藩夜白通行三十八人浦賀行ノ由ニテ人足百五拾人馬四拾八疋先觸參候トノ義承ル早速新地ノ内廻リ谷村へ爲知遣ス今日秋月侯モ船ニテ上坂ノ所風アシク伊勢へ廻ル

○四日秋月藩時枝作内ト云人來訪廉作逢此節ノ事情相尋ラレ候得共何モ不存ト返答ス同日サツノ御召船此方下ニ廻ル

○六日秋月船出帆登ルサツマ船出帆下タル

○七日山本春平出關京師ヨリ周布政之介君長井雅樂ノ說ナド申來候趣ニ

テ萩二派ニ相成混雜ノ由土屋ヨリノ手紙持來ル

○九日工藤左門君へ別盃ス今日出帆上坂ナリ

○十三日今夜岡藩後藤喜左衛門ト云人來廉作逢

○十四日又後藤入來正一郎相對何角ト被相尋候得共不申聞候但シ先日宮崎司同道飯田槌兵衛ト云人來其日出帆凡十四五人ト申置候

○十七日土州人三人來ル北山登大野武八郎安並勇之介各變名ノ由ナリ此節ノ様子相尋候故存居候文荒々申聞セル

○廿二日徳山藩江村彦之進來訪止宿廿三日歸省

○廿五日大坂相場狀ニ申來ル京都所司代屋敷へ浪人三十人計亂入東町奉行切腹ノ由夜ニ入り萩土屋出關京師ノ事爲知來ル

○廿七日筑前侯馬關ヨリ御渡海御歸筑今朝目明仁作來リ平野二郎事御道中御供之處馬關ニテウントウ船ヲ見ヨトノ仰ニテ船ニ乗入ル處ヲ御召捕ニ相成候ヨシ申來ル

(未書)
 今曉人アリ類ニ景明カ門ヲ叩ク起テ之レヲミレハ平野氏ナリ氏ノ曰ク今般大藏谷ニ於テ舊主ニ謁シ江戸下向ノヲ不可然云々時勢ヲ論シ止メタル所候ニモ之ヲ善シ俄ニ彼ノ地ヨリ病氣ヲ唱ヘ引返シ歸國ニ決シタリ故ニ予モ君側ニ侍シ歸國ス是レヨリ筑前モ大ニ奮ハン幸ニ昨夜君侯長府止宿ニテ君ニ逢フヲ得タリ因テ此ノ願末ヲ白石へ通知イダシ吳レ云々ニテ門ヲ出ラツ其後馬關渡海ノ節如此ノ景況ニ至レリ是亦奸人ノ所爲ニ出タルナラシ讀テ茲ニ到リ懷舊ノ感アリ故ニ因ニ記ス

○五月一日萩土屋氏來訪今日萩ヨリ飛脚來候由ニテ内翰京師ノ様子爲知ニ吳候又大坂ヨリ波江野僕藤介下リ來ル工藤君ノ内翰 勅書寫シ等入組來ル

○八日土屋氏ヨリ來書江戸ノ様子爲知來ル

○九日工藤君ヨリ來書四月廿六日出ナリ伏水ニテ薩士奮發即死九人有之ヨシ猶爲鎮靜工藤カヒ留置候由筑前吉永源八郎君へ爲知ノ狀入組來ル翌日菊三サシ立爲持遣ス伏水ノ事萩土屋へ爲知ル

○廿二日大坂ヨリ波江野狀來ル 泉州様近日江戸御下向ノヨシ 勅使大原三位様御一同ト申事至テ御混雜ノ趣ナリト申來ル

○廿四日廉作筑前福岡行サツノ御買入ノ若松米受取一件ナリ

○廿七日大坂ヨリ波江野狀著御買米積取方ニ付林休左衛門君懸リ役ニ相成近日一同ニ下向トノ事申來ル

○六月十三日大坂ヨリ萩土屋氏ノ狀著京攝ノ事情委シク申來ル

○十五日廉作庫之進藤介ヲ召連御米船ニテ上坂

○十六日秋月藩神木小介ト云人來春來滯京ノ由京ノ事情承ル

○廿六日波江野著林休左衛門君其外付役ス上下六人下向滯在

○七月九日薩ノ御買入米神宮司藏ヲハジメ請取方今日ヨリ始ル本山ノ藤

曲リ船へ積入ル、夜ニ入筑前ヨリ北條右門君入來

○十日北條氏ヨリ刀一本受取ル是ハ廉作呼子や某ヨリモラヒ候分也

○十九日廉作庫之進上方ヨリカヘル井上彌八郎君同船

○廿七日管船堀平左衛門君ト及議談候

○八月五日今日モ管船堀氏ヨリ呼ニ來リ罷出論ス

○十一日北條井上出帆上京

- 十二日清末渡邊氏ヨリ密書來ル其返答ニ上方ノ事情嶋田左兵衛大尉殺害ニ逢候トノ爲知遣ス
- 閏八月三日薩ノ林休左衛門君廉作其外付役等今日ヨリ筑前行
- 十三日萩松嶋剛藏君來賀上方ノ事情承ル
- 九月二日大坂ヨリ波江野來書 三郎様兵庫ヨリ蒸汽船へ御乗込ノ由又本間精一郎宇郷玄蕃殺害梟首ノ由爲知來ル薩ノ蒸汽船今夕通行下タル
- 六日徳山ヨリ遠藤貞一事情聞合ニ來今夜止宿
- 十日林休左衛門君廉作波江野上坂
- 十九日長府ヨリ大庭事情聞合ニ來
- 廿一日長府西太郎二郎ヨリ又同斷大庭へ申聞置候段返答ス
- 廿二日サツノ田中新兵衛下リ來ル十九日大坂出帆ノ由廉作ヨリノ書翰持來ル京師之事情田中ヨリ委ク承ル薩長土三藩ヨリ御願書ノ寫並目明文吉誅戮ノ罪狀等見ル今夜田中止宿翌朝歸ル

- 廿三日京師ヨリノ新聞二ヶ條新地ノ本ノ役並長府大庭へモ爲知遣ス
- 廿六日土屋矢之介君ヨリ大坂廿日出之廉作書翰送り來ル萩ノ直横目ト御用所ノ手付ト兩人來ル明日ヨリ薩州行ノ由談話及數刻土屋小七郎吉田治右衛門ナリ
- 廿八日薩ノ小松君上京馬關へ繋船今曉出帆京師ヨリ北條右門君來書村山齊介ト改名ナリ同日萩土屋氏入來大坂ニテ宍戸前田ノ兩士白石事米ニテ損亡致難澁居候由御深切ニ何角ト御談示有之候由承ルイヨク差ツマリ候ハ、救ヒ可遣之旨内分ニテ新地都合役林奎君へ御傳言有之候トノ義士屋氏ヨリ承ル
- 十月十日サツノ工藤君下リ來ル急御用ニテ歸薩ノ由此方ノ爲ニ 長州様ヨリ拜借金ノ事取持被吳候由承ル
- 十四日徳山遠藤貞一ヨリ來書長井雅樂建白書并弁駁書等ノ寫入組來ル
- 十六日林休左衛門君廉作等大坂ヨリ下リ來ル

○十九日土州藩谷守部ト云人^{十六}才樋口真吉ト云人^{四十}才兩人來訪九州ヨリ歸途ノ由此度肥後へ傳法輪三條様ノ御書持行キ君側ノ叢作左衛門へ相渡置候由肥後ヲ始メ九州諸侯方ノ事承ル

○廿日萩土屋氏ノ門人竹下孝吉ト云モノ肥後ノ上リ來ル其譯ハ岡藩ノ小河彌右衛門ノ徒不殘嚴譴之由夫ニテハ第一違 勅ノ罪ニ當且岡侯出府ノツモリニテ過ル十四日發駕ノ由廿五六日頃伏水著ノ筈ニ付其節薩長土三藩ヨリ喰ヒ留メ申度小河ナド殘ラズ赦免相成候様周旋ノ儀申來候土屋ヨリハ在京ノ長藩宍戸前田北條へ申參候ニ付白石ヨリモ在京ノサツ藩村山ナドへ申込吳候様申來ル右ニ付直様一筆相認仕出ス尤上封ヲ林休左衛門君へ頼薩ノ御用狀ニシテ三日切ニ仕出ス同日サツマヨリ町田助十郎君其外來關

○二十一日町田助十郎君ヨリ大久保君ノ書翰請取ル御米積下シ一件ナリ
○二十五日サツマヨリ田中新兵衛登リ來ル森山新藏君ノカタミトノ硯一

面新六郎君ヨリ送り來ル

○廿六日林休左衛門君手付トモ上坂出帆今日サツマヨリ藤井良節君上リ來ル^{工藤左門}此節白石ノ難澁ノ次第荒マシ大久保へモ申述置内々御聽ニモ入置候トノ事ナリ

○廿七日京師萩ノ御役人前田君へ二千金拜借願書相認藤井君へ相頼藤井出帆

○十一月九日久藩半田門吉田島清九郎來訪土屋矢之介君同道大里ヨリ渡海原道太ヨリノ添書持參ル右兩人上京

○十二日久藩園田三津二來リ止宿

○十三日萩ヨリ山縣小介時山直八ノ兩君來訪九州行ノ由土屋ノ事モ尋候故一兩日已前ニ歸萩ト申聞候

○十四日又々山縣時山兩君來リ晝ヨリ小倉へ渡海ノ由此節小倉藩内輪ハレ混雜ノ趣也嶋村ト啓二郎主ト説不和ノヨシ相聞ヘル

- 十八日薩ノ井上源八郎君小倉ヨリ來書岡藩小河一列御救方 宮様御憤
激被爲在岡侯不首尾トノ義申來ル
- 廿二日萩小田村君ヨリ來書近日來訪ノ積リ差合ハ無之哉トノ合ナリ
- 廿四日萩土屋ヨリ來書
- 廿五日サツ州町田助十郎君其外一同歸薩
- 廿七日萩ヨリ野村和作君來訪直様上京今夜オノレモ近日上京ニ決ス
- 廿八日小田村君長府ヨリ御出大庭倍隨ス無程長府藩粟屋族井上丹下磯
谷謙三井上藤藏重光盛之介諸君入來兼約有之トノ事ナリ座敷ニテ酒宴
中薩ノ加藤十三衛來訪各一席
- 廿九日山縣小介君九州ヨリ歸路入來豊後岡迄 行ノ由一應歸萩直様上
京ト申居候夜ニ入リ長府ヨリ金子四郎有川常槌來ル亡命上京ノ由
- 十二月一日金子有川兩人ヲ船ニテ三田尻迄送り遣ス
- 四日大庭ヨリ申來長府有志輩拾余人上京ニ付明朝出立ニテ御宅へ參リ

候間早船壹艘十六丁立カリ置吳候様頼來用意ス

- 五日朝一ノ宮ヨリ林郡平來又晝過井上金子大庭其外入來別盃ヲ出シ無
程出帆

- 十日正一郎乗船出帆僕豊助召連候同十五日大坂著宿尼太へ上ル薩ノ林
休左衛門君及波江野モ一昨日蒸汽船ニテ下向ノ由ニ付不逢小松帶刀君
同船ノ由ナリ扱長州屋敷へ行竹内君ヲ尋候得ドモ兵庫へ御出張中ニテ
不逢

- 十六日薩州屋敷御役人方へ廻勤夜ニ入三十石へ乗込高田喜三衛伏水迄
オクリ來ル

- 十七日曉伏水著サツマ用達北野や甚吉方へ止ル高田カタ馳走有之夫ヨ
リ大黒寺へ參ル薩州ノ義士當四月廿三日死亡ノ墓所へ香花ヲ手向ケ大
黒寺へ香典金二百匹サシ出ス扱伏水ニテ牛壹疋履ヒ荷物京へ差登ス扱
下男豊介宰領スオノレハ直様竹田街道ヨリ上京 御所ヲ拜シ東洞院四

條上ル藤井良節(工藤左門ノ子)君宅へ著サテ藤井ニテ小河彌右衛門君其外三人へ逢久藩ノ園田へモ逢長州様へ出願ノ拜借金ノ事千五百兩出來候由藤井ニテ承ル

○十八日前田君へ行懇願ノ次第申上候處兵庫ヨリ竹内歸京ノ上御詮議可被仰付トノ御事承ル夫ヨリ歸途長府方ノ出張所へ行大庭其外へ逢

○十九日小田村ヨリノ御案内トシテ大庭申來四條ボント町ニテ種々御馳走有之候合客長府三吉原田徳山江村大庭等ナリサツマノ田中新兵衛上京藤井氏へ同居

○廿二日藤井へ備中ノ三宅定太郎尋來ル今日兵庫ヨリ手代久兵衛上リ來米ノ上銀トメ金九拾兩受取

○廿三日 御勅使御歸京姉小路様ノ御供土州ノ武市半平太へ逢へ度田中新兵衛同道蹴上迄行弓矢ニテ田中用意ノ弁當ヲ開ク折柄佐久間佐兵衛君へ逢一席ニテ酒宴夕方藤井へ歸ル

○廿四日野村和作靖ノ子吉田榮太郎兩君來訪一酌ス

○廿五日薩ノ大久保君吉井君東行ニ付暇乞ニユク歸途前田君佐久間君村田二郎三郎君へ廻勤

○廿六日中村九郎君へ行

○廿七日田中新兵衛君同道ニテ結城筑後守君ヲ訪フ其末ハ新宅ニテ結城君ヨリ馳走有之

○廿八日藤井氏ニテ土州ノ平井收二郎君へ逢

○廿九日今日モ諸家へ廻勤夜ニ入祇園社へ參詣ス

文久三年癸亥

○正月元日辰刻麻上下着用近衛御殿へ行兼テ藤井君ヲ以願上置候 御參内ノ御供ナリ薩十一人オノレト都テ十二人ナリ御殿ニテ糞束ヲ著シ巳ノ刻御供シテ 御所へ行 參内殿ト申御殿ノ御階下迄行其處ノ土間ニウスベリ圓座ナド有テ其所ニ居レリ暫シテ雜掌衆五人御階ノ下タヨリ

二段目ニテ 御土器頂戴ニテ夫ヨリ各供ノ体足處ニテ晝飯わり子ヲ喰ヒ又元ノ如ク階下行テ相待事凡一時未ノ下刻御下リ被遊マヘノ如ク御供シテカヘル御歸途

準后御殿へ御上リ有之無程御歸殿被遊候其外一條様二條様鷹司様九條左將様是レハ近衛様ノ若殿ナリ月卿雲客御多人數御參 内被遊候ヲ奉拜見候サテオノレガ今日ノ御役名ハ隨身ト云役ノ由ナリ下ニカバ色ノキヌノ袍ヲ著シモエギノ布ノサシヌキヲ著ウヘニモエギノ袍ヲ著風折烏帽子ヲ冠太刀ヲ佩テ 殿下ノ御跡雜掌其次ニ供奉スルナリ御殿ニカヘリテ御薄茶御吸物御酒銘々引盃御肴數ノ子ユバ台ニノセテ松ト柳ト二本立リ台ハ白木ナリ御吸物膳ハ白木ノ角切逐シキナリ御飯モ頂戴茶碗ハ平タキ碗蓋ハカワラケナリサテ申ノ刻藤井氏ヘカヘル

○六日前田君行折柄竹内君中村君佐久間君ナド御談話中ノ由ニテ座敷へ通り候様トノ事ニ付罷出候處御馳走有之候

○七日大庭來小田村君正一郎ノ轉居ノ事ニテ御心配被成下候由承ル同日吉田榮太君來訪談話サテ吉田ト田中新兵衛オノレ三人同行ニテ祇園社へ參詣歸路長府ノ出張所へ立寄候處僕豊介國元ヨリノ書狀持來去月廿六日出ナリ廉作義目明ノ仁作ト及爭論其末御咎ニ相成候トノ事申來ル誠ニ仰天ナリ今日清末侯上京ノ由前田君ヨリ承ル

○八日朝大庭來ル廉作一條小田村君ト前田君ト御談示有之清末方へ御申遣シニ相成候様子承今夜木ヤ町三條小橋上ル路次龜ヤ某方へ轉宅ス

○十日久阪君へ逢

○十一日田中新兵衛同道豊後ヤ友七方へ行久阪君ヲ尋候得ドモ他行ノ由ニテ不逢夕方久阪君オノレガ宿へ來駕田中諸共一酌中猶崎由村兩君モ來ル

○十二日宇和島侯不評判ノ張紙有之由承ル

○十七日長州大守様ヨリ千五百金御カシ渡可被仰付候段御書付頂戴

- 廿日夜ニ入久阪君青門様ヨリ頂戴之御重箱ノ内御配分御惠送相成候
- 廿一日鹽鶴一羽銘酒嶋台壹斗献上村田二郎三郎君御取斗猶御見送りノ事明朝五ツ半御供揃ニ付其マヘニ御留守居部屋ヘ參居候様トノ御達
- 廿二日四ツ半頃 大殿様御發駕ト承リ參リ候處御延引之由ニ付一應下宿致候様時山直八君申聞候ニ付引受候然ル處夕方俄ニ御發輿被遊候ニ付上下著用丸町御屋敷境向之側ニ平伏候處名札ヲ以御用人ノ河内首令君御披露被成下御見送り相濟宿ヘ歸ル
- 廿四日在京ノ清末御役人ヘ廻勤
- 廿七日夕薩ノ山田孫一君來訪青蓮院宮様今日從 朝廷御還俗被仰付候由一橋ノ取持ト申事承ル
- 廿八日清末候京師御發駕御歸國
- 二月三日久阪君來訪田中ヘ傳言御申置ナリ關白鷹司殿ヘ三藩ヨリ入込ノ事議奏ヨリノ御氣付ニテ入込ハ相止メ諸藩ノ有志輩誰ニテモ申上度

- 事有之候ハ、毎日ニテモ殿下御逢被遊候間入込事ハ止メニ決着之段田中ヘ通シ吳候様土州之平井收二郎モ入込事ハ止メ了トノ事ニ申置候
- 七日土州屋敷ヘキリ首ヲ擲込ノヨシ評判承ル
 - 八日大庭同道大徳寺ヘ長府侯ノ御旅館ヘ行兼而御案内有之ニ付ナリ大造御馳走被仰付袴地ニ反頂戴ス國元ヨリ今日便リ有之廉作是迄親類預ケノ所先月廿八日歸宅被差免云々申來ル
 - 九日野村和作吉田榮太郎澄川ナド諸君來訪旅宿ニテ一酌
 - 十三日承ル久坂君ノ建白致徹底 御朝議ニ相成一昨夜議奏傳奏ハジメ公卿方六七名夜ニ入一橋ノ旅宿ヘ御出ニ相成終夜御談合攘夷彌四月廿日期限御評決相成候ヨシ
 - 廿二日木屋町ノ旅宿引拂荷物不殘藤井ヘ預ケ置明日ヨリ出立伊勢參宮ノ積ナリ今日村山齊介君ノ誘引ニテ梅ノ宮ヘ參ル大宴會
 - 廿三日京師出立伊勢參リ薩ノ井上信濃君同行僕豊介召連

- 廿六日八ツ時イセ孫福氏へ著
- 廿七日大御神樂奉獻金七兩二分献ズ
- 廿八日内宮様へ參ル夫ヨリ孫福氏へ歸リテ昨日奉獻ノ大御神樂奏行樂人男女九名ナリ相濟テ 外宮様へ參ル
- 廿九日イセ出立晦日月本ヨリ伊賀越ヲスル此節幕府上洛道中人留等有之故ナリ
- 三月三日歸京藤井氏へ著 御所御鬮鶏拜見ニ參候得共當年ハ京師へ入込人多クテ御廢止ニ相成候由ナリ
- 四日幕府上洛行列一見ニ三條高倉邊へ行大原三位殿先月廿五日御刷髮ノ由承ル
- 七日將軍參内至而質朴ノ体ナリ
- 十一日加茂 行幸拜見ニ罷出ル雨天ナリ
- 十五日藝州藩三人尋來渡邊三哲頼東三郎幹太郎ノオヒト云佐藤勘二郎等ナリ

- 十六日京師出立五條へ出高瀬舟へ乗込下ル
- 十七日大坂著
- 十八日サツ人一同黒崎船へ乗込
- 廿六日未明馬關著歸宅
- 四月一日毛利能州太夫惣奉行トシテ出關旅宿新地之林へ名札差出シ相勤ル但シオノレ地下役目所勤故ナリ其外出役衆ノ宿ニモ同斷今日晝過猶崎八十槌君來訪京師ヨリ中山公子御下向弊屋御旅宿ニ相成候由座敷掃除方被申付候大ニマゼクル夜ニ入山田卯右衛門君入來
- 二日中山侍從様御入被遊候宮城彦介君外二人御供今夜八ツ過公子俄ニ長府へ被遊御出候御太刀ハ御座ノ間ニ御置ニテ正一郎ノ刀廉作ノ短刀御用被遊候
- 八日夕公子再御來與御供宮城君小山寛平君山田田中等ナリ直様道崎イセ小方へ猶崎君ヲ呼ニ遣ス

- 九日中山様始御供方一同スデガ濱御遊覽正一郎御案内弁當用意ス夜ニ
- 入公子御激論有之鶏鳴頃又當家へ被遊御歸候
- 十日公子御絶食
- 十一日漸御機嫌直ル
- 十三日萩ヨリ土屋君來ル
- 十四日夜ニ入公子御立腹御カケ出シ被遊候アトヨリ宮崎猶崎土屋君ナ
ド行夜明ケ頃又當家へ被遊御歸候
- 十五日公子長府へ御出
- 十七日又清末へ御出夜ニ入被遊御歸候
- 廿一日新地出張ノ能登君手元役工藤半左衛門ト云人ヨリ正一郎呼ヒ來
罷出候處此度打拂御手當千五百人出張ノ筈ニテ陣屋御取立可相成之處
急速ノ間ニ合不申尤新地ノ人家明ケ渡シノ御内命ヲ蒙リ來候得共現場
御下方其義甚致迷惑候趣然ル處寺院新地エーケ寺ノ外無之大坪了圓寺

- 伊崎利慶寺海晏寺御カリ上可相成役人見分有之候尤兵糧焚出シノ義新
地ヨリ遠方ノ寺院ニテハ持運ビ不便理ニ付イ崎ノ二ヶ寺御カリ上相成
○度之處利慶寺ハ格別モ無之候得共海晏寺不折合ノ様子ナリ此事清末へ
申遣候テモ隙入可申ニ付貴様可及其取斗之旨被申付候故早速致其取斗
○清末ヨリ二ヶ寺へ御達シ相成候
- 廿五日山口ヨリ吉留音之介ト云人來ル常榮寺一件承ル
 - 廿七日晝本ノ手子藤村來リ俄ニ三十人出張ニ付竹崎長泉寺ヲカリ吳候
様申ニ付及取斗候久阪君始三十人斗著關相成候宿竹崎長泉寺
 - 廿八日長泉寺ニヲイテ久阪君へユル一談話夜ニ入久阪君七八名同行
ニテ御出ニ付一酌ス長府ヨリ原田粟屋大庭ナド來久阪君ト一席今夜止
宿
 - 廿九日俄ニ中山公子御來與被遊候處長泉寺へ出張之久坂君其外追々入
來公子ト談話

- 五月一日中山公子始久坂君其外四五人引嶋台場御見分トシテ御渡海萩ヨリ猶崎君出關
- 二日中山公子御氣分合晝能登君手元役工藤君入來廉作萩ヨリ歸ル宮城君出關
- 三日竹内君來駕中山公子へ御伺ナリ
- 四日中山公子七八人御供ニテ狐狩ニ御出被遊候晝過御歸館例ノ御激論出ル廉作ト小山寛平御不興ヲ蒙ル夕方ヨリ御酒宴有志輩二十人斗來ル水戸藩土州藩モ交ル
- 五日長泉寺ノ連中先日細江光明寺へ轉陣今日公子へ御伺トシテ光明寺ヨリ三十人斗入來大酒宴ニ相成
- 六日中山公子今日又狐狩ニ御出長府ヨリ御臘方來ル得物狐壹疋光明寺へ御持行被遊候
- 八日新地會所本ノ所ヨリ呼ヒ來參候處御貸金千五百兩ノ事昨夜御達ニ

相成候故證文認受取ニ參候様トノ事ナリ歸途竹内君ノ御旅宿へ出御禮申上置候今八ツ時ヨリ中山公子俄ニ久留米へ御出御供共上下八人

○九日竹内君御歸萩トテ御立寄ニ付一献差出ス肴澤山御惠ノ處折柄國司太夫杉森駿河君宮城君山田鶴太郎君ナド來駕各一席ナリ

○十日晝過異船田浦沖へ繫船イヨ／＼異船ニ無相違段夕方相知レ直様正一郎廉作支度シテ出ル正一郎ハ先ツ役頭ノ竹崎在番へ參リ候處届向自分ニ不罷出目明共ヲサシ遣シ且目明ドモノミ心配致シ大年寄被下カ、ル時役目ヲオロソカニイタシ畢竟予ヲ新役ト侮リ全体地下ノ者迄大年寄ヲ太切ニオモヒ殿様ヲ馬鹿ニスルナド、大立腹ナリ何ノ故カワカラネドモ察スル所清末へノ注達不都合ノミヲ案シ且ハ竹崎御殿へ町役ノモノ皆々相詰御殿ヲ可守筈トノミ思ヒ居候事ト被察實ニオカシキ男ナリ其言葉ニカ、ル時役目ヲサシ置内ニ居テ用向斗スルナラバ退役願書差出シ只今ニテモ取次トアマリノ大馬鹿者ニテ實ニアキレ果候オノレ

直様其席ニテ退役可願出カト相考候得トモ既ニ去年上京ノ留守中廉作ガ一件モ有之兄弟共ニ上ヲ蔑如スルナド惡評ヲ請候テモ面倒ト致堪忍候其マへ廉作ハ獨立攘夷ナド、云テ一步先ニ行オノレハカ、ル馬鹿役所ニ被引留殘念千萬ナリサテ暫在テ在番少シ心和ギ候様子ニ付小子只今ヨリ馬關ニ開合ニ可參カト伺候處在番大ニ喜ビ乍太義聞合セ吳候様尤異船ニハ幕府ノ添書持參ノ様子ナリサスレハ新地出張ノ能登殿決布打拂ハ有之間敷候但シ光明寺へ出張ノ銘々ハ申サバ浪人体ノモノニ付定テ打拂ト決定可致ニ付光明寺へハ尋ネヌ方ヨロシトノ差圖ナリ實ニ大因循時勢ヲモ不弁シテ只々己ガ小役目ヲ大切ニヲモヒ人ヲ見ル事甚クラキ男ナリサテ手先之者兩人召連飛ガゴトク龜山ノ台場ニ上リテミレハ大砲ヲカケ並べ凡十四五人靜リ居候故御打被成候哉ト相尋候處長府方惣奉行迫田伊勢之介差圖次第打拂可申ト相答候是ハオモシロシト相喜ビ夫ヨリ道崎ノ渡シ場へ出テ向ノ方ヲ見ヤレド暗夜ニテ船ハミエ

ズ其時道崎ヨリ凡三四十人ノ乗組船一艘沖ノ方へ出シカケタリ是則光明寺滞在ノ銘々ナリ庚申丸へ行趣ナリ夫ヨリ長府方ノ本陣引接寺ニ行テ玄關ニテ相尋候處迫田へ伺ノ上返答可仕トノ事ニ付暫相待候處財満小太郎ト云人出來リ申様向地へ居候夷船上リ下リサへ致候得バ彌打拂候併玉ガ、ケ遠ク候得バムダ事故打不申ト申ニ付此方ヨリ又尋ネニ承候得ハ幕ノ書翰ヲ持居候由夫ニ布モ御打被成候哉ト相尋候處財満某又奥へ行伺來申様タトへ幕ノ書翰ヲ持居候トモ五月十日期限ノ御沙汰ニ相成居其觸戻シ無之故打ニ相決候故返答承リ勇ミ進テ又飛ガゴトク歸竹在番飯田へ其旨申聞候處大ニ相喜ヒ暫シテ在番申様龜山下ヨリ久阪ナド蒸氣船へ乗込候始末ワカリ様ハ有之間敷哉ト申ニ付オノレ今一度行見可申ト申候處夫レハ毎度太義ナリト云直様手下役三四人召連行途中ヨリノ様子ハ此モノ共へ申聞セ歸ラセ可申オノレハ行詰迄見届候故今夜ハ歸リ申間敷ト申テ又々飛カ如ク檀浦へユク道ニテ大砲二三發ナ

ルト陪從ノ者ハ恐怖シテ遁失オノレ一人手挑灯ニテ檀浦上ヘノ台バヘ
行候處長府方各大砲ノ支度最中ナリサテ庚申丸ヨリ凡十四五發モ打出
シ又沖ノ方ヨリモ十二三發打出シ候是ハ異船ヨリノ砲トオモヒ居候處
後承リ候得バ癸亥丸ヨリ打シ砲ナリ夷船ヨリハ一發モ不打由庚辰癸亥
狹打ニ致候由ナリ扱無程久阪君ナド檀浦ヘ揚陸ニ付様子ヲ承候得バ夷
船ヘ三發當リ豊後地ヲサシテ遁レ行候由承ル扱各檀浦ヨリ引取ル翌朝
在番ヘ申出ルナリ

○十一日今夜久阪君ト宮城翁ト新地會所ヘ行能登君ヘ被及議論候由承ル

○十二日國司太夫松島君來島君久阪君宮城翁ナド來會大酒宴

○十四日本メ所ニテ拜借金千五百兩受取候扱宮城翁ニ托今夜能州太夫招
請ニ付一盃差出シ吳候様トノ義ニ付其用意スタ方ヨリ來駕四ツ時歸省
久阪來島松島福原清介兒玉少輔宮城正太郎長沼千熊等ノ諸君凡十一人
來遊

○十六日今晝竹崎目明仁作方ヘ招請ニ付正一郎廉作共ニ行是ハ去冬廉作
ト喧嘩其末當時ノ形勢ニ相成仁作無心元オモヒ候所ヨリ段々ト扱入有
之今日改心ヲ表スル爲ニ大ニ馳走有之候然ル處光明寺滞在ノ有志輩今
夜目明仁作ヲ誅戮スルトノ事土屋氏傳聞ニテ申來候然處母ヲ始メ家内
ノ者大ニ驚キモシ左様ノ事有之テハ此方ヨリ相企候様ニ相聞不宜トテ
手ヲ廻シ救取之儀申來候ナリオノレ大醉ノ處忽サメ大ニ心配イタシ其
末竹崎在番入江直人飯田源藏及内談ニ仁作事清末方ヨリ御召捕入牢
ノ手段ニ及談示其夜仁作直様繩付ニメ清末ヘヤラレ無事ニ致助命候
○十七日宮城翁土屋ノ内意ヲ聞仁作一件被相尋候故昨夜清末ヨリ御聞込
之筋ヲ以被召捕候段申述候處夫ニテ先無事ニ相濟候トノ事ナリ實ニ積
年筑前盜賊方ノ手引ヲシテ平野二郎ヲ始義士ノ徒ヲ苦シメ候奸惡者ナ
レドサスガニ改心シタルトオノレヲ招請中右等ノ事ニ及候テハ世間
ニモ不相濟故無事ニ仁作ガ首ヲ繼シハ聊隱德ナリ今日夕方中山公子久

- 留米ヨリ御歸リ久藩ヨリ五六人付添來ル今夜凡二十余人ニテ一席ニテ
大宴及深更久阪君ト久藩山田辰三郎淵上郁太郎三人山口行今夜豊前田
町ニ居候京駒ト云惡モノ殺害ニ逢
- 十八日山本孝兵衛今日此方へ致出入候井石取持ナリ
- 廿一日別家白石良右衛門ト凡十ヶ年余不通ノ處今日致和睦候テ別家一
家内當家へ來ル
- 廿三日フランス船一艘通行合圖打出シ皆々出陣スサテ彼船ノトモヲ打
破ル又バツテ一ラ一艘流レヨル其外船ノ木屑數々流レヨルナリ彼ヨリ
モ三發打ナリ
- 廿四日國司太夫杉徳助君瀧土屋等久留米行夜ニ入横泉州來ル
- 廿五日楠公祭執行中山公子始久阪君并前田陣屋ノ詰合等大勢來會
- 廿六日オランダ船壹艘入津永福寺ノ台バヨリ打出シ及庚辰癸亥諸台場
ヨリ打出シ夷船ヨリモ三十發斗打出ス庚辰丸ヲ打貫佐甲ノ門内へ玉飛

- ビ來ル又ボンベン馬關繫船ノ商船へ當リ米俵燒亡又龜山ノ台場へモ前
田ノ台場へモ向ケテ打込候サレド此方ニ怪我少シモナシ此方ノ玉異船
へ六七發當リ破裂玉夷船へ打込夫ユヘカ船足オソク相成四ツ時豊前部
崎ノ岬ヲカ、リ遁去候今夕中山公子前田ノ台場へ御轉居被遊候
- 廿七日明日若殿様御出關被遊候ニ付座敷掃除致シ置候様來島君ヨリ被
申付大ニマゼクリ候サテ下宿ナドモ夫々手當ニ相成候
- 廿九日晝 御着被遊候無程長府侯御乗切ニテ御出夫ヨリ夕御膳モ不被
召上内御會議有之御家來中被爲召夜四ツ時御膳被召上候
- 晦日曉御目覺引島台バ御巡見ノ御支度其内ニ清末御出ニ相成中山公子
モ被成御出旁ニテ漸九ツ時バツテイラニテ弟子松へ御上リ被遊候今朝
正一郎廉作御目見被仰付御與番頭香川君御披露ノ時兼々勤王之志有之
段御満足ニ被思召候猶此上盡力候様ニトノ御儀香川君ヨリ被仰聞今日
若殿様ヨリ御家來中へ御酒頂戴被仰付其外御進物用旁上酒二十一挺御

買布サラシニ疋中山公子へ御進物又カツヲ百本御買上相成候

- 六月一日晝過 若殿様ウラ門ヨリバツテラへ御乗込被遊凡五六町御出船之處東沖ヨリ異船入津ニテ相圖打出シ候處無程御引返シ濱門ヨリ被遊御入候サテ頻ニ大砲打開へ廉作庫之進ハ疾出陣オノレハ御本陣故ニ在宿夷船ヨリオモニ壬戌丸ヲ的ニ打候由是ハ 若殿様御乗組ト云事ヲ知リテノ事カ壬戌丸ニ玉當リ多ク又庚辰癸亥ニモ玉當リ終ニ壬戌丸蒸氣釜ヲ打破ラレ熱湯ニテ即死四人イ崎ノ利吉ト云モノ水先相勤候處玉當リ即死スサテ 若殿様御引返シ直様御步行ニテイ崎日對山へ御上リ異船ノ様子被遊御覽候夕方御歸館被遊候 中山公子御出ニテ俄ニ御上京ノ御議論有之前田御茶ヤ滞在ノ銘々五六十人御供ニテ御上京被遊候中山公子ヨリモ 若殿様ヨリモ正一郎イロノ頂戴物被仰付候
- 二日若殿様御發駕今日ヨリ前田御台場築立ノ御加勢トシテ廉作庫之進發頭ニ相成竹崎ノ者二三十人召連行白木綿ノ小幟ニ報國盡忠一番竹崎

ト書付太鼓ヲ打毎日ノ出勤ス扱追々新地イ崎今浦邊ヨリモ人數相加リ候今日晝過宮城翁被申聞長府へ大庭ヲ呼ニ遣ス是ハキノウノ軍壬戌丸ヲ目ガケ打候ハ幕吏乗込居候半馬關ニ幕吏滞在モ難計狀屋ミタラヒ屋ヲ取シラベ候ト云手筈ナリ

- 三日晝過久藩眞木外記原道太荒卷半三郎坂井傳二郎ノ四名ヲ瀧彌太郎君赤根幹之丞君同道ニテ來ル久藩四人ト瀧ト夜白通行宿駕籠ニテ上京今日大庭ヨリ爲知來ル明日長府候ヨリ小子四ツ時御用召トノ事ナリ
- 同四日長府へ罷出候處生涯三人扶持被下候御書付原田ヨリ被渡候
- 五日夷船二艘上方ヨリ入津フランスノ由先八軒やノ台場へ行向ヲミレバアメガクボへ繫船シテ長府及前田ノ台場へ向ケテ大砲打出シ追々大戰ニ相成前田ノ台場大砲損ジ夷人バツテラニテ上陸人家燒亡等大騒動ニ相成七ツ時分正一郎一寸歸宅ニテ尊大人御夫婦ト峯太郎ヲ一宮へ潜伏ノ致取斗要用ノ荷物少々送り置テ又出陣

○六日宮城氏出關ノ途中何者カ切カケ候由定而幕吏ナラントノ事夕方久留米ヨリ土屋君歸關久藩二十人斗上京今夜及深更高杉晉作君出關此方へ止宿

○八日高杉君當家ニテ奇兵隊取立相成正一郎廉作並井石綱右衛門山本孝兵衛ナド入隊ス晝高杉君其外船ニテ台場見分今日萩御役人ヨリ中山公子御滞在ノ御挨拶トシテ金六拾兩頂戴被仰付候今日薩州ヨリ聞合トシテ重野厚之丞川治正之進ノ兩君入來酒店ノ二階ニテ高杉君相對兩士今度大里渡リ歸省高杉晉作君始メテ奇兵隊ヲ正一郎ノ家ニ設立ス

○九日晝馬關田中町ニテ山田志広ト云モノヲ奇隊へ召捕來當家ニテシラベ有之并長府領ニ居候虛無僧一人又新地大塚柳齋尾崎禎介ナドモ同斷但シ此三人ハ無難ニテ被免候山田ハ縛セラル又崎陽ノモノ一人ミタライヤニ居候ヲ召捕來ル此者今夜目明へ預ケラル今晝藝州藩穂神輝門ト云モノ來赤根相對ニテ其末奇隊へ入隊ス久藩來直様上京淵上池尻茂四

郎山本實松浦八郎木原貞兼ノ五士ナリ山田志広今夜斬ラルベキ處ヲ漸申取救遣ス

○十日今日迄ニテ奇兵隊六十人余ニ相成

○十一日長府へ先日ノ御禮ニ可參ト支度中ニ相圖打出シ夷船入津ナリ直様奇隊出張長府ノ手前濱ノ方百町ト云處ノ濱邊ニ伏兵ス夷船長府沖ノ深淺ヲ試候ノミニテ出帆上方へ行戰爭ナシイキリスト云

○十二日長府へ御禮トシテ行御役人家へ廻勤ス

○十三日奇兵隊今日當家ヲ引拂ヒ不殘馬關へ陣取ニ相成候宮城翁其外小倉へ渡海昨夜與膳尙藏暗殺ニ逢候由

○十四日夕方宮城赤根兩君小倉ヨリ歸關

○十九日五カ久阪君京師ヨリ歸關來訪又々今夜ヨリ上京ノ由先達而京師ニテ姉小路様ヲ切り候者ハ薩ノ田中新兵衛ト申事久阪君ヨリ承ル波多野君モ來駕

- 十六日夕大村人渡邊昇千葉茂手木ト兩君來訪高杉君相對奇隊ヨリ又五人小倉へ行小倉ヨリモ三人歸省談示ノ上又々小倉へ被差立候田浦借用ノ一件ナリ
- 十七日大村人兩人出立歸省
- 十八日萩ヨリ坂上忠介秋良敦之介兩君九州へ御使ノ由ニテ來訪
- 廿日高杉君オノレ穗神内道前田臺場へ行
- 廿一日長藩三十人斗リ大阪ヨリ下ル
- 廿三日竹崎在番ヨリ正一郎奇兵隊御採用ノ達シ有之ニ付地下役目ノ儀ハ當分小林熊二郎へ取斗被仰付候トノ事
- 廿四日國司太夫高杉君波多野君廣澤山縣君正一郎廉作前田台場へ行加勢人ドモへ御酒被下前田村燒亡ノ百姓共へ米銀被下候奇兵隊ノ世話方井石綱右衛門へ帶刀被差免候ならや源兵衛徳本や彌吉山本孝兵衛ナドへ金貳百疋宛被下候今夜高杉君山口行赤根君田ノ浦ヨリ歸リ來ル

- 廿五日夜ニ入惣奉行國司殿ヨリ御招請申來正一郎廉作共ニ御旅宿へ行御馳走被仰付波多野君宮城翁山縣君御相伴ニテ其末段々御尋事有之ニ付氣付筋申上候尤富興行ノ事當分不宜段申上置候
- 廿八日宮城翁入來富興行ノ事ニ付正一郎ト善惡ヲ議論ス
- 廿九日高杉君山口ヨリ歸關來月四日御勅使山口へ御着トノ事承ル今晝徳山藩四人來訪坂伴之丞松岡修作山田小太郎渡邊新三郎等ナリ
- 七月二日清末侯御出浦惣奉行國司殿始高杉君宮城翁等竹崎御屋敷御殿へ出ラレ候長府方ヨリモ西藏人太夫熊野清右衛門原田準二ナド同斷其時正一郎御座ノ間へ被爲召御酒頂戴御手自御酌被仰付恐入候御事ナリ
- 三日竹崎御殿へ出ル左ノ通り御達被仰付候

白石正一郎

右萩表ヨリ御所望被成度段御達ニ付則御達之通ニ申付候事

七月二日

別紙ノ趣ニ付早々山口表へ罷出候様トノ事

七月三日

右竹崎御殿ニオイテ在番飯田彈藏申渡候直様引取高杉君へ相伺候處明日ヨリ出山候様トノ事ニ付其用意ス晝過竹崎御殿ヨリ急ニ清末侯被爲召候段申參正一郎廉作トモ罷出候處御二ノ間ニオイテ御直ニ御言葉勤 王之儀兼々神妙トノ御褒詞被仰聞候猶又近日山口へ 大殿様被爲召ニ付罷出候ハ、忠義相勵候様被仰聞候付引取夕方久藩四士來訪池尻茂右衛門山本實佐田素太郎加藤常吉等ナリ今夜久藩ノ四人へ國司君ヨリ酒差出吳候様申來及其取斗候

○四日大年宮へ參詣夫ヨリ支度シテ母君此間ヨリ御歸宅之處今日一ノ宮ノ潜居御歸リニ付送リ行尊大人へ山口へ被爲召候段申上候處大ニ御喜ビ被遊候夫ヨリ出立五日夕山口着夜五ツ時俄ニ御用申來飯ノ御用所三文ヤ行候處中村誠一君ヨリ御讀渡左ノ通

但シ黄紙御用紙手紙ナリ

覺

一御扶持方貳人 高ニシテ拾七石
一米三石貳斗

白石正一郎

右兼而尊 王攘夷之正義ヲ弁知シ心得宜敷ニ付去春御用達被仰付段々御用ニ相立候趣モ有之猶又此度夷船打拂方ニ付而者晝夜心配途苦勞ニ付格別ノ筋ヲ以前書ノ通御忍扶持被下之三十人通リニ被召抱御譜代ニ被仰付候事

○六日朝目代シテ御政務座へ御禮へ出ル三文字ヤ也吉田榮太モ昇進ニ付一同ニ罷出候夫ヨリ飯田八右衛門手引致シ吳名札ヲ以廻勤ス

○七日水上山ニオイテ 御勅使正親町様拜謁被仰付候佐久間佐兵衛君手引被成下候

○九日萩御役人方へ廻勤證人鬼武久兵衛差圖シテ廻勤先キ書付吳候

- 十一日正一郎歸宅
- 十二日馬關出張ノ御役人方へ廻勤猶又阿彌陀寺極樂寺へ詰合ノ奇兵隊へモ同斷昨今頻ニ造作相成ル 御勅使様御旅館ノ御用意ナリ留守中ニ付廉作万事取斗候
- 十三日今夜田ノ浦詰ノ奇隊之内原田熊二郎松尾甲之進兩人來リ長崎行ノ機密相談有之ニ付金百兩カシ渡ス
- 十五日 御勅使様御着今日ハ御不例ニテ御見分事ナシ長府清末ヨリ諸太夫ヲ始役人入來勝手ノ方大ニ混雜勅使ハ正親町ナリ
- 十六日萩ヨリ前田君出關酒店へ着今日御本陣亭主白石廉作ヨリ 御勅使様へかつを拾三本箱入献上四ツ時分尊大人母君正一郎廉作等拜謁被仰付候扱書過ヨリ御船ニテ檀ノ浦杉ヶ谷前田夫々台場御巡覽御本船へ正一郎廉作乗込被仰付候あみだしヨリ御上リ夫ヨリ御馬ナリ又御船ニテ田ノ浦台場御覽廉作御船ニテ御供ス正一郎ハ前田ヨリ歸宅夜四ツ時

御船田ノ浦ヨリ歸リ御着館

- 十七日酒店ニテ波多野小田村高杉宮城糸賀佐久間等ノ諸君小倉五罪ノ書付出來ル
- 十八日 御勅使様引しまノ台場御覽又大里久留米屋敷ノ台場御覽正一郎廉作御供ス夜五ツ時御歸館
- 十九日今夜御親兵之内水戸人二人御前ニ出テ議論ス小倉一條ナリ其末奇兵隊ヨリ三十人斗リ來リ可及一擧之處今夜ハ止メニ成各退散高杉君止宿小田村君夜ニ入歸山
- 廿日正親町様ヨリ先日献上かつをノ御返禮トノ扇子五本御盃貳ツ八景ノ式紙其外山口ヨリ御進物ノ菓子箱等頂戴被仰付候今夜原田熊五郎來先日取替候金子之内へ五拾八兩三分返シ來ル
- 廿一日 御勅使様御發輿被遊候
- 廿三日正一郎此度結構ニ被仰付候祝トシテ御役人方へ御案内申上料理

相調候處上方ヨリ夷船入港相圖打出シ候故何モ相止メ前田台場へ出張候處異船ニテハ無之幕船ノヨシ豊前鹽飽田へ繋船依之斥候トシテオノレト藤井庄五郎尾崎禎介今一人田ノ浦へ渡ル大東風ニテ部崎ノ方へ船廻リガタク岩ノ岬ヨリ山へ登リ燈籠堂ノ所へ出白野江村へ着此時田ノ浦陣屋ヨリ陸行ノ小隊二十人へ出逢白野江ノ庄屋某幕船ヨリ上ル處ヲ見付ケ段々及尋方候得共白狀不致故田ノ浦へ連レ歸リ瀧孫太郎君へ調子方托シ置四人共前田ノ陣屋へ及深更カヘル暗夜ニテオノレ土手ヨリ河へ落込足ヲ怪我スル

○廿四日朝足ノ療治最中幕船馬關へ乗込打拂注進有之ニ付直様仕度シテ出張候處打拂ハナクシテ幕船馬關へ泊ス

○廿六日高杉君山口表ヨリ歸關而シテ急御用ニ而廉作高橋貫介兩人筑前行被申渡候

○廿七日筑ノ平野次郎小田部某中村圓太高杉ノ寓居へ罷越ヌ

○廿八日幕船ノ事先日來色々議論有之候處今日彌御カリ入ニ相調候

○晦日廉作筑前ヨリカヘリ又直様宮市へ行是ハ筑前ノ返答 御勅使様へ申上候爲也

○八月一日波多野宮城ノ兩君ヨリ魚及野菜等澤山御イハイ被下候間國司太夫ヲ始メ諸君ヲ招待ス相憎高杉君ハ山口行留守中ナリ

○九日幕船ノ俗吏三人ヲ廉作吉田年广呂穂神明人誘引藝妓十人斗リ連來大酒筵之末年广呂廉作杯拔刀シテ燭台奥襖ナドヲ切破ル幕吏殊ノ外恐怖シテ早々カヘル

○十二日近日 若殿様御出關被遊候ニ付御本陣ノ事申來ル
同日午時幕船一見ニ罷越竹崎在番役入江直人同道之義頼來候間町方役笹尾ナトモ打連レ行吉田大ニ饗應ス

○十三日 若殿様御出關夜四ツ時御入被遊候今日大降雨

○十四日波多野高杉宮城等ノ諸君及奇兵隊ノ伍長二十人斗リ入來ニテ御

前會議有之

○十六日 若殿様御舟ニテ諸所ノ台場御覽可被遊筈之處風雨ニテ御延引
 同日夜四ツ時奇兵隊ヨリ急飛脚來リ大變出來候赴ニテ高杉君ヨリ御輿
 衆へ來狀有之候得共其意味能々不相分候ニ付正一郎廉作御輿へ被召奇
 兵隊へ行キ篤ト様子開合セ一應右報知候様ニト毛利登大和彌八郎ノ兩
 君ヨリ御申付ニ付直様馳參リ候途中豊前田町ニテ先鋒隊三四十人ト出
 逢各拔刀鎗ノ鞘ヲハツシ御本陣へ來ル様子ナリ然レ共オノレ等ヲ奇隊
 ノ者ト不存カ無難ニ行過ク後チニ承候得バ此時奇隊ノ小使ならや源兵
 衛ト申者オノレ等ノ跡ヨリあミだじへ參ル途中先鋒隊ノ者鎗ニテ突殺
 シタル由扱あミだじ迄ノ路上奇隊ノ者甲冑ニ身ヲカタメ其處彼處ニオ
 レリオノレ隊中へ行高杉君へ逢候テ御輿ヨリ御使ノ子細申述様子相尋
 候處今夜宮城君へ先鋒隊ヨリ失禮イタシ夫ヨリ事起リ奇隊ノ者教徳寺
 (先鋒隊ノ陣屋ナリ)へ詰カケ拔刀手負等モ有之赴トノ義承リ候扱其末先鋒隊ヨリ

御本陣へ訴出候事ナラント高杉被申候故正一郎廉作罷歸リ其赴御輿へ
 申上候歸宅シテミレハ先鋒隊凡百人斗詰懸酒店ノ處へ拔身ノ鎗數十本
 立ナラへ有之候雞鳴頃稍鎮靜ニ相成先鋒隊不殘引取サテ波多野君ヨリ
 オノレへ被申付あミだじへ罷越奇兵隊へ右ノ次第爲相知隊中靜リ居候
 様取斗候様トノ御事故又々奇兵隊へ行其旨申述高杉君ナド三四人舟ニ
 テ誘引シカヘル

○十八日早朝正一郎大里ノ久留米屋敷ニ行是ハ今日 若殿様並長府侯台
 場御見分ノ事ヲ知ラスル爲也四ツ時大里御着大砲等御覽有之夫ヨリ又
 正一郎御先キニ田ノ浦へ行其用意相調御待受申上候處追々御覽被遊夜
 五ツ時過御歸館相成ル其夜正一郎廉作トモ御目見且頂戴モノ數々被仰
 付候事

○十九日 若殿様御發輿山口へ御歸被遊候

○廿五日宮城君ノ噂サニ京師大變ノ次第山口へ申來候ヨシ右ニ付直様高

- 杉君へ行相尋候處奇兵隊不殘上京ト被申聞候ニ付其用意ヲ爲ス
- 廿七日宮城氏割腹ノ御沙汰有之恐入候事也
- 廿八日昨夜遅ク寺内外記君高杉君へ 若殿様ヨリノ御書御持參ナリ御
文意誠ニ難有御事ナリ依之奇兵隊上京ノ論止ム
同日秋月藩戸原卯橋亡命シテ來リ長州へ依頼ス
- 九月二日奇兵隊不殘小郡迄引取被仰出翌三日ヨリ行
- 四日久藩榎外記筑前中村圓太京師ヨリ歸リカケ來訪中山公子大和ニテ
官軍御催促五條邊御打キクノ首十七 首二千人程ノ勢相加リ候トノ義
承ル 御勅使正親町様三田尻ヨリ御乗船肥筑へ御下向ノ由相承ル此日
晝過徳田隼人入來今夜正一郎宿本出立奇兵隊へ行
- 五日あみだじ船へ乗組高杉入江九一片野十郎君ナド同船出帆
- 六日秋穂本陣萬徳院へ著
- 八日正一郎會計方大見ケシメ被申付候

- 十一日神保ノ弓ノ稽古初へ臨ム此日京師ヨリ寺嶋君歸來上國ノ様子承
ル
- 十五日高杉君惣督交代瀧彌太郎川上彌一ノ兩君ニ相成ル
- 廿日陣中不殘山狩へ罷越ス
- 廿二日奇兵隊不殘三田尻へ引越ノ御沙汰昨日被仰出
- 廿五日奇兵隊行軍ニテ三田尻へ轉陣本陣正福寺境内へ相揃ヒ直様御茶
屋へ相赴御七卿様へ拜謁ス銘々得武具ヲ持笠ヲ冠リナカラ塀重門ヨリ
御庭ニ入り拜謁ノ期ニ至リ笠ヲ取り鎗ノ穂ヲウシロニ向ケ平伏ス十七
ノ伍長病氣ニ付オノレ飯ニ相勤メ伍長各御前へ進ム
- 廿八日平野二郎陣屋へ來訪三但州邊ノ様子大和ニテ中山公子御勢凡六
七千人ニ相成候云々相承ル
- 十月二日今夜澤様御脱走川上始メ廉作ナド其外七八人脱走御供ス夜ニ
入リ伍長會議夫ヨリ東久世様四條様御警衛トシテ弓隊其外三十人斗リ

御供ス問屋口ヨリ御乗船ノ筈ノ處干沙ニテ御乗船不相成再ヒ御茶屋ニ御歸リ被遊候川上ハ南八郎ノ事ナリ後廉作ト共ニ銀山ノ義舉ニ將タリ

○三日曉御二卿様御乗船被遊候由承ル○廉作相認候一筆問屋口ヨリ到來脱走ノ赴意申來ル○今夜四ツ時御二卿様御歸館

○十二日三田尻濱向シマノ此方ニテ練兵

○十三日土州土方楠左衛門松山深三兩君來訪相對ノ被申込候間惣管へ伺候處不苦トノ事ニ付致相對候處御六卿様ノ思召モ有之薩ノ大嶋三左衛門君へ添書致シ吳候様被申聞候然ルニオノレ返答ニ大嶋氏ノ性質君命ヲ奉スルノ外迎モ動ク間敷且亡命ナトハ決而致間敷ト相考申候故書翰差遣候得もムダ事ニテ可有之ト相斷申置候此薩ノ使ニハ久藩原道太ノド參候趣ナリ横泉州ヨリ大嶋へ當ル書狀遣シ候由ニ承ル

○十五日夕方御茶やへ行御二卿様ノ御前ニ出テ御慰申上候今夜炮聲有之ニ付皆々本陣へ詰懸ル富永有隣譯有テ縛セラル

○廿二日木原龜之進葬式桑ノ山へ埋ム隊中不殘會葬

○廿五日長府内海石太郎入隊ノ處吳服屋ニテカタリ事ヲ致候趣相顯レ其罪ニテ割腹被申付役人ニ光明寺へ出張

○廿六日行軍ニテ山口へ行公卿方氷上山へ御轉居被遊候ニ付御警衛ノ爲罷越

○廿七日四ツ半時各軍裝ニ出立外廊屋ニテ大殿様拜謁被仰付候

○晦日隊中不殘御茶屋へ引移ル

○十一月八日今夜兩惣管赤根ト一酌廉作ガ事杯及談話此日久阪君ヨリ來書有之ニヨル

○十日久藩淵上郁太郎來陣但州ニテ廉作ナト割腹ト承ル

○十一日三田尻社人荒瀬河内へ頼ミ廉作ノ神靈ヲ祭ル

○十三日中山公子御法躰ニ御成被遊而過ル十一日竹崎宿本へ御出被遊候由然ルニ馬關御潜居物騒ニ有之段宿本ヨリ有馬管道ヲ以テ申來ル早速

惣管へ申出候處差圖アリ同十四日三田尻ヨリオノレト藤村英熊兩人早駕籠ニテ馬關へ歸ル公子奇隊へ御迎申上候爲ナリ夜半着

○十五日長府へ大庭呼ニ遣ス中山公子ノ御事過ル十二日長府井上丹下御迎ニ來候由家老三吉ノ領分月山ノフモト庭田ト申處へ御潜伏ニ付氣遣無之且長府方往々ノ所御引請仕候トノ義承リ大安心

○十八日藤村一同乗船十九日八ツ時三田尻陣屋ニ歸ル

○十二月十四日三條様三田尻へ御遊來十五日岸津濱ニテ越烈機御覽被遊候事

○十九日三田尻出立馬關へ歸ル片野十郎伊藤三省ノ兩君同道奇隊馬關へ轉陣ニ付仮陣屋寺院見合ノ爲也同廿日着

○廿三日奇隊不殘馬關着

○廿四日林奎君來陣瀧惣管前田檀ノ浦兩所陣屋受取片野來谷兩氏比日同道ナリ今夜酒肴用意有之候處合圖砲聲有之異船上方ヨリ入津ノ模様ニ

付夜五ツ時各出陣四ツ過時異船田ノ浦へ入來ル前田上下ノ台場ヨリ打出候處異船沖ノ方へ漕出候様相見候然ル處九ツ時過船中一面火ニ成リ火焰盛ニモへ出シ遠眼鏡ヲ以テ望メハ二本柱外車ノ次第等歷々タリ而翌朝及沈沒候跡ニテ承レハ右ハ薩船ノ由ナリ今夜寒等至テ強シ

文久四年甲子 後元治ト改元

○正月四日幕ノ長崎丸通行但シ船ヨリ使者兩人馬關御用所へ來候ニ付無事ニ通行ス

○十一日前田檀ノ浦トモ大砲タメシ打有之惣奉行出張オノレハ會計方ニ付留守居ナリ

○二十三日馬關へ遠乗扱御用所久芳君中村君其外多人數馬ニテ新地ノ岡ノ原山招魂場地面見合セニ行拙宅ニテ大宴田所氏取持ノ爲中村君ト赤根氏ト止宿

○二月一日母君ノ七十ノ賀蒞ニ付暇ヲモラヒ歸宅ス

- 二日母ノ賀ヲイハヒテ奇兵隊ヨリ多人數來客有之
- 五日正一郎歸陣
- 八日晝前ヨリ馬ニテ招魂場地開キ見分ニ行同道八人也
- 十六日不快ニテ歸宿
- 三月二日証人阿武九兵衛氏ヨリ來書廉作追祭料トノ金貳圓被下置候御書付到來
- 十五日久敷ブリ陣屋ヘカヘル晝過時惣管御用所ヨリ歸陣ニテ公卿様方御出關相成候ニ付御旅館ノ事相承ル
- 十六日歸宅御旅館御仕構即チ役人衆見分有之
- 廿七日御六卿様夜ニ入り御入被遊候誠ニ大混雜ナリ暫シテ拜謁被仰付候水野丹後氏取合被吳候
- 廿八日晝過ヨリ檀ノ浦台場御覽龜山社ヘモ御參詣被遊候正一郎峯太郎軍裝ニテ三條様御備ヘ内ヘ御供ス而炮發御覽相濟御歸路阿彌陀寺ヘ

御入被遊 安德帝御陵御拜禮夕方御歸館被遊候今夜錦小路様御不例茶室ヘ御休被遊候

○二十九日錦小路様御不例ニテ引嶋台場御覽御延引五卿様招魂場ヘ御出被遊御歸路大砲鑄造場ヘ御立寄夕方七時半御歸館被遊候

○三十日 三條様ヨリ御菓子頂戴被仰付候長府侯ヨリ献候分ナリ

○四月一日御五卿様引島炮台御覽正一郎庫之進峰太郎トモ御本船ヘ御供ス先ツ破レ新田ヨリ御上リ福浦取付ノ台場ニテ炮發夫ヨリ金毘羅社ヘ御上リ御晝飯被召上其時長府井上氏ヨリオノレヘ申來中飯ノ立宿ヘ波多野佐々木赤根ノ三君致同行吳候様トノ事ニ付同道參候處馳走有之夫ヨリ御立ニ相成田ノ首ヘ御出又弟子松台場ニテ大砲數十發打試御覽七ツ時ヨリ御乗船夕方御歸館被遊正一郎庫之進峯太郎始メノ如ク御本船ヘ御供ス○今日ヨリ錦小路様御看病トシテ中谷萬藏妻お千枝入込

○二日三條様ヨリ御召古白あヤノ御小袖一枚父君ヘ頂戴被仰付候外御方

- 様ヨリ鯛二尾酒壹斗頂戴被仰付夜ニ入正一郎庫之進御五卿様ヨリ御酒頂戴被仰付御次へ罷出御短冊ナド種々頂戴仕候
- 三日御五卿様御發與正一郎庫之進峰太郎共角石ノ陣屋迄御見送申上候是ヨリ別駕立ノ台場ニテ長府方ヨリ臼砲コヅ砲破裂玉御覽夫ヨリ前田上ノ台場ノ上ニテ御休足此所ニテ御小弁當被召上暫シテ上下ノ台場炮發御覽又狙擊隊ノ台場及彈藥藏ナド御覽角石陣屋へ御入被遊候此所ニテ正一郎御暇乞申上馬ニテ歸宅庫之進峰太郎兩人直様陣屋へ相滯ル
- 同日三條様ノ御使ニテ山縣小介林半七土方楠左衛門淵上郁太郎ノ四君其外トモ十人斗リ小倉へ渡海
- 四日夜ニ入波多野君上下三人來駕酒場ノ二階へ止宿又土州田所壯介君來ル是ハ錦様御警衛人數ノ招賢閣ノ會議人ナリ
- 五日錦様ヨリ御菓子箱頂戴ス渡邊左衛門殿取次
- 十七日波多野君ノ御誘引ニテ正一郎馬關へ行王司ニテ長府方ノ御馳走

- 有之二十四日錦様ヨリ縮緬ノ御小袖御扇子金五百疋頂戴被仰付候其外召仕之者及用達通ヒノ子供井石綱右衛門迄モ頂戴モノ被仰付候
- 同日波多野君ノ御取斗ニテ御上ヨリ金三十兩頂戴被仰付候
- 同日錦様御容躰俄ニ御大切御吐血被遊候ニ付益田太夫始メ御役人方不殘御本陣へ御詰メ切リ
- 廿五日錦様御逝去被遊候ニ付早速山口表へ早飛脚トシテ田所壯介氏發足
- 二十七日山口表ヨリ田所壯介氏早駕籠ニテ歸關
- 廿八日東久世様御入被遊候錦様ノ御棺等御覽ナリ東久世様御旅館新地林方ナリ
- 五月四日東久世様御發與山口へ御歸被遊候
- 五日今日亦御上ヨリ金拾五兩頂戴被仰付候此度ノ御事ニ付テナリ
- 六日錦様御棺山口へ御引越ニ相成候

- 十一日正一郎陣屋へ罷越
- 十七日宅ヨリ早飛脚陣屋へ來ル孫剛太郎急病ト申來候間暇ヲモラヒ早馬ニテ歸宅
- 十九日晝時濱門ノ脇納屋ヨリ出火無程鎮火
- 晦日山口証人阿武九兵衛氏ヨリ白石廉作楠公祭ニ從祀被仰付候由ニテ御供物二包送り來ル
- 六月九日宇佐八幡宮奉幣使梅谷中將様岩國新湊ヨリ御乗船今日豊前大里へ御着之由承ル
- 十二日澤主水正様御遊來被遊候原道太穂神輝人其他小松藩四人御供今夜御止宿被遊候
- 十三日御別盃差上夫ヨリ御船ニテ前田ノ台場迄正一郎御送申上御船ニテ御弁當御酒等差上候
- 七月十五日角石陣屋へ備前ヨリノ使者台場拜見トシテ來ル水野盛本何

某三人ナリ萩山田重作君同道ナリ

- 二十四日筑前戸田六郎來京師過十九日變動ノ事承ル
- 二十七日福原國司兩太夫本山ヨリ上陸ノ噂承ル
- 八月四日性太沖本山邊へ當リ異船十七八艘碇泊ス台場ヨリ凡二里程隔ル隊中ノ者各持場ヲ守リ夜ニ入各々台場ニテ一睡致候處山口ヨリ山縣彌八郎君出關又前田君出關惣管赤根武人山縣狂介ノ兩君馬關惣奉行ノ處へ行其外七八人同行片野十郎氏夜半過赤根山縣ノ兩人ヨリノ使トシテ陣屋へカヘラル其言ニ異船通行ノミナラバ無事ニ通シ候様彼ヨリ及炮撃候ハ、打拂候様トノ義御兩殿様ヨリノ御直命前田君被蒙來候由承ナリ因テ隊中俄ニ會議シ君命ヲ奉スルニ決ス
- 八月五日朝馬關惣奉行所ヨリ夷船へ應接有之候處彼ヨリ致炮撃トノ返答ニ付隊中夫々受持ノ炮ニ取カ、リ相待居候處八ツ時分七艘程中ノ浦沖へ碇泊ス暫クシテ彼ヨリ及炮發候故此方ニモ諸筒打出シ各凡三十發

宛打放シ見合セ候處彼ハ止ミナクカハルヽ打出殊之外烈數炮戰ニ相成各七ツ半時陣屋へ引取候處今夜夷人台場へ上リ大炮ノ火門ニ釘ヲ打諸處火ヲカケ燒立ル

○六日朝炮聲相聞へ候へドモ隊中ハ最早陸戰ノ用意ニテ各甲冑ニ身ヲカタメ銘々得武具ヲ携待カケタリ檀ノ浦台場今朝ヨリ類ニ及炮擊即死手負等モ有之終ニ陣屋燒拂ヒ掠野迄引上候段注進有之夫ヨリ未刻檀ノ浦ノ勢山縣君始不殘長府道ヲ廻リ角石ニ來ル一手ニ相成候夷人追々上陸六度迄追退ケル七度目ニ至リ昨日ヨリノ苦戰ニテ銘々大ニ疲勞惣奉行ノ援兵モ不來漸小銃二小隊長府方ヨリ加勢ニ來ル手カハリス隊中休足ナシニ戰候へドモ終ニ引口相立一ト先ツ十町程引退ク惣管赤根フミ止リ清水茶屋ノ所へ五六十人殘居候得共モハヤ夷人モ不追來其内此方ヨリ陣屋へ火ヲカケ置候分モエ上リ黒烟立昇リ日モ晩景ニ相成戰ヲ止メ隊中長府二ノ宮迄引揚然ルニ境内狹キユへ一宮へ陣取シテ夜半頃休足

○七日過ル四日ヨリノ疲ニテ今日ハ一日休足シテ軍議ヲナス夕方ニ相成明朝出陣手配ス夷人少々宛上陸トミへ時々炮聲キコユ

○八日朝六ツ時一ノ宮出立行軍ニテ掠野近邊迄出張ノ處大谷越ノ方ニ當リ夷人上陸ノ趣ニ付赤根始メ多人數罷越オノレ晝頃迄中軍ニ居候へドモ氣懸リニ付掠野道ヲ經馬關へ出カケ候處阿彌陀寺道ノ上ニテ穗神ナド七八人兵糧ツカヒ居ルニ出逢山根善右衛門杯ト一手ニ相成同行シテ奥小路ヨリ馬關南部ノ築出シへ出テ見受候處夷人引シマ弟子松ノ台場ヲ燒亡ノ様子ナリ阿彌陀寺沖へモ夷船二艘カ、リ紅紫山ニ向テ炮擊ス馬關人家悉ク戸ヲ閉サシ荷物ヲカハシ人跡無之誠ニ寂寥タリ夫ヨリ又王司ヨリ入込掠野へ歸路田中ノ川端ニ酒店一軒致内居候故各立寄り一酌ス扱奥小路ヨリ掠野へ行キ本陣ヲ相尋候得共兎角不分其内夜ニ入候間百姓家へ止宿ス此歸途和戰ニ相成候由長府人ヨリ承ル

○九日朝掠野出立一ノ宮へ行候處隊中秋根村へ引越ノ由ニ付秋根へ罷越

- 和議一條相承ル各議論モ有之候へトモ今更致方無之今夜秋根村ニ止宿
- 十日今朝秋根ニテ各會議有之候へドモ廟堂和議論ニ相決候事故無致方先ツ長府へ陣取ノ積ニテ各秋根村出立ツ長府二ノ宮へ集會然ル内奇兵隊ハ宮市へ引取候様被仰付候トノ御事ニテ小月迄ユキ止宿
- 十一日若殿様船木迄御出馬被遊候トノ義承リ隊中之者今夜船木へ行然ル處オノレ考合ニ和睦ニ相成候上ハ最早戰爭ナシ一應馬關宿本へ立歸リ見申度旨相願候處被免候間今夜半過馬關宿本へ歸候處尊大人母君ヲ始メ家内ノモノ不殘大坪村へ逃行居候由ニ付直様迎ノモノサシ上呼返シ申候
- 同日小田村君長崎ヨリ入來宍戸太夫ノ家來鈴木二郎右衛門氏同行ナリ今夜早船ニテ性生迄御引取
- 十二日朝ヨリ大坪村へ荷物取ニ遣シ其他萬般ノ事夫々取片付猶當月一ヶ月分ノ家賃ハ用捨シテ取不申段貸家ノ者共へ申聞セル

- 十四日今夜宿本出立船ニテ宮市へ行
- 十六日宮市本陣神部方へ着
- 十七日奇兵隊ヨリ山口へ建白ノ草稿出來
- 十八日赤根山縣時山福田杉山ノ五君建白書持參山口表へ出ル隊中跡ノモノ不殘今日三田尻御茶屋へ轉陣被仰付候此節 御兩殿様御慎中ニ付金鼓ヲ不用靜ニ行軍
- 廿一日會議有之昨日山口ヨリ赤根惣管被取歸候 御兩殿様御直書寫ヲ拜見被仰付候
- 晦日山口ヨリ被仰出赤根惣管事御政務役御聞セ被成赤間關邊軍政御取斗被仰付候山縣狂介君事赤根氏間欠ノ節奇兵隊惣督被仰付候トノ御事ナリ右ニ付赤根氏ヨリ被申渡松岡修作長太郎兩君オノレ三人一同船ニテ馬關へ行
- 九月二日風並惡敷龍泊リヨリ上陸翌三日馬關着

- 四日赤根飯田行藏ノ二君出關
- 五日飯田松岡長ノ三氏トオノレ四人伊崎ノ日和山ヨリ大坪武久赤田安岡迄地形ノ巡見トシテ罷越秋根通り一ノ宮へ出夜ニ入歸宅
- 六日夜竹内正兵衛君來駕又對州ノ多田莊三京師ノ婦人兩人同道ニテ入來即桂君ノ妾ト多田氏ノ妾ナリ
- 十三日今日三田尻へ罷越乘馬足ヲイタメ不進飯田松岡ハ駕籠ナリ十五日着陣
- 十七日午前ヨリ遠乗中ノ關ヨリ中ノ浦迄罷越夕方歸陣杉山南野世木中村同行ナリ
- 二十一日馬上眞田市太郎同行氷山山へ罷越山縣君始メ山口へ被出候様子ニ付直様罷越宿片岡へ着此節俗論沸騰イマタ何トモ不分ナリ
- 二十四日眞田ト同行三田尻へ歸陣
- 十月四日山口表へ滞在ノ奇兵隊ノ人數三田尻引取候様御沙汰尤 御兩

殿様萩へ御出被遊候由

- 十三日大道ヨリ長澤ノ堤迄遠乗ヲ試ム大道上田方ニテ晝飯夕方歸陣福田寺野世木中尾同行ナリ
- 十四日陣屋ニテ昨年但州戰死九士ノ靈ヲ祭ル一周年ニ當レハナリ隊中銘々ヨリ供物被相贈候間夕方一酌ス
- 十九日庫之進隊中一同ト德地へ行正一郎奥野へ歸ル
- 二十九日晝萩ヨリ高杉東行君ヒソカニ來訪座敷奥ノ方へ潜伏萩俗論大沸騰ノ由承ル今夜半久留米ヨリ淵上郁太郎登リ來ル夜八ツ時分野唯人ノ宿長太方へ此方同行罷越雞鳴頭淵上氏ヲ尋テ佐世君來訪野唯人ハ一名中村圓太ト云フ住世トハ前原一誠ノ前名ナリ
- 十一月一日大庭ト野唯人ト入來有談高杉改名谷梅之助ト云フ晝前別盃ヲ出シ七ツ時乗船高杉大庭野三人筑前行同日御用所ヨリ山田七兵衛田北左仲ノ兩君入來淵上ト有談

- 五日夜ニ入庫之進徳地ヨリ歸リ來ル隊中不殘出山ニ付オノレヲ迎ニ來ル
- 九日宿本出立庫之進ヲ召連出山
- 十日楊井田關門ニテ水野丹後氏へ逢
條公ヨリ長府へ御使ノ由夜四ツ時山日本陣永福寺へ着
- 十一日毛利上野殿鎮靜トシテ山口へ出張隊中ヨリ八九人行俗論黨ト議
論ス此節一七日 大神宮へ祈願隊中ヨリ參籠廟堂正議ノ人々無難ヲ祈
ル爲ナリ
- 十四日評議諸隊手分シテ出萩歎願ニ相決候處夜ニ入俄ニ長府へ引越ノ
評議ニ決ス
- 十五日四ツ時山口永福寺出立中軍今夜嘉川驛止宿
- 十七日晝長府着東陣覺苑寺
- 二十三日宅ニテ念入ノ重組調サセ上酒五升相添切山寺御滞在ノ 公卿

様方へ献上ス野村靖君へ取斗頼遣ス

- 十二月十五日今夜八ツ時高杉君一舉兵隊ヲ引率シ馬關へ出ル
- 十六日今晝諸隊不殘伊佐へ轉陣然ルニ人足岡ニ付此夜モ覺苑寺へ止宿
ス
- 十七日隊中出立小月迄行人足岡ナリ山縣穂神長太郎三君オノレ四人小
月菊永方へ止宿ス
- 十八日小月出立吉田へ止宿伊佐本陣未不分故ナリ
- 十九日伊佐着本陣池田方然ルニ 三條西様四條様ノ御二方同家表座敷
御旅館ニ相成候故隊中ハ裏ノ部屋へ止宿ス
- 二十四日今夕ヨリオノレ罌丸太クハレ歩行難澁ニ付暇ヲモラヒ二十五
日朝伊佐出立駕籠ニテ歸宅
- 二十六日夜ニ入伊佐ヨリ岡千吉君來訪諸君へ追討カ、リ候由承リ仰天
- 二十八日晝野村大田岡千吉三君來リ一酌ス又高杉君モ入來聞ク赤根武

人行衛不相知由ナリ是亦仰天

○二十九日岡千吉氏歸陣ニ付庫之進同行伊佐ニ遣ス此節正一郎等丸ハレ歩行不自由歸宅ノ處追討相カ、リ候風説ニ付庫之進名代トシテ差遣ス

元治二年乙丑

(四月慶應ト改元ス)

○正月元日夜半岬ノ町ニテ斬奸有之三田尻ノ小吏松原八郎ト云者ノヨシ
○二日夕方山崎九左衛門處 太郎對州多田莊三三君來談小酌ス谷君ヨリ來書靴一懸カリニ來候故白皮ノ新ラシキ分カス野唯人ヨリ來書金子ノ相談有之候ヘトモ不廻リニ付斷申遣ス伊佐ヨリ岡千吉君來書夜ニ入り大庭來リ宿ス

○三日昨夜半遊擊軍新地會所及俗吏等へ夜襲ヲカケ候處俗吏輩大ニ恐怖大小刀ヲモ取捨散亂之由承ル

○六日粟飯原君來訪直樣歸省

○八日晝過伊佐ヨリ矢野登一君來ル又大庭モ來ル伊佐ノ諸隊ヨリ繪堂出

張ノ賊軍へ一昨六日夜八九十人ニテ夜襲ヲカケ候處賊軍大狼狽器械ナド多ク打捨散亂シ賊死人二十人余有之由隊中ニハ藤村太郎天宮愼太郎討死手負三人有之由承ル右ニ付早速遊擊軍へ爲相知候處高杉君ト久保無二三氏兩人入來矢野大庭オノレ打寄談合夜ニ入各退散其跡ニ細川左馬之助氏高杉君ヲ尋テ來リ戸口ヨリ立ナカラ申樣只今八幡隊ヨリ報知有之財滿新三郎ヲ討取候段相聞云々

○九日矢野登一君舟ニテ小郡迄カヘル

○十日遊擊軍馬關登足不殘舟ニテ吉田迄出陣ス

○十三日伊佐表ニテ今以引續キ戰爭有之由承ル

○十四日公卿様方筑前へ御渡海被遊候長府役人夜ニ入來訪一宿ス

○二十八日厚東次介君來訪小酌ス小笠仁右衛門氏直樣カヘル晝過長府ヨリ井上少輔江見小平太兩君大庭ナド來ル

○二月二日夜ニ入奇隊ヨリ藤村庄七氏來ル

○十日奇隊ヨリ長岡與右衛門氏來訪勝手ニテ小酌隊中ノ様子又萩ノ様子ナド承ル

○十二日今曉今浦町ノ饅頭屋某斬首セラレ候由對州人ヲカクマヒ候由風聞晝過野村靖之助君來ル庚申丸山田熊之助氏同道夕方迄小酌夜ニ入各歸省

○十五日昨夜藪ノ内町ニテ眞木菊四郎暗殺セラレ候由

○廿日福原三藏野村靖之助兩君細川左馬之助庚申丸ノ某同道入來一ノ宮ノ客ト座敷ニテ一酌夕方カヘル

○三月十日晝過隊中ヨリ庫之進並井石綱右衛門書狀之分到來但シ二月十五日出之分ナリ

○廿六日木谷周藏君來訪山口様子承ル○今日城ノ腰町虎屋吉藏ト云モノ來リ土州ノ利岡平吉ト云人ヨリ正一郎庫之進兩人へ宛候書翰持來ル開封候處同人二男利岡玄兵衛ト云人一昨年京師變動之砌ヨリ三條公へ

付添長州へ下向右玄兵衛へノ届狀一封在中並金子一包尤是ハ別封ニシテ虎吉持居候ナリ右金子野書狀トモ玄兵衛へ届吳候様トノ頼狀ナリ然ルニ去年來土州人へモ多ク逢候得共利岡玄兵衛ト云人一切存不申尙又三條様ニハ當時筑前御滞在被遊候御事故届先不相分右ニ付其儘返事可致カト相考候得トモ節角遠路罷々頼來候故セメテ去冬暫時長府へ御滞在被爲在候故長府人存可申カ明日有無長府へ聞合候上所置可致候旨虎屋へ申聞ケ夫迄ノ間書狀ハ此方へ預リ置可申ニ付金子ハ吉藏所持可然ト申聞セ扱翌日廿七日大庭へ聞合候處御守衛中ニ利岡ト云人ハ聞及不申段返答申越候然ル處其後四月一日筑前ヨリ三條様御使長府へ來リ右仁相ワカリ候故右金子書狀トモ石川誠之助君へ托シ差送ル

○四月一日筑前ヨリ三條様御内森寺君ト土州石川誠之助君ト來訪此度條公様ヨリ山口へ御使ニ參候由被申候ニ付一酌サシ出ス彼ノ利岡玄兵衛氏ノ事相尋候處于今御守衛罷在候段承候故利岡平吉ヨリノ書狀金子

届方頼來候段咄シ候處歸路立寄可持歸トノ事故相頼置候夕方井石來リ
隊中之様子並庫之進無事在勤等ノヲ相承ル

○十一日奇兵隊山口詰不殘明十二日吉田へ出張ノ由ニテ近藤政助氏ヨリ
申來井石綱右衛門早々罷越候様通達頼越候故其取斗及候處井石千本兩
人吉田へ行石川誠之介君山口ヨリ歸關ノ由ニテ入來ニ付虎屋吉藏呼ニ
遣シ金子受取手紙トモ石川氏へ相渡相頼候

○十二日醬油屋武左衛門來リ萩ノ様子又少々俗論黨起リ候由相承ル

○十三日庫之進吉田陣屋ヨリカヘル

○十五日林半七君來訪無程歸省

○十六日伊高春齊云人來訪筑前産ニテ當時長府領内へ在住醫業ノ由此人
申ニハ去夏御逝去被遊候 錦様御一件ニ付御殿ヨリ御禮之品去秋御差
送被遊候由右ノ品已ニ相届候哉ト相尋候故未届段返答ス

同日晝過吉田ヨリ奇兵隊ノ惣管山内梅之進殿林半七片野十郎三好軍太

郎服部良輔ノ五君馬上ニテ來今夜各止宿十九日各朝招魂場へ參詣五ツ
時過出立歸省

○二十二日庫之進峯太郎吉田へ歸陣

日本政記十六冊奇兵隊書記坐ヘカス

○五月一日土人細川左馬之助來訪小酌スタ方奇兵隊惣管山内殿時山服部
之兩君ト同道馬上ニテ來訪今夜止宿

○二日右三人馬關行又歸リ來リ止宿

○三日山内殿時山服部ノ三士吉田へ歸陣

○四日庫之進峰太郎吉田ヨリ歸宿

○八日隊中松岡修作中村百太郎石田鼎大枝八郎ノ四士來訪招魂場へ參詣
夕方歸宿

○十六日井石綱右衛門來宿小倉へ會津三千人程下向之赴ヲ話ス

○廿三日小倉ノ間者一人馬關ニテ縛ス櫛屋正右衛門方へ當三月ヨリ居候

由クシ店諸共長府ヨリ嚴重取糺有之風聞

○廿四日平戸藩柏原四郎ト云人來訪是ハ平戸侯ヨリ中山様被爲入候御與付之由此節交代シテ下リ懸立寄中山侍從様御身上ノ事相尋候故一昨年御旅館ニ相成候事ヨリ一昨冬長府役人を仕候御潜居爲致候義杯申聞候御逝去ノ事相尋候故小生ハ隊中ニ罷在候テ去冬押詰候テ病氣之爲メ致歸宅候位ノ事ニ付委クハ不存候得トモ御逝去ノ御事ハ承リ申候クワシキ事御聞被成度候ハ、長府へ御越ニテ御尋ニ候ハ、相知レ可申ト及返答候

中山侍從忠光彌ニハ亡父景明常ニ隨從ス侍從ハ長府ヲ里許綾羅木村ト云ヘル處ニ小屋ヲ設ケ愛ニ住ス夜半人アリ殺害セラルル事甚タ大塔宮ノ事迹ニ似タリ

扱京師ノ近狀ヲ相尋候處左ノ事柄物語相成候

○會ハ幕府ヨリ嫌疑ヲ受居候由イマ迄周旋不十分トノ事共ナランカ

○酒井雅樂並今一人旗本ノ内何某老中ガ此兩人ニテ事ヲ執候由

○尾州至テヨロシ長州ノ周旋被致候由當春幕府尾老公ヲニクミ江戸へ

呼下シノ沙汰申付候得共尾老公其意ヲサトリ朝廷御用多ト申テ不罷下

其代リニ淀ヲ被差下候處幕ニテ淀ヲ押込于今其儘ナルヨシ

○尾老公當時尾張へ歸在尾州ハ一藩舉テ正義ノヨシ

○尾老 歸國後ハ會黒谷へ引籠リ候由諸藩ヲ恐レタル氣味カ

○關白二條様へ正義黨投ケ文ヲ致候由イカナル事ヲ書キ候カ不存

○下加茂ノ宮へモ張紙イタシ有之由噂

○朝議當春ハ至テヨロシク二月廿四日紀州ヲ被爲召候テ紀州參内致候處幕早々上洛イタシ速ニ攘夷致候様ニト被仰出候處紀州返答ニハ上洛之義ハ私御受合可申上候得共攘夷ノ義ハ御受合難申上候處モシ幕攘夷不致候ハ、諸侯へ申付攘夷可爲致トノ

勅命有之候處其夜廿五日ヨリ直様紀ハ江戸へ罷下候由

○朝廷此節ニテハ又少々御ユルミノ赴ト被相伺候但此セツ連モ去年長州ヨリ御登リ砌ヨリハ急度御ヨロシキ方ナリト

- 五月廿七日小田村君ト長府井上少輔氏ト筑前ヨリ歸リ懸トテ船ヨリ來訪長府ヨリ泉十郎氏來リ小田村井上兩氏ト談話奇隊ヨリ安部宗兵衛來ル各一席一酌小田村君ヨリ九州ノ様子承ル○薩ヨロシキ評判○肥後ワルシ○筑前未半途○肥前モ對州ノ一件ニテ不手際ノヨシ此節條公ヘ俄ニ媚候由○久留米少々目覺ノ形ナト承ル
- 閏五月二日野村靖之助君來訪招魂場祭ノ事相談有之直様歸省
- 三日晝過土方楠左衛門君上下京都ヨリ歸リ懸トシテ入來直様屯兵場ヘ申遣候處福原知勝君入來同道ニテ長府ヘ被罷越京師ノ様子幕ノ事情ナド承ル土方家來光藏ハ滞在
- 四日土方氏長府ヨリカヘリ來ル今夜直様馬關ヘ行明日山口行ノ由光藏モ奇兵隊迄供ス
- 六日土州利岡玄兵衛ヨリ先日差送候金子ノ請取書並返答ナド土方ヨリ

送リ來ル利岡變名小藤又兵衛ト云

- 七日土方君ト黒岩何某入來夕方歸省
- 八日上酒五升三條様ヘ献上之分土方君ヘ相願置候ニ付今日馬關ノ旅宿東南部町綿屋彌兵衛方ヘ爲持遣シ置猶又一昨亥十月秋月戸原卯橋氏ヨリ國元届被相頼候百將傳一冊是迄便宜無之延引之處楠屋勘三郎迄届方之義土方君ヘ相頼サシ送ル土州利岡平吉ヘ當春ノ返答并玄兵衛ヨリ十五兩ノ受取書入組虎屋吉三ニ仕出ス
- 廿八日報國隊ヨリ井上治兵衛江本高吉來訪小田村君ヨリノ書狀山口ヨリ金子四郎取カヘル分江本持來ル小田村君ヘ先日相頼置候知行米ノ事書付ニ御付札相成候分御差越
- 五日谷梅之助君ヨリ來書菓子箱送來ル谷梅之助ハ高杉ノ變名ナリ
- 十日高杉野村ノ兩君來訪小酌夕方歸省
- 十五日奇隊菅六郎平岡太郎兩人來訪今夜止宿十七日歸省

- 十六日安邊無藏ヨリ菓子箱來ル
- 二十日大塚正藏來訪白根太助ヨリ送來ル由ニテ昨子二月御沙汰ニ相成候廉作祭祀料之金二圓持參受取候
- 二十七日長府正木ヤ筑前ヨリ歸リ懸藤四郎同道ニテ罷越在筑前大庭ヨリ添書等有之藤氏此方へ止宿
- 二十九日奇隊服部良輔入來止宿
- 七月二日今日招魂場棟上奇隊ヨリ福田良輔君御楯隊ヨリ川北有地同道入來又佐々木男也君モ來訪
- 三日高杉野村兩君入來今日一同大會藝妓等モ來ル
- 六日福田佐々木野村川北有地ノ諸君入來一酌ノ上無程船ニテカヘル
- 八日大庭傳七遠藤常太郎同道ニテ晝前筑前ヨリ歸リ懸ケ立寄土方森寺氏等ノ書狀持カヘリ來ル土方ヨリ扇子貳本送り來ル三條西様壬生様之御染筆ナリ

- 九日岩城山木谷修藏ヨリ來書
- 十二日夜深更福田良輔君來訪止宿
- 十三日藤四郎馬關行晝過長府遠藤常太郎同道ニテ歸リ來ル
- 十四日夜ニ入り庫之進峯太郎隊中ヨリ歸宅
- 廿八日夜ニ入り土州石川誠之助氏來訪尤上方ヨリ下リ懸ノヨシ今夕止宿
- 八月二日筑前石藏屋卯兵衛來訪尤大庭ヨリ添書有之
- 三日夕方山縣君三好兩君來訪近日招魂場祭禮執行ニテ其用意等ニ出關ノ由直様新地ノ旅宿へ被行
- 四日晝過高杉君來訪ニテ同道シテ山縣三好兩君ノ旅宿へ行招魂祭一件及示談又萩椿ノ大宮司青山上總出關祭事關係ノヨシナリ
- 五日朝ヨリ新地仙崎屋方へ行青山氏ト神事用談ニオノレ神事奉行被申付相勤ナリ夜ニ入り青山同道歸宅

○六日奇兵隊出張ニ付山縣三好兩君あみたじ被行青山氏此方ニテ祝詞ヲ書調ヘル大賀郁助來ル晝飯ヲ早クシテ招魂場へ行無程奇隊出張一應五軒屋ノ所ニテ休足夫ヨリ大隊訓練青山トオノレ大賀長野與右衛門並社人兩人招魂台ノ宮へ誥ル夫レヨリ鏡下垂著用惣奉行ニカワリテ献供ス是神事奉行ノ役也大賀長野ハ献供官青山ハ祝詞師ナリ扱相濟奇隊殘ラズあみたじ町へ引取候故小生青山大賀夕方歸宅服部良輔山下七三郎來訪各一酌ス

○七日服部歸陣ス青山大賀山下滞在

○八日青山其外滞在夜ニ入り高杉君入來

○九日於當家我藩ノ諸有志ノ神靈マタ諸藩義士ノミナ國事ニ相斃候モノノ亡靈ヲ祭ル諸靈上壇ノ間ニ祭リ青山祝詞ヲ唱候大賀山下献呈等致シ吳神祭執行朝ヨリ有馬管道來リ献供物等取調候晝より神供ヲ下シ高杉君ヲ招請銘々頂戴オノレ實名奥ノ字サシ合候付今日御神圖イラシニテ資風ト

改ム夜ニ入各大飲四時高杉君歸省

○十日今朝青山大賀山下歸省ニ付別盃ヲ傾ク

○十五日晝過奇隊ヨリ大枝八郎山本平槌神田作二郎中村新八ナド來ル夕方福原三藏氏モ來ル

○十九日奇隊山縣片野ヨリ井石綱右衛門ノ奉書送り來ル綱右衛門留守中ニテ預リ置候奇隊ヨリ原半武弘九一杉山十吉招魂場參詣トシテ來ル長府伊佐太郎遠藤六郎杯來訪

○廿一日夕方林半七中村百太堀市二郎長嶺清之進三隅權三五氏來訪林長嶺三隅ハ止宿

○廿二日林半七君新地出張ノ桂氏ニ行長嶺三隅奇隊ヘカヘル

○廿八日オノレ桂君ヲ訪ヒ候得共馬關行ノ御留主ニテ不逢カヘル

○九月三日福田良助君來訪庫之進歸宅神保治輔ヘ弓ノ代料拂

○六日奇隊ヨリ杉山元森岡千吉ノ三氏來リ一酌ス

- 十四日木谷修藏君來リ招魂場へ同道
- 十八日紀州人里見二郎政名瀧英之助ヨリ來書ミナトノ風三冊貸渡ス
- 二十二日厚東次之助氏來訪
- 二十四日尾川彌一郎來訪又奇隊ヨリ渡邊義助阿武市之進曾我部無二藏二階登四氏來訪
- 二十五日里見二郎今日ヨリ此方へ止宿ス
- 十月七日筑前ノ石藏やト藤四郎ト兩人來リ上方ノ事杯相承ル夕方瀧英之助歸省土州阪本良馬君上國ヨリカヘリテ山口へ被罷越又直ニ馬關へ被出候由等相承ル
- 十月九日藤四郎來訪長州追討ノ事相決シ幕 勅許ヲ請罷下候云々風聞
- 十一日瀧英之助備前行發足躰トシテ金員ヲ贈ル
- 十二日南奇隊木谷修藏ヨリ古學神祭略式八冊送り來ル寫本也
- 十九日藤四郎來話交易之事幕へ 勅許有之由

○二十日青山上總田邊嘉三郎來訪一宿

○二十一日京都錦小路様御内人渡邊左衛門殿ヨリ來書昨子七月仕出之分ナリ左ノ品々今日山口ヨリ到來錦様御滞館中ノ御挨拶トシテ十品箱入ニシテ御差越頂戴被仰付候是ハ昨年渡邊氏山口迄持下リ山口へ被托置候分

内侍所御久米 玄猪餅二包 御短冊三葉 たはこ入一組 揚枝さし二ツ 御箸三膳 ふしの粉五袋 糸入七ツ 御茶碗一組 江猪口二ツ等ナリ

○廿三日今朝青山歸省ニ付馬關迄送り行途中北條瀨兵衛君ヲ訪ヒ林壽之助白根太助大塚正藏ノ三氏へ逢高杉君ノ旅宿ヲ訪ヒ同君ヲ同道ニテ曙亭へ行夜ニ入迄酒宴北條君ノ馳走ナリ

○廿五日今日晝過ヨリ招魂場ニ於テ松陰先生ノ御祭執行高杉山縣福田伊藤青山ノ五君ト小子ナリ歸路伊藤君ニテ馳走有之

- 廿六日青山君同道ニテ長府へ罷越途中石藏やへ逢夫ヨリ大庭へ行同廿八日歸宅
- 十一月一日高杉君ヲ招請ス伊藤春助君土州田中謙介氏同道入來夜ニ入退散田中氏止宿
- 三日奇隊山本平槌來ル弓二丁さし矢五十本買得ス
- 四日石藏や來ル談話ス筑前之有志月形伊丹ハシメ二十一人先月末斬首ニ逢候云々
- 九日瀧英之助來今夜止宿林壽之進佐々木權四郎來訪一酌奇隊ヨリ瀧原勉來リ書記坐ヨリ招魂場ノ圖面委ク相調サセ差出吳候様頼來候故直様醬油ヤ文三へ申付ル夜ニ入り報國隊ヨリ來書瀧英之助事申來ル
- 十九日奇隊ヨリ湯淺祥之助尾川彌一郎來訪止宿夕方瀧英來リ對州ノ異變承ル
- 廿七日新地村屋房吉長府ヨリ歸リ懸ケ立寄大庭大變ノ事承ル昨廿六日

夜御咎ニ逢候由三十人計リ持筒ニテ入來御上意ト申テ繩ヲカケ候由然ル處今朝ニ相成同格ノ者四五人來リ繩ヲ解キ張番致居候由ナリ報國隊長泉十郎氏ハ召捕修禪寺ニテ割腹爲致候云々左候間無間長府ヨリ藤四郎藤林六郎罷越右之次第申聞候内又々瀧英之助大藤太郎等モ來リ同説ニ候得共巨細之處不分明ニ付直様オノレ石藏ヲ同道シテ高杉君ノ旅宿へ相伺候處入江角次郎モ高杉君ノ處ニ來リ居同人モ無心之趣ニテ今夜如此高杉氏へ止宿ノ由申居候右ニ付高杉君桂小五郎君へ被相談明日篤ト聞合ノ上所置可致トノ事ニ付オノレト石藏引取候夜ニ入筑前ノ銘々ヲ外方へ潜伏爲致瀧大藤ハ旅宿ニカヘル

○廿八日藤四郎藤林兩人入來無程シテ石藏やモ來ル夕方瀧大藤ナト來ル對州人原啓三郎安田鐵之助等モ入來此節段々異變ノ事有之由申居候

○二十九日醬油や文三招魂場ノ圖面差出候ニ付井石へワタシ奇兵隊陣屋へ送ル今日村房長府へ差遣シ大庭ノ様子聞合トシテ村田彦左衛門へ一

書差出ス村田返書ナシ先ツ格別モ無之趣承リ歸ル其旨高杉君へ報知ス
○三十日對州人新地滞在ノ内兩人安田鐵之助本名佐野金十郎原啓三郎本
名吉野榎兵衛兩人來談一酌ス新論二冊國史略五冊貸畫過カヘル夜ニ入
瀧英之助來リ長府ヨリ馬關立退候様申參リ當惑之次第申居候
○十二月二日筑ノ大藤太郎來リ瀧英之助事長府方ヨリ毎々セリ立候由ニ
付旅費ノ事申來候故先ツ長府へ被願出候様モシ其上ニテ長府ヨリ不出
來ノ時ハ乍聊心配致段申聞セ置候今日伊崎竹崎萩御領ニ相成被引渡候
○十二日入江角二郎へ行岡崎一條及相談候處内田孫四郎ヨリ弁解爲致可
申ニ付相頼置候夫ヨリ入江同道高杉君ヲ相訪折柄福田良輔白根太助參
リ居酒宴中馳走ニ相成長府一件先夜大庭一條之禮謝申述候處跡々ノ事
迄被申聞候テ致安心候猶當節借財鼻ニ責來候段噂致候處折柄林半七君
モ來リ居高杉君ヨリ同氏へ山口政府ニテ白石方ノ事周旋イタシ遣候様
ニト被相頼其末懇切ノ咄シモ有之候

○十三日林半七君來訪直様新地へ被罷越候間正一郎不逢
○十四日林半七君新地ヨリ歸途來訪無程福田良輔君モ來訪午前ヨリ一酌
夜ニ入又々小酌今夜止宿林半七君曰ク當家借財四五百金ニテ當分間ヲ
ワタシ不申哉ト申聞候得共夫ニテハ所詮間ニ合不申然ルニ當節又々幕
情相迫候由ニ承候オノレ勘考スルニ君上有テノ事ニ付先々當分カリ主
ヨリ責來不申様被仰付度追討ノ一舉平穩ニ相成候上此家屋敷御買上相
成候様御周旋被成下度夫迄ハ先ツ見合可申ト返答ニオヨブ其折柄岡崎
ヨリ又々督責候故委細入江角二郎へ相頼置候間宜御承引被成下候様使
へ申渡シ差返候

○十五日福田林一酌盡過歸陣

○十二月十七日石藏や入來高杉君ノ處ニテ相承候得バ赤根武人長府へ罷
下候由干城隊ヨリ召捕ニ相成候トノ噂申居候

○二十六日内田孫四郎へ岡崎一件ノ挨拶トシテ有功卿御額横物一軸サシ

遣ス

○二十八日晝大庭ヨリ人來リ昨日御裁許蟄居ノヨシ先ツ安心仕候

慶應二年丙寅

○正月十二日高杉君祭リトシテ來駕十六日新地忠兵昨年戦死ノ一周祭有之

○廿二日肥後藩入江八十兵衛ト云人來訪初テ面會正義ノ者トノ由至テ質朴ナリ對州ノ多田莊三氏ヲ相尋候故新地滞在ノ對州人原啓三郎へ申遣候處直様來面談ス尙又都合役内藤清兵衛君へ添書致シ遣候處夜ニ入本ノ手子入江ヲ連テ此方へ止宿ノ義相頼來ル廿三日内藤氏馬關へ出ガケ立寄ラレ入江八十兵衛義山口ヨリ返答有之迄滞留爲致吳候様トノ儀ニ付承知之旨返答ス

○廿六日大村藩渡邊昇北條新三郎深澤行藏ノ三氏來訪入江八十兵衛一席ニテ一酌夕方新地本ノ山田彌藏來リ入江八十兵衛願ノ通山口行不相叶

早々出立候様トノ義申參ル夕方大村藩歸省

○廿七日大村藩長府大庭へ逢度之旨申ニ付大庭呼ニ遣ヌ入江八十兵衛出立ス夜ニ入對州多田莊三原啓三郎前田内藏之介三氏來訪又奇隊ヨリ大枝八郎中村新二郎兩氏來止宿

○廿九日林半七日君來リ知行米ノ事山下へ申聞セ吳候由猶又清末ノ扶持方米ノ事モ深切ニ取計イタシ被吳候

○二月一日奇隊ヨリ惣官始山縣君其外遠乗シテ來ル井上聞太君伊藤春介君野村靖之介君ナド藝妓召連來リ暫ラク大サワギ

○二日片山貫一郎來訪外二人同行夜ニ入神保君來片山神保君止宿

○三日片山神保招魂場行今夜片山妻君ノ有談

○五日東白來ル配偶ノ示談相調候六日奇隊ヨリ木村文五郎氏來

○九日奇隊ヨリ國司若太夫ハシメ片野時山君ナド入來

○十二日奇隊ヨリ堀潜太滋野謙太郎元森山田鵬介ノ四名來

- 十三日堀滋野兩君來リ招魂場圖面ヲ持テ彼所ヘ行石藏や正ゆや文藏モ來ル
- 十四日高杉君ヨリ來書林有聲來訪
- 廿三日高杉君ノ御家内出關此方ヘ當分滞在ナリ
- 三月廿一日高杉君さつま行發足ニ付別盃ス
- 廿二日片野十郎晝出立川棚ヘ入湯ニ行奇隊ヨリ五人來客石田中村其外
- 廿五日山縣狂介君川棚ヨリ來ル又湯淺祥之助本森熊二郎二君來ル今日各片山ヘ招飲ニ付同行ス井上聞太桂小五郎兩君モ入來一席ナリ
- 四月一日高杉君ノ御家内不殘歸省
- 五日青山上總君來ル
- 八日青山翁片山ヘ招飲ニ付オノレ同行シテ行
- 十一日招魂場祭奇隊行軍ニテ出張青山片山オノレ出張例之通勤ル
- 十三日井石綱右衛門奇隊ヨリ歸リ來リ幕情迫リ候ヨシ承ル

- 十五日瀧彌太郎重見多仲木梨某ノ三君其外手付等も來止宿今日大坪村藤吉ヲ呼申聞ルハモシ戰爭ニモ相成候ハ、藤吉幸右衛門ト二軒借用申度ト相談シ候處承諾ス
- 十六日瀧重見二君其外歸省今日ヨリ荷物少々取片付置
- 廿三日井上聞太君馬關ヘ行ガケニ立寄京師少々變事有之由承ル
- 廿四日太宰府土方君ヨリ來書南大一郎ト改名九州ノ事情爲知來ル
- 五月三日福田峽平南野一郎近藤政介三君來ル
- 五日高杉君ヨリ兩眼鏡被惠候
- 廿九日同氏土州石川靖之介君同道ニテ來ル
- 六月四日目明升屋市藏申來ル小瀬川ヨリ一里程先キニテ手始ノ戰爭有之候由相聞申候段爲知來ル
- 七日自是先キ奇隊不殘一ノ宮ヘ出張今日一ノ宮ヨリ山縣片野兩君來ル
- 十三日晝傳聞大島郡ニテ戰爭始候由

- 十四日今夜高杉君大嶋郡ヨリ歸關
- 十五日奇隊大石南陽氏桂權吾氏立寄候今日薩ノ足輕一人石藏やト佐々木寛造トノ狀持來對州ノ人橋安内急ニ崎陽迄下リ候様對州ノ回復策略出來トノ義申參ル直様サツ人ヲ新地對州人ノ所へ遣ヌ
- 十六日高杉君ヨリ内意承ル片野十郎君來ル今夜ノ支度用意シテ石藏佐々木へノ返書認置家内へ托ス晝過長府ヨリ大庭等三人來ル相圖砲兼テ正八ツ半ト承候處遅ク相成候及深更奇隊ヨリ會田春介氏出關無程夜モ明奇隊モ惣出張之時船ヨリ相圖砲打出ス
- 十七日早朝阿彌陀寺藏ノ所ニ勢揃候處渡海ノ船一艘モ無之及遅刻門司田ノ浦兩所ノ海岸ニ軍艦二艘宛四艘ヲ以テ未明ヨリ大砲打カケオビヤカシ候初ノ程ハ豊前ヨリ一發モ不打出四ツ時分ヨリ少々打出シ候此方ヨリハ長府方壇浦古臺場ノ所ヨリモ打出シ兎角スル内ニ奇隊先鋒田ノ浦へ渡リ田ノ浦人家燒立小倉ノ斥候馬上ノモノ一人打落シ首ヲ切り馬ヲ分捕ス其中ニ晝頃中軍不殘門司へ渡リ放火致シ彈藥五十余箱大砲野戰砲ノ類共外ろうそく等澤山分取スタ方各歸關夜ニ入片山同道歸宅ス
- 十八日朝大草臥五ツ過山縣君入來高杉君ヲ被尋候得共此方へ居不申ニ付直様イツル奇隊中軍晝時分一ノ宮へ引取ル
- 十九日三田尻海軍局之本ノ脇卯兵衛氏片山同道ニテ來リ夕方高杉君入來夜ニ入長府ヨリ印藤辨介氏來ル
- 廿日朝土州坂本良馬君入來高杉君ト談話其末高杉君同道ニテ出關さつ人右田傳兵衛今朝ヨリ太宰府迄可遣筈之處さつ人山田孫一郎氏來關ニ付止ニ相成是ハ兩筑久留米柳川へ書翰届方頼ムノ策ナリ右ニ付高杉坂本二君同道馬關へ行カレ候夜遅ク此方へ歸省
- 廿一日政事堂ヨリ高杉へ諸口勝利ノ報知有之晝過大庭始報國隊ヨリ四人來福田俠平了嚴僧遠藤三君入來徳山遠藤貞一氏ヨリ來翰小倉襲ノ事態々尋被來何ノ宅右衛門ト云モノナリ夜ニ入山口ヨリ御使井上某高杉

君へ御書持來ル

○廿二日朝高杉ト井上ノ兩君馬關へ出張アトニ對州多田莊三氏來ル内藤清兵衛君高杉君ヲ尋テ來ル直ニ歸ル山本熊太郎氏來ル又防州大樂源太郎氏ヨリトテ三人來ル伊達權介伊藤讓吉土屋源吉三人トモ止宿相頼候故一宿サス

○廿三日高杉君馬關ヨリカヘリ來及深更山縣君來直様カヘル

○廿四日朝山縣福田兩君來高杉君同道シテ馬關ニ行

○廿六日今朝ヨリ大砲シバ／＼小倉沖ヘナル高杉君カヘリ來ル

○廿七日さつま人右田傳兵衛歸省晝木戸君來訪又福原三藏君來夜ニ入幕船通行一發打候故直様庚辰丸ヨリ打出ス高杉君直様出關夜ニ入遅ク此方へ歸ラレ候

○廿八日晝庚辰丸船將佐藤君來又福原三藏君來ルサテ高杉佐藤福原三君出關

○七月二日夜ニ入高杉君カヘリ來ル明早曉小倉襲ノ事被申聞候故其支度シテ夜八ツ時出張ス

○三日曉七ツ前奇隊報國隊門司田ノ浦ヘツタル夫ヨリ山ノ道海邊トニタ手ニツケ攻行候處朝六ツ時大里へ出戦ウ先鋒凡六百人計小銃打合砲聲馬關へ手ニトル如ク聞ユ五ツ時分大里人家燒立候夫ヨリ中軍渡海門司ヨリ海邊ノ道ヲ行候處小森江邊ニテ先鋒人數不殘引上ケ歸候ニ逢夫ヨリ大里へハユカズシテ其所ヨリ各歸關晝八ツ前ナリ此度ノ策略ハ長府方ノ濱崎林槌始外五人水練達者ノモノ高杉君ヨリ兼テ被申付昨夜半前早船ニ乗組小瀬戸ヨリ小倉沖ヘ廻リ幕ノ富士艦へ近寄蒸氣釜ノ通リヲネラヒ大砲三發ヲ以蒸氣釜ヲ打碎キ直様水練シテ六人トモ海ヲオヨギ福浦へ歸リ候ナリ右ノ蒸氣釜ヲ大砲三發ヲ相圖トシテ引嶋弟子松ノ臺場ヨリ長府川崎虎吉大里へ大砲打カケ候ヨリ始トシテ此方ノ軍艦馬關沖ヨリ打スクメ陸ヨリハ奇隊報國隊ノ先鋒打入候等ニテ大里ヲ早ク打

取候ナリ但今日分捕ハ甚少シ大里ヘハ彼ヨリ絶テ用意モ無之様ニミユル扱各歸關正一郎八ッ過歸宅

○七月五日福田俠平川崎虎吉了嚴和尚三氏來又片山正文招魂場祭ノ事ニテ入來

○六日長府福原品川川崎又奇隊ヨリ福田ノ四君來高杉一同引島ヘ砲台見合ニ行其フトニ土屋平四郎君丙辰丸石田鼎氏田中謙介君等來又寺内外記君松平伯州ヨリノ意味書持來ニ付寫シ置休足ノ處ヘ高杉福田福原品川ノ四君歸リ來暫休足各歸省高杉了嚴片山三君止宿夜ニ入小荷駄方中村來リ明日祭事及談話カヘル

○七日招魂場ニテ過ル六月十七日七月三日小倉攻ニ戰死ノ銘々七人ノ神靈ヲ祭ルニ付隊中ヨリ凡百五六十人出張本陣ノ銘々惣官始山縣福田片野時山五君入來暫休足夕方ヨリ各歸省丙寅丸ヨリ船將河野并石田鼎氏モ來夜ニ入高杉君馬關ヨリ歸竹招魂場今日之獻供ハ畧式ニシテ正ゆヤ

文三へ頼ム

○八日朝寺内氏入來高杉君ト同道馬關ヘ行カレ候佐々木祥一君モ行晝過丙寅丸河野石田鼎田中謙介三君來夜ニ入高杉寺内二君歸リ來今夜三絃ニテ大サワギナリ今日さつま本田九郎ヨリ菓子到來ス

○九日四ツ時國司太夫寺内并佐々木祥一君杯同道入來夫ヨリ高杉君片山オノレ伊崎沖丙寅丸ヘ行毛利登君養子大田寅之助君一同丙寅丸ヘ行岡何某ヘ逢暫シテ歸宅寺内君ヨリ酒肴及素めんナド持參有之候夕方國司太夫ヲ供シテ佐々木一ノ宮奇隊陣やニカヘル國司氏今日ヨリ奇隊ヘ入込ナリ夜ニ入山口ヨリ遠藤君來ル

○十日晝前奇隊ヨリ久我中村元森三浦堀原ノ諸君來ル原尺八ノ名人今夜一笛承ル夕方寺内君曙亭ノ娘誘引大酒宴ニナル

○十一日高杉寺内兩君ト同道馬關行夕方歸省寺内君ヨリ白壽ト云酒壹丁被惠候丙寅丸ヨリ四人來夜ニ入歸ル

- 十二日福田俠平山本平八寺内諸君入來萩町人加藤庄右衛門モ來長府家老細川三吉三澤三君來高杉君ト談話濱崎林槌モ來ル夕方歸省夜ニ入久保松太郎君入來又丙寅丸石田氏來
- 十三日朝寺内君入來高杉了嚴二君ト一同出關其アトニ奇隊滋野謙太山田鵬介安部宗兵衛三君來ル
- 十四日晝過大庭ト藤四郎來ル夕方カヘル夜ニ入高杉君關ヨリ歸竹後ゴヤニ居候醫者何某小倉ノ圖面持來ル
- 十五日佐世八十郎君湯川何某來訪高杉君ト有談又寺内君入來各一席ニテ夕方皆歸省
- 十六日朝遠藤謹介君來高杉君へ有談又夕方山縣君入來今夜高杉君ト濱門ニテ一酌ス
- 十七日高杉君出關寺内君了嚴氏同行今夜ハ各滯關
- 十八日朝佐世氏高杉君ヲ尋テ入來直様長關紅喜へ被行候

- 廿日徳山藤井孝太郎田中秋之丞遠藤貞一ノ三氏ヨリノ書翰ヲ持來リ米二千石買入之事申來高杉君より越荷方へ申入相成候
- 廿一日朝軍艦船將佐藤君入來谷君不快長府ヨリ濱崎來又花山君入來昨夜崎陽ヨリカヘラレ候由ナリ高杉君へ有談五ツ過奇隊ヨリ神西彦太郎氏來向地探索ノタメ筑かね崎迄渡海ノ義中屋權兵衛へ申付吳候様山縣君ヨリ添書有之ニ付直様權兵衛へ申付候今夜出帆ノ由申居候大村藩渡邊昇和田藤三郎兩氏來ル其マヘニ船將河野佐藤兩氏高杉君へ談話有之相濟大村士一同一献出シ夕方渡邊和田二氏ハ馬關へ行明日ヨリ山口行ノ由ナリ夕方四艘ノ船將財滿百合熊福原三藏佐藤河野ノ四君其外廿六人來高杉君へ有談夜ニ入寺内佐々木二君馬關ヨリ歸途來訪寺内君止宿
- 廿二日高杉君不快永野昌英氏見舞ニ被來直様歸ナリ對州人安田鐵ノ介長崎ヨリノ書狀來橋爲一郎原啓三郎届ノ狀入組來ル直様爲持遣ス
- 廿三日朝福田俠平君來晝久保松太郎君并福原三藏君來高杉君へ有談神

保治介羽鳥泰藏二氏來夜ニ入奇隊ヨリ高杉君へ鯉魚送り來ル

○廿四日福田俠平君入江和作氏高杉君へ見舞ニ被來又佐世君入來高杉君へ有談又寺内佐々木祥一了嚴四氏等引しまヨリカヘリ掛入來各一酌

○廿五日朝財滿百合熊藤井正之進兩氏高杉君へ來談四ツ時大庭來リ夕方一ノ宮陣屋へ出張庫之進ヨリ鯛七十送り來ル片山來リ居夜ニ入寺内君ト一酌ス對州多田莊三氏ヨリ小倉ノ事情承ル

○廿七日曉七ツ時ヨリ漁船ニテ千本同道龜山下迄行今日小倉攻取ナリ夫ヨリ本陣伊藤へ行惣管其外へ逢暫シテ大里ノウエ柳村ト云處ノ百姓家ヲ假ニ本陣ニシテ相詰ル然ルニ今曉ヨリ渡海之先鋒各砲撃シ朝六ツヨリ晝七ツ時迄無間合及砲戰大里ヨリ先キ新町ト云處迄台場四ヶ所ヲ落シ新町ヲ燒拂先鋒ノ内或ハ山ノ手ヨリ大谷ノ方へ廻リナドシテ兵糧持運ビ等モ不行届又本道ノ方ハ赤阪ノ台場延命寺ノ台場ヨリ頻ニ攻登リ行キ候此處ハ小倉要衝ノ地ニテ賊軍モ大事ト能ク守リ加之船手ヨリ大

砲ヲ打カケ進退不自由應援ノ兵道ヲタ、レ先鋒ノ銘々大ニ苦戰ヲ致シ且賊台場ヨリ大砲打出シ旁難戰ノ處山田鵬介氏ノ手臺バヘ登リカ、リ候處佐々木祥一氏致加勢候得共何分要衝ノ地堅固ニ守居候故不得止引退キ候處賊兵恐怖致候カ追討モ得セズ双方相引止戰ニ相成候扱今夜大里へ滯陣ハ無覺束ニ付船手ヲ以テ守ラセ各馬關へ歸ル也

○廿八日高杉君オノレ了嚴氏三人漁船ニテ馬關へ行高杉君ハ越荷へ上ラレオノレ等ハ本陣伊藤へ行無程高杉君モ入來福田君其外同船ニテ大里ノ濱久留米屋敷ノ入江ヨリ上陸今日船木ノ勢湯川平馬君ノ手二百人斗大里へ渡ル其外小隊十隊皆々大里ノ本道又山ノ手諸々へ台場ヲ築キ防禦用意ス夜ニ入凡出來候付大里ノ町中ニ大篝ヲ焚終夜廻番ス報國隊モ同斷サテ本陣ヲ久留米屋敷鎮守社ノ拜殿ニ取ル

○廿九日所々手配嚴重ナリ問者一人召捕小倉ノ様子承ル晝越荷方ノ頭入新地本メナド來候間本陣ヲ引しまニ立候様談示相成候

○晦日今日モ諸隊馬關ト交代ス大里村小森江村其外百姓人別取調子米百五拾俵御惠被遣候ニキマル晝過高杉君ト一同馬關ヘ引取候夕方歸宅ス奇隊ノ惣官本陣竹崎屋敷ヘ轉陣ナリ

○八月一日今日ハ休足高杉君朝ヨリ馬關ヘ出張入ツ時分毛利左門寺内佐々木片山厚東ノ諸君ト一酌サテ晝過ヨリ小倉大火ナリ城ニ火ヲカケ候由ニテ高杉山縣二君ト大里ヘ渡リ夕方カヘリ來ル

○二日朝惣官山内君始高杉寺内片野時山諸君オノレ了嚴等大里ヘ渡ル直様小倉ヘ行市中悉アキ家ナリ盜賊甚多ク橋本ノ大坂ヤト云ヲ本陣トシテ晝飯相仕舞夫ヨリ小笠原壹岐守ノ旅宿丹賀ノ宗源寺ヘ行其外諸處見分むろ町人家焼亡夕方ヨリ客屋ト云ニ火モエ付火ノ手ハグシ今夜長濱ト云處ヘ本陣ヲカマヘ各休足分捕之武器大砲野戰砲小銃彈藥兵糧米等諸品多シ

○三日朝ヨリ城内見分今日モ盜賊多シ制シ候得トモ不行届ニ付刀ヲ抜キ

一人ムネ打致候又一人ハ城内ヘ縛リ置ナリサテ城中諸所見分武器役所家老屋敷ナドモ見分澀田見新ト云家ニ女一人小銃ニテ腰ヲ打タレ死ス此方ノ隊ノ者ヘ双向ヒ候由ニテ無據打殺シ候由ナリ夫ヨリ八ツ時富野台ノ台場見分有之其間ニオノレ高杉君ニ願ヒテ妻ノサト富野ノ林宅ヘ行見候處勿論皆逃去リ盜賊ドモ昨今亂入之体ナリ雜具ナド取散ラシ有之ドノ手ノモノカ四五人から濱ヲ澤山持逃候處ヲオノレ見咎制シ候處其儘ニサシ置退散ス然内富野下男トモ兩三人出來リ候故幾之助岩平早々致歸宅小庄屋ニ沙汰シテ百姓鎮撫候様ニト一筆認メ下男ドモニ托ス然ル處高杉君始各富野ヘ入來ニテ各一同ニ引取夜五ツ時大里乗船四ツ時歸宅

○四日新地都合役遠藤君入來高杉君ヘ有談晝過ヨリ高杉寺内二君馬關行
○七日朝前原君入來高杉君ヘ有談長府ヨリ村上衛士熊野清右衛門原田準二ノ三君入來又萩ヨリ諸士多人數來ル皆高杉君ヘ有談侍御史林主稅君

高杉君へ有談入來無程各歸省さつノ本田九郎間者ラシキ様子承ル直様正ゆや武右衛門呼遣シ相尋候處未タ新地へ滞留ノ由申ニ付尙又明朝内分開合セ候様申付ル

○八日早朝武右衛門來薩人イマダ菅野方へ滞在ノ由申出候間高杉君ヨリ早速さつノ伊集院直右衛門君土州石川誠之介君へ書狀被遣候處晝時分出浮キ直様菅野へ行及談判候處少シオカシキ様子相見へ中ニモ過二日小倉ニテ書物二十箱軸モノ五幅ヲ致分捕候由申候ニ付旁アヤシク右ニ付伊集院石川罷歸リ候上ニテ奇隊三好軍太郎君呼ニ遣シ其末本田出帆ノ趣相聞へ候ニ付三好君直様新地會所へ行都合役遠藤君へ問合本田出帆被差留候扱伊集院石川兩氏へ酒ヲ出シ過日小倉攻ノ時肥後人戰爭ノ様子其外ノ事等委シク承ル

○九日昨夜ヨリ高杉君馬關行今朝寺内君來又侍御史林君高杉君ヲ尋テ入來都合役遠藤君モ來各待合セラレ候故晝前一酌ス高杉君歸ル

○十日侍御史林君入來高杉君へ有談無程歸山大村渡邊昇後藤某兩氏來訪西嶋青浦氏モ來リ各一酌夜ニ入奇隊ヨリ杉山氏來ル

○十一日さつの伊集院土州ノ石川兩氏入來サテ小倉ヨリ報知曾根邊へ殘兵出來リ戰候由相聞へ候晝前ヨリ高杉君渡海ニ付オノレモ行キ赤阪ヨリ上リ富野へ立寄候得共誰モ不居アキ家ナリ夫ヨリ廣壽山ノ本陣へ行佛丹廟ト云ナリ今日渡海ノ節遠藤祥介君ヨリ三枝文二郎ト云フモノヲ被相頼同行シテ行寺内へ相托シ置候今夜小笠原出雲家來村上彌三郎ト云モノヲ縛シ來候故取調ふ方勤ル

○十二日高杉君一同ニ歸關土州ノ石川氏了嚴氏幸介ナド同船ナリ高杉君夫ヨリ馬關へ行薩人肥後人へ相對ノ由ナリ高杉君今夜滞關

○十三日大村渡邊昇氏來リ金子ノ談有之候故高杉君へ被申候様申置高杉君馬關へ止宿

○十五日晝前湯川遠藤ナド、一酌高杉君馬關ヨリ歸竹

○十七日晝ヨリ高杉君オノレ其外小倉行長濱ヨリ上リ夕方廣壽山ノ本陣へ着今日長府ノ世子君本陣へ御出酒肴御みやげ有之由其殘肴ニ一酌御出之御船中ニ魚飛入候由吉瑞也山縣君徳力ヨリカヘリ來ル今日徳力ノ百姓トモ賊軍へ荷擔イタシ相妨候ヨシニ付穢多村二三ヶ所及放火候由承ル猶狸山ト云處ニモ賊兵出テ及合戰大枝八郎氏死亡手負十人計有之由承ル

○十八日朝高杉君葛原へ行寺内君今日ヨリ筑前行

○十九日オノレ廣壽山本陣へ滞在寺内君筑前ノ境目ニテ彼藩ノ三笠傳三郎ト云モノ逢取城下迄通行ノ處達而相斷候由ニ付口上覺書ヲワタシ置歸候由筑前大ニ恐怖ノヨシ承ル

○廿日夕方寺内君同道歸關ス歸途小倉ノ本陣廣島や甚助方へ行湯川平馬君ヲ尋候得共留主ニテ不逢對州多田莊三安田鉄之介ノ二氏へ逢一同ニ舟ニテ歸關ス今日長崎ヨリ佐々木寛造ノ家來岩吉ト云モノ留主へ來リ

荷物ナド預ケ置候由

○廿一日片山來談晝過高杉君福田俠平君小倉ヨリカヘリ來ル佐々木ノ家來岩吉ト云モノ上方へ行候由申來候故逢取候今夜福田君止宿

○廿二日今晝寺内佐世二君入來高杉君へ有談夜ニ入寺内君へふとんナドカス明日ヨリ中津行船中用ナリ

○廿五日高杉君おうのトモニ過ル廿二日ヨリ出關未歸候寺内君中津ヨリカヘル長府井上君ト大庭ト來今夜遅ク高杉君歸リ來ル

○廿六日木戸君高杉君ヲ尋テ入來又惣官山内君寺内君一同ニ入來又長府三吉君來ル各晝過退散

○廿九日井上富之介岡部何某來訪又福田俠平君來ル長府三吉君モ來ル高杉君へ有談花山君ヨリ高杉君へ見舞ニ來候青浦雲仙ナドモ來ル

○晦日三吉君來伊佐太郎氏同道伊佐事今日ヨリ海軍へ入込度相願ヒ高杉君ヨリ佐藤ノ船へ參候様被相授候先日奇隊ヨリ被頼候米三拾俵ハ當家

へ被下候由福田君ヨリ申來ル

○九月一日片野十郎君來ル直ニ歸ル山内惣官入來高杉君へ有談又長府ヨリ三吉君來高杉君先日來病氣ニ付見舞ナリ

○九日今曉豊前ニテ一戰有之由報知有之

○十二日晝豊前ヨリ寺内君カヘリ來ル高杉君今日晝過駕籠ニテ馬關入江方へ行夕方木谷修藏君來訪止宿

○十七日晝前會田春介南部一郎杉山片山李家諸君來ル夜ニ入筑前ヨリ望東老婦迎取候船カヘリ來藤四郎藤林多田莊三其外ナリ皆一酌各退散望東滞在

○十八日世良修藏君木谷ト改名

○廿日山縣狂介君立寄直様カヘル此節滯關ノ由ナリ晝鴻城軍ヨリ肥後人川上彦齊氏來訪寺内君入來穗神輝門氏來ル夜ニ入吉田陣やヨリ峯太郎歸リ來ル平岡太郎君同道ナリ今夜穗神平岡二氏止宿

○廿一日今朝豊前陣屋ヨリ庫之進交代シテ歸ル

○廿二日高杉君ヨリ來書寺内君入來

○廿六日夜ニ入多田莊三氏ト但州ノ入木龍藏ト來八木小倉陣屋へ入隊ノ義高杉君へ聞合吳候様申ニ付高杉君へ申遣候所返答來候故八木へ渡ス

○廿七日朝ハヤク庫之進峯太郎共豊前陣屋ニ行夕方寺内君來

○廿八日木谷君來訪又筑ノ藤林來ル片山ト一同

○廿九日本居先生ノ御祭リニ付片山へ行寺内了嚴木谷三氏母君望東西島青浦大木何某等ナリ山内惣官モ入來夜ニ入木谷西島二氏同道ニテ歸ル

○十月二日新地都合役遠藤君本ノ山田彌三藤田作右衛門氏ナド入來明日若殿様御出關被遊候ニ付御本陣之儀頼ミニ來ル直様御用達共呼寄掃除ニ取懸ル然内御詮義有之當家ハ止メニ成新地林方ニ成今日豊前足立陣屋ヨリ長太郎氏來書九月廿七日出ナリ夜ニ入豊後ヨリ長南梁夫婦娘來彼地住居六ヶ敷趣ニテ脱走ナリ

- 三日若殿様御馬上御出關被遊候御供馬三疋至而御小人數ナリ時勢ニ付御儉約ト相見恐入候御事ナリ
- 五日今朝片山へ朝ノ茶會席ニ被招行客五人寺内君オノレ片野南野矢野三君ナリ夫ヨリ寺内君其外ハ足立陣屋へ行夜ニ入藤四郎來望東へ有談
- 七日夕方 若殿様俄ニ濱門ヨリ被爲入候桂君ト柏村君ト六七名御供ナリ御茶一ふく被召上夜ニ入直様御歸館被遊候
- 八日朝五ツ過桂君馬上ニテ御先キ立門口ニテ老人夫婦オノレ望東ヨミ歌タンザクニ認新地都合役ヨリ山口へ送出入御覽候様トノ義被仰聞候
- 十日木戸君ヨリ被申置候御覽ニ入ル、タンザク尊大人二首母君二首オノレ三首望東三首以上十葉遠藤君へ相頼山口へ仕出ス今度薩州ヨリ山中成之助鴻池ノ事ナリ大村渡邊昇氏ト兩人來
- 十四日但州忠死銘々ノ神靈祭執行來客片山南梁夫婦望東山中白石良右衛門其外ナリ

- 廿四日今朝藤四郎藤林一酌シテ足立陣屋へカヘル夕方豊前ヨリ寺内君歸リ來ル小倉降和ノ咄シ承ル
- 廿七日招魂場祭有之例之通神事奉行勤ル
- 十一月四日白石良右衛門來リ本ヱヨリトテ小倉宿ノ事頼ニ來承諾ス然ル處夜ニ入趣有之ニ付相斷リ申遣ス
- 六日又良右衛門來宿ノ事萬事私御引請可仕ニ付只々家ヲ私へ御カシ被下候様本ヱ所ノ義ハ何モ私談判可仕ト達テ被相頼候既ニ今夕モ難計明日ハ障子張替御用之者共參候様可仕ト申ニ付任其意申候
- 十六日夕方小倉使節着万事白石良右衛門引受ナリ
- 十七日船ニテ長府行長南梁一家内長府侯へ被召候故連行ナリ
- 廿九日今夕又小倉ヨリ上下四人來ル旅宿例之通良右衛門引受ナリ
- 晦日今朝小倉使者四人漁船カリ切若松迄カヘル
- 十二月十日小倉使節昨日ヨリ應接有之今晝過ヨリ歸ル

- 十五日今夜遅ク木戸君立ナカラ門口ヨリ聲ヲ懸ラル、さつ州ヨリ歸懸ノ由ナリ
- 十六日朝木戸君ノ旋宿へ行薩ノ噂承ル今夜又々小倉使四十人計リ來ル
- 十八日朝大村藩渡邊昇氏ヨリ來書和田藤介藤田小八郎兩人來上方ヨリノ書翰四通持來候故カリ置高杉君へ見セテ返ス
- 十九日山縣福田兩君來小倉之使當家へ未滞在ト聞テ新地會所へ問合ニ行候處無程會所ヨリ書狀來小倉人夜ニ入出立カヘル

慶應三年丁卯

- 正月十六日小倉藩上下九人早朝來ル例ノ通引受ル
- 十九日同藩士乘船ニテ山口表へ罷越
- 廿日長太郎氏歸リ來リ書畫認吳侯野村望東尼モ來リ止宿
- 二十五日早朝小倉藩小郡ヨリカヘリ來ル午前正一郎逢夕方政府役人國貞直人野村右仲之兩君并給使林某三人小倉使節之取持ニ入來夕方ヨリ

正一郎ニモ罷出吳侯様トノ事ニテ出席取持今夜大飲主客トモ大醉及深更各退散小倉藩止宿

○廿六日小倉藩士へ別杯可致ツモリ之處汐時宜敷直様出帆致度云々付酒肴船中へ贈ル

○五月八日清末ヨリ頂戴之扶持方米七十俵小月小竹ヤ徳三郎積來リ受取ル

○十一日晝過錦小路様御内渡邊右衛門入來當時ハ太宰府へ公卿様方御付ニ相成候ヨシ此度山口表迄御使ニ參リ候行懸ノ由ナリ短冊三葉三條西様東久世様壬生様御染筆三枚分被相贈候也

○十二月十八日井石ヨリ上國ノ様子爲知來ル三條公始五卿様昨日宰府ヨリ博多へ御出薩ノ蒸氣船ニテ御上京今日馬關御通船ノヨシ長府世子様御逢ノ爲御出馬相成候

○二十日今朝馬關大庭ヨリ來書急ニ長府世子様御馬上ニテ伊崎小門迄御

遊行御歸リ此方へ御立寄トノ義申來直様ソウジイタシ片山東白モ加勢ニ來ル大工川ミのナトモ仕事ヲ止メソウジ相片付候處凡四ツ時御馬ニテ御入被爲在候先ツ御茶御菓子夫ヨリ御酒等差上御次へモ御酒差出九ツ時御歸リ被遊候御次衆三好慎三椋梨幸助關玄蕃福原往彌等ナリ

○二十一日晝前漁船ニテ馬關へ行三條公始五卿様へ献上ノ酒一斗五升入カケナカシ用意シテ罷出商會へ上リ御待受仕リ候へトモイマダ御着無之ニ付御用所へ參リ昨日長府世子様御入ノ御禮ヲ申上手打そばきり少々世子様へ献上御次へモ差出置夫ヨリ大庭同道ニテあみたじ御手洗やへ行又一酌夜ニ入商會ヨリ三條様へ献上ノ酒樽二ツ御手洗やへ取ヨセ預ケ置候今夜木戸殿ヲ訪フ王司ノ妙亭ナリ菓子一箱差出ス夜あみたじ御手洗やへカヘリ又々一酌夜四時大庭同道商會へ歸候處途中福原往彌君並奇隊ノ福田君へ逢竹崎宿本ヨリ急ニ人來リ片山ヨリノ書狀ニテ明朝五ツ半時竹崎御屋敷へ罷出候様久保君ヨリ來書ニ付今夜俄ニ引返シ

駕ニテ歸宅其書御兩殿様並御末家様方御復位其外之義從朝廷被仰出候間諸士中へ御沙汰書尙 御兩殿様御直書拜見被仰付候條明朝五半時竹崎御屋敷へ可被成御出候以上

十二月廿一日

久保松太郎

- 三戸勘右衛門様
- 森重友之助様
- 片山貫一郎様
- 古屋新作様
- 松村治輔様
- 河田市郎様
- 白石正一郎様

○廿二日右之次第ニ付早朝月代支度シテ五ツ頃片山同道竹崎御屋敷本玄關ヨリ待合候處追々外人モ參リ凡十二三人サテ御小姓井上市之進出席

ニテ三方ノ上ニ御直書并御沙汰書等兩通ノセテ御床へ被置候分上ノ間ニ參リ拜見仕候○今度大樹奉歸政權 朝廷一新之折柄彌以天下ノ人心居合不相附ニオイテハ追々復古之典モ難行深被惱 震襟且來春 御元服并立大后追々御大禮被爲行且又 先帝御一周ニ相成申候猶又人心一和專要ニ被思召候間先年來防長ノ事件彼是混雜有之候ヘトモ寛大ノ御所置被爲在御名御父子末家等被復候旨被仰付候事今朝從 朝廷ノ御沙汰奉拜戴誠以難有御儀不奉堪感激積年ノ誠忠素ヨリ不愧天地神明ノ事ニ候ヘトモ近來ノ國難奉對 御先靈候テモ深奉恐入候處今日ニ至徹上候モ畢竟國內士民一統父子ノ素志ヲ体トシテ維持候ヨリト祝着ノ至候然ル處方今京師ノ形勢不容易此往如何様ノ事變出來モ難測ニ付彌勵精藩屏ノ任不相勤テハ不相濟事ニ候條厚相心得於遂奉公可爲本懷モノナリ 丁卯十二月十七日

右之通拜見被仰付直様片山同道歸宅夫ヨリ馬關へ罷出候今朝公卿様方

御着船未タ御上リ不相分候得共献上酒ハ大庭取計吳置候得共此方相濟次第出關候様大庭ヨリモ申來漁船ニテ直様馬關へ罷越先ツ商會へ行候處大庭本陣へ罷出候由ニ付早速あミたじ御手洗やへ罷越候處丁ト大庭居合先前献上モノ取計置候故御本陣ニテ拜謁被成候様申ニ付早速御本陣伊藤へ行福原往彌氏へ相頼申入公卿方御付ノ衆兩人被出無程拜謁被仰付候夜ニ入歸宅然ル處今夜御本陣ヨリ使來封箱持參上書白石正一郎様三宅左近ト有之金千疋御一統様ヨリ今朝献上物ノ御返報トシテ被遣候段三宅ヨリ手紙差添來リ候依テ受書一筆入組封箱直様共使へ返ス今夕御船御出帆ノヨシ

慶應四年戊辰

明治元年改元

○二月四日新やしき新屋喜糸太田堅二ノ使トシテ來ル近日清末候御出張ニ相成候間御旅館ノ事渡邊ヨリ頼來候段申來

○七日清末候御着早速御船ニテ網代 御覽夕方御歸リ御酒差上御次中へ

モ差出正一郎東一片山モ拜謁夜ニ入御止宿ニ相成御盃等頂戴及深更敷盃被召上正一郎片山モ御取持申上候御紋付ノ御羽織一ツ拜領
今夜時山清之進ヨリ來書澤様去冬御歸京被遊候ニ付先年但州義舉討死ノ九人へ夫々御香花料御差送被仰付候段時山ヨリ申來御書付寫シト金百疋送り來ル

○八日今朝清末様ヨリ御酒頂戴晝過御船ニテ御歸御禮御挨拶トシテ御用方ヨリ金六千疋被下候事

○十二日晝過久留米嶺外記來訪一酌此度澤様長崎へ被遊御出九州鎮撫惣督被仰蒙候由其御供ニテ參候ヨシ申來又今日澤様ヨリ其儀申通シ候様被仰候故參候段承候ニ付早速支度イタシあミたじ伊藤御本陣迄參候テ酒五升献上廉太郎ヲ召連候直様拜謁被仰付御短冊二葉頂戴然ル處留守中越荷方ヨリモ御伺ニ罷出候様申來ル

○八月十三日久我大納言殿北越ニ御出カケ馬關へ御上リ伊藤本陣へ御滯

館ノ由馬關御遊行兩招魂場へ御出俄ニ當家へ被爲入御茶被召上御弁當御仕舞ノ上先年來三條公始公卿方ノ御筆御覽ニ入正一郎母君トモ拜謁被仰付候馬關出役佐々木男也君御付ニ相成遠山品川モ參リソウジ等加勢ス招魂場へ御備相成金五千疋遠田ヨリ送り來預リ置追而近藤政助へ托候

○十四日今朝久我様御旅館へ昨日御入ノ御禮ニ罷出上酒五升献上ス拜謁ノ上絹地一行物一枚並母へ御短冊一葉被下候

○十六日久我様ヨリ頂戴ノ扇子五本片山持參

○廿日晝鷹司様ノ諸太夫青木右京助來訪佐々木男也君青山青木家來以上五人來ル

○廿四日朝青山歸萩別盃北越ヨリ福田俠平君ノ手紙到來八月八日出ナリ北越戰爭上都合ノ由申來ル

明治二年己巳

白石正一郎日記（明治二）

- 二月五日澤様御内藤川澄雄ト云人ヨリ手紙來ル昨夜澤殿馬關御着小松やへ御上リノ由ニテ懷紙一葉御送越ニ相成候此度御内々御上京ノ由正一郎病中故御伺ニ罷出候故藤川迄返書差出ス
- 五月六日京師錦小路様ヨリ被下モノ山口町奉行ヨリ送り出シ新地本バヨリ送り來ル頂戴モノ五品左ノ通
- 天皇御著一包 御土器一枚 色目扇一箱 人形一 タハコ入キセル筒 細工モノ等以上五品箱入頂戴

明治三年庚午

- 三月廿九日豊浦知事様被爲入晝前ヨリ終日御遊宴家内中拜謁御盃被下候御土産トシテ正一郎へ白縮緬一疋家内へ縞チリメン一反母へ席書三幅對御懸ケ物被下候夕方御舟ニテ御歸省三吉滞在時田三吉慎三御供ニテ歸府御取持青山翁長三州大庭ナトナリ
- 四月廿四日山口若御前様奥丸様被爲入御本陣ニ御カリ入トノ事ニ付直

様小子歸宅掃除等マゼクル今日ハ御延引

- 廿五日晝過濱門ヨリ被爲入今夜御滞館
- 廿六日晝過御船ニテ御歸被遊候頂戴モノ金員ト生鯛二尾御奥ヨリトテ家内共へ數品頂戴物拜領

明治五年壬申

- 二月廿四日支應ヨリ來書明廿五日四時御用申來ル
- 廿五日伊藤本陣へ出ル貫屬懸リ長府人清水佃ヨリ相達シ第三區ノ戸長申付ルフス、ミ故追テ斷ノ願書サシ出ス
- 五月廿八日支應ヨリ來書明廿九日七時出頭申來ル
- 廿九日支應へ罷出支應當時假ニ引接寺ナリ此度正一郎事行在所御用掛被申付候林美九郎入江和作兩人行在所御用事務用達被申付候直様伊藤へ行修理ノ場所ヲ一見ス歸路久保參事時田典事笠井甚八等ノ旅宿へ立寄夜ニ入カヘル

- 六月二日行宮營繕ノ見合ニ行
- 六日右同斷
- 九日急ニ御着艦ノ由承候ニ付直様行在所へ出張ス
- 十四日四ツ時分御著艦南部ノ濱ヨリ御上リ被遊候
- 十一日晝吉井宮内少輔兒玉宮内少丞兩人ヨリ御達ニテヨミ歌ヨミオキニテモ奉入御覽候様トノ御事ニテ直様歸宅相認申候
- 十二日今日六連島燈台天覽被遊候ニ付俄ニ新地林方御休憩所ノ由ニ付小子加勢ニ罷越
- 十三日四時御發轅御乘艦小子晝過歸宅
- 十一月九日山口御家職御用掛座各中ヨリ正一郎出山候様ニ來書有之返書ニ不快ニ付全快次第出山可致段林美九郎へ相頼
- 十一日山口行ノ事片山ヨリ遠田へ及内談候處代聞差出候方可然トノ差圖ニ付片山氣付ニテ大和忠助之姪本間正修ト云人來關中ニ付其人ニ相

頼吳候大和氏モ來候故小子ヨリモ直ニ相頼ム

- 二十一日本間氏來關ニ付代聞ノ様子相承候處山口御兩殿様ヨリ頂戴モノ御直垂一領御烏帽子一頭御中啓一本被下候ニ付難有拜領仕候此三品持參致候ニ付金員謝禮ニ遣ス

明治九年丙子

- 二月一日三好兵部少輔殿來訪直様歸省此セツ征伐有之由ニテ下向馬關滞在ナリ

明治十年丁丑

- 十二月廿七日八ツ過南野氏ヨリ來書赤間宮々司被仰付候段知セ來ル
- 廿八日南野氏來訪御達書頂戴ス
- 廿九日赤間宮へ初テ奉仕社務所ニテ先客笠原南野其外ト會話ス

明治十一年戊寅

- 十月七日赤間宮御祭ニ付出勤四時縣令其外參宮御祭事相濟アミ平ニテ

○縣令ハジメ其外多人數へ酒肴サシ出ス小子ト南野ト取持ニ行夕方カへ
ル歸途豊永長吉縣令宿ニ付名刺ヲ出シ相頼置キカヘル

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

白石正一郎日記 終

黑澤覺藏覺書

黑澤覺藏覺書

安攻五年八月八日 天皇修攘ノ 勅ヲ水戸中納言慶篤卿ニ下シ之ヲ諸侯
ニ廻達シ幕府ヲ輔ケ實効ヲ奏セシメントス慶篤卿奥右筆頭取高橋多一郎
ニ命シ水戸ニ下リ其事由ヲ諸執政ニ告ケシム時ニ慶篤卿ハ江戸小石川邸ニ在
リ多一郎ハ小石川邸ニ勤務ス
高橋晝夜兼程之ヲ報シテ礪川邸ニ復命シ爾來高橋ハ郡奉行金子孫二郎ト
共ニ礪川邸ニ在リ最モ鞠躬周旋相誓テ勅旨ヲ宣揚シ 皇威ヲ振興セント
ス而シテ幕府ノ政專斷ニシテ 勅旨ヲ遵守スル事ナク却テ百方策ヲ設ケ
勅旨ヲ拒ントス水戸ノ諸有司モ幕吏ノ意ヲ迎合スルモノ多ク議論紛々流
言從テ起ル既ニシテ幕吏ハ前中納言齊昭卿ヲ紀州侯ノ邸ニ幽閉セントス
ルノ企アリト云フ金子高橋ハ悲憤措カス事ノ斯ニ至ル上ハ水戸ノ士民大
發南上シテ齊昭卿ノ幽厄ヲ排斥シ以テ勅旨ヲ發揚セスンハアルヘカラス

ト發意ス甲呼乙傳水戸藩ノ士民是年九月總州小金驛ニ至リ勅旨宣揚ノ謀
 議ヲナシ大ニ勢力ヲ張り幕吏ノ威力ヲ排制スルモノ數千人金子高橋ハ相
 協議シ互ニ意思ヲ定メ事ヲ圖リ金高兩氏カ國事ニ關スル事ニ於ケルヤ毫
 モ自己ノ意見ニテ定ムル事ナク一舉一動能ク協議シ輕忽ニ事ヲ處セサル
 ハ覺藏ノ知ル所ナリ南上ノ士民モ亦兩氏ノ指示ニ依リ進退スルモノ甚々
 多ク人金子高橋ヲ呼フニ名イハスシテ金高ト呼フ十月金高ハ公命ヲ奉シ
 南上ノ士民ヲ諭シテ漸次歸藩セシム然リ而シテ井伊大老益威力ヲ震ヒ專
 斷スル事愈甚シク擅ニ外交ヲナス其外國ニ對スヤ畏縮シテ遠大ノ策ナク
 徒ラニ外交ヲ口ニスルノモ却テ國威ヲ墜スト少ナカラス勤王ノ志士ヲ忌
 ミ其極遂ニ主上ノ御讓位ヲ圖ルニ至ル安政六年己未五月安島帶刀茅根伊
 豫之介吉田寅次郎梅田源次郎等ノ獄起リ人心洶々天下ノ志士甚々憤怒ス
 水戸ノ士民又南上シテ江戸小梅邸ニ至リ義氣ヲ挽回セントスルモノ千有
 餘人薩摩國主修理大夫齊彬侯ハ西郷吉之助鎌田出雲德田嘉平等ヲシテ東

隨軒曰ク五年係
 田事ハ何ノ秋
 戊申ハ西郷ト
 ラレハ午ハ西
 ナレハ午ハ西
 鶴岡吉左九工
 門等速捕ノ工
 時等速捕ノ工
 西下ナシタ
 レハ西下ナシ

上シ陰ニ天下ノ志士ト交ヲ結ハシム時ニ西郷鎌田ハ公卿近衛公ニ謁シ意
 見ヲ述フル事ヲ得公一日西郷鎌田ヲ宮中ニ導テ御簾ノ外ニ至リ相話ス西
 郷鎌田ハ公ニ對シ幕府ノ政今ノ儘ニ打捨置カハ大老ノ意見通りニ成行キ
 驕暴至ラサルナク天下地ニ墜ツヘシ然レモ德川氏ノ恩澤ハ殆三百年德川
 氏ノ天下ヲ奪ハントスルニアラス水戸前中納言ヲシテ國政ニ與カラシメ
 幕府ヲ輔翼シ内憂ヲ去リ外患ヲ破ラン云々ト述フ蓋シ主上御簾ノ内ニ
 在ラセラレ聞召サレシナラン是時宮中ヨリ陰カニ西郷ヘハ紙入一箇鎌田
 ヘハ印籠一箇ヲ賜リタリト云フ是ヨリ後金高ハ西郷並ニ大山格之助堀忠
 左衛門田中某鹿島等ト鹿兒嶋邸内堀ノ住所又ハ酒店ニ會合シ勅旨宣揚
 ノ策ヲ講シ密カニ相謀ル事アリ是年ノ秋某日井伊大老ヲ斃サスンハ天下
 ノ事復タナスヘカラサルノ談ヲナシ江戸ニテ大老ヲ斬殺シ其機ニ乘シ薩
 摩ノ支藩主一人ヲ首將トシ九州ヨリ兵ヲ起シテ東上シ越前侯ヲ大坂城ニ
 迎ヒ相待テ幕府ノ政ヲ矯正セント決論ス水戸ノ士人ニシテ是謀ニ與カル

モノハ野村彝之介下野隼次郎關鉄之介木村權之衛門齋藤監物等ニ過キス
 覺藏ハ高橋ヨ先キニ安島等ノ獄ニアルヤ高橋ノ實弟鮎澤伊大夫モ傳馬街ノ
 獄ニ繫カレ八丈島ニ流サル、ノ命アリ高橋ハ鮎澤ニ謀議ノ趣旨ヲ知ラシ
 メント欲シ一日内藤文七郎ニ諭シ鮎澤流罪ノ日ニハ舟ヲ雇ヘ品川灣ニ在
 リ鮎澤ノ船至ルヲ待チ氣強ク居ルヘシ他日天晴ル、ノ期アリト聲言スヘ
 シト命スルヲ以テ文七郎ハ之ヲ果ス能ハス一夕高橋等ハ西郷ト相飲ム酒酣ニ
 西郷ハ大老斬殺ノ謀議相整ノ喜ヲ表シ裸踊ヲナシ蠟燭ノ火ニテ陰毛ヲ燒
 キテ興ヲナセシト云金高ハ數々南上ノ士民鎮撫ノ命ヲ蒙ル因テ小梅邸ニ
 在ル士民ニ諭シ歸藩ヲ促スニ他日別ニ爲スヘキノ仕事アリ鎮靜シテ機會
 ヲ待ツヘシノ意ヲ以テス九月礪川邸ノ執政以下譴ヲ蒙リ十月金高モ亦鎮
 撫不行届ノ譴ヲ受ケ歸藩ヲ命セラレ水戸ニ至ラントス時ニ堀田中等金高
 ニ對シ歸藩セスシテ斬殺ノ舉ヲ起スヘシト云フ事最急ナリ金高ハ答フル
 ニ一旦歸藩ノ上準備ヲナシ明春ヲ期シ事ヲ遂クヘキ意ヲ以テシ金高ハ水

一隨軒又曰ク
 是月八日午
 申時
 下會スルモ
 共ハ水人ニ
 ノ金子人
 ハアリ薩人
 モハ岩下人
 平有馬新七
 等モ在シト
 云フ

戸ニ歸リ佐野竹之介等ヲ斬殺ノ人員トシ野村彝之介等ヲ京坂義舉ノ人員
 ト内定シ大老斬殺ノ後大坂ニ義舉ヲ起ス時ハ水戸藩齋藤監物ヲシテ斬殺趣旨書
 ヲ草セシメ而シテ諸費用ノ金員ハ金子擔當シ仕拂ト各自ノ用意金ニ差支
 ナカラシメ高橋ハ器具調理ノ事ヲ擔當シ大老斬殺ノ際用フヘキ提燈蠟
 燭火道具合羽等ニ至ル迄拵集メ又大坂ニテ用ユヘキ軍扇短銃其他ノ器具
 新調並ニ居所ニ差支ナキヲ要スル爲メ山崎獵藏川崎孫四郎ヲ大坂ニ遣リ
 山崎ハ丹波屋榮介ト稱シ川崎ハ篠崎源太郎ト稱シ商事ヲ營マシム是年十
 二月慶篤卿ニ對シ勅書ヲ返納スヘキ幕命アリ督促最モ急ナリ水戸ノ士
 民中返不返ノ論起リ金高ハ返納スヘカラサルノ首唱ヲナシ一藩紛擾シ萬
 延元年ノ春ニ至リ紛議益甚シ金高ハ三月三日ヲ以テ大老斬殺ノ期ト豫定
 シ事ヲ舉ント田中等ニ告ク田中ハ一國ノ定論未タ纏ラス之ヲ纏メテ人數
 ヲ操出スニ至ル迄斬殺ノ期ヲ延サン事ヲ求ム金高ハ時事切迫期ヲ延ハシ
 難キヲ以斬殺ノ事ハ水戸人ニ於テ擔當スルヲ以テ有志ノ人員ヲ京畿ニ出

サレタシトノ意ヲ以テ答フ田中ハ是等ノ事ヲ承諾シ鹿兒島ニ歸リ兵ヲ集
メ東上シ義舉ヲ起ス事ヲ約ス此往復ハ木村權之工門擔當ス金高ハ少壯ノ士ヲ獎勵シ又謀
議ヲ密ニセシメ大老斬殺ノ後大坂ニ相會スル事ト定メ二月十八日金子ハ
大老斬殺ノ指揮ヲ司ル事トシ高橋ハ大坂義舉ヲ司ル事トシ各道ヲ分チ出
發ス高橋ト同行スルモノハ長子庄左衛門大貫多介小室次作黒澤覺藏ナリ
形ヲ商買ニ装ヒ道ヲ中山道ニ取リ三月二日十三峠ヲ越木曾川ヲ渡リ本田
宿ニ泊ル翌三日天大ニ雪フル高橋ハ覺藏等ヲ顧テ今日ノ仕事ハ必ス出來
タゾト云ヒ急キ出立シ五日伏見町ニ着シ夜大坂ニ移ル果シテ大老斬殺ノ
舉江戸櫻田ニ於テ成就シ事已ニ京畿ニ聞ヘ物色甚嚴ナリ薩摩ノ士東上セ
サルノミナラス有志ノ士概ネ四散シテ上坂スル能ハス高橋等潛居シテ爲
ス事アラントシ生玉明神前島男也ノ宅ニ在リ是月二十三日黎明捕手數百
人來圍ムヲ以テ高橋ハ庄左工門ヲ引テ四天王寺ニ至リ共ニ屠腹シテ死ス
ト云フ

遣 卷 錄

(朱書) 贈從四位樋口真吉日記

愚菴筆記

文久元年辛酉九月三日武楯發武陵念五歸國

十月六日佐々木氏告異聞

七日過步楯生

八日訪能見及本山氏遂投積翠庵

十一日坂龍飛騰

十四日訪雄埜先生

十五日敲馬場及高屋笠菴○高橋某歸自他云九月念五六萩侯滯於藝房之
界花園

廿日兩氏蒙官謹訪小蘭廿一日芳樹畫會

廿三日武楯出風憲

愚菴筆記（文久元）

十一月十一日執政總州 罷免 島津氏卒三万人上京ノ説アリ

十八日訪滄浪

廿三日夜訪尾生滄浪來會念六与源也等俱垂釣(欄外)三洲屋人云西國貯米且嘲我藩爲英設牛鷄

十二月六日聞大磯之異事云薩使十一月朔日發江戸宿大磯有盜奪其密書川

上式部之献策也四日卯時其事聞于麻布萩邸

十一日解印

十五日西行書念日上書參政吉田氏

廿七日乘船泊浦門舟子儀右工門一義六共二隻

廿八日味爽張帆而出風逆泊瀧岬至未尅風漸定而發廿九日雞鳴達下田港

廿九日乘潮而入津黃昏着崩岸終歸舊棲

壬戌正月文久二年

元日贈書多都味氏

十九日武楯書云舊臘薩上邸燒亡也是島壽太郎之說話也

廿六日多田氏來請觀大連銃鐵馬毛陽行

廿七日鐵馬歸自毛陽

廿八日与小橋氏俱乘舟泝四万十川宗兵從宿口屋內

廿九日繫舟於角川陸行投井上氏聞嘉門今朝辭去

三十日使吉野人贈書嘉門

二月朔日嘉門之書到此日伊正之進來會

二日再贈書多都味氏遂發西方宿角川

三日乘舟歸于中城

六日嘉門之書到云向書未達

七日贈書嘉門

十一日使使府城

十八日使歸六連銃取歸

三月三日弘瀬氏來此日宿楠島

四日投毛陽嘉邨氏五日滞在
 六日歸于家
 七日礦上演武小橋氏發程傳助之大宮
 十日傳助歸云名張良藏其七日宿西方
 十一日宿安光氏清吉東行
 十二日宿窪川十三日投須崎十四日投田氏
 十五日投浦戶町
 十七日夜傳門來長泉寺ヨリ邸價殘十四圓ヲ受取
 十八日宿森氏此日小橋氏發府下
 十九日投吉田氏
 廿日歸家
 廿一日三浦氏來過
 廿五日家業罷免

廿九日柳翠使霍齊

四月二日上田八馬來

九日拙歸山

十日擊劍觀演

十一日聞參政之變故

十四日霍齊齋五十圓錦江歸干府城

十六日發途 逢小橋氏於片城

廿日出府投田莊

廿一日謁毛大夫投田庄使高松氏贈書鐵面

廿二日逢小笠原保馬保馬自江戸歷十六日而歸錦江富村等來會

廿三日逢弘光氏於葛洲此夜伏見一舉有之

廿四日早旦早追使着

廿六日哲馬忠三郎着府北條瀨兵衛着府

廿六日投中須賀廿七日投岡邑氏清抽發杖
廿八日逢高松及井上二生於正月山夜歸家
五月四日三浦氏來過
五日毛大夫歸鄉真之助出府
七日清吉歸足
十日爲倉吏 春馬歸自府下
十一日章三郎出府
十三日錦江歸自府
十四日真之介來云昨夜歸家
十六日傳助出府
廿二日傳助歸
廿四日傳助使柏島
廿六日豪二郎出府

六月一日桑原禮二出府

十日兼彌太豪二郎歸村
十一日以南奥内上山エ使ヲ遣ス田邊豪二郎出府
十八日中村發足廿日北奉公人町川久保岩二郎宅着
廿一日御詮義ノ上達御聽御供達御歩行被仰付役料ヲ以テ三人扶持切米
八石高被仰付之又御詮義振ヲ以テ當分御歩行小頭場兼帶勤被仰付之
廿二日御目見
廿八日御發駕布師田御宿
廿九日日本山御宿此日兩國見菫蕪ヲ越
卅日立川御宿
七月一日早發篠峯ニテ夜明馬立川江御宿此日非番七里半十二丁
二日九里丸龜御宿
三日御乘船備前下津井御宿

四日足痛待船

五日出帆愉俄山ノ向島ニ至五里許風逆日比ニ泊又漕テ屏風浦小島ニ泊ス

六日夜來風雨小島ヲ發一里許ニシテ又逆風船ヲ返シ「タエ」ニ着

七日雨タエヲ上陸三里ニシテ小櫛ニ至舟ニテ一里半而西大寺ニ着舟橋

二里此處ニテ往還ニ出ル又二里弱ニ而一日市ニ宿ス

八日雇輿而發川アリ水源津山ニ泝二里八丁而片山ニ到清岡治之助ニ逢

横目兩人ニ逢是ヨリ僦船而發夜室ニ泊ス土左屋某報云君公姫路御滞在

九日赤石ニ着片山ヨリ海上廿六里船賃一兩貳朱大倉谷御宿

十日西宮御宿ノ所人足疋兵庫御宿此時麻疹流行行程五里

十一日西宮御宿五里

十二日大坂御宿道頓堀ニ投ス

十三日雨御滞在

十四日雨叩武楯氏

十五日風邪ニ累ル小南氏上京

十六日

十七日

十八日武氏來

十九日

廿日小橋等隣舍ニ來ル

廿一日

廿二日

廿三日逢龍馬贈一圓攸二歸于京

廿四日風夜御番ニ出ル時出火也ト云火元見ニ仰付西岡生ト俱ニ馳行誤唱也宇和島町施餓鬼ノ火也依テ其所見ヲ言上ニ及大谷小傳二殿ヲ以武等兩人エ御菓子拜領被仰付之

廿五日雨武氏來ル

廿六日此夕小南氏京ヨリ歸ル

廿七日

廿八日御番

廿九日曇天天保山洋上黒雲鎖雲脚譬如炮烟洋上ヨリ雲腹ニ通シ雲脉浪ノ如ク空中ニ捲登ルヲ稍久シ道頓堀樓上ヨリ見ル

八月一日夜御番彗星見ル

二日

三日此晚小南氏東行觀天王寺

四日訪武氏托郷音

五日御菓子入箱三原弘野長手へ托ス

六日七月九日發案内狀達ス但岩三郎上封

七日

八日

九日

十日受取御番過文吉

十一日

十二日御次御番

八月二日於學院兩役松平長門守面會之節於關東此二通之旨可有周旋被仰
合

戊午己未以來官武降黜閉等之輩追々再出に相來候處地下之輩は今以其儘之分と有之候間早々赦免可有之様 思食候三條入道内府儀は被爲慰忠魂被贈右大臣候ニ付而は於水戸故前中納言以出格之義被贈大納言度 思召候且往年來長岡驛等ニ而拱死候者始其後安島帶刀鶴飼吉左工門列以下諸國ノ士於關東死罪上牢死致候者國事に死候輩近くハ伏見一舉等ニ而致死失候者共靈魂招集以禮收葬令子孫祭祀候様被遊度現存之者共夫々如舊

相復候様との

叡慮ニ被爲在候不拘存亡願是等之事輩姓名其向々取調不洩様早々可申上
其上前條之趣御處置被爲在度 思食候事

右一紙

水戸前中納言爲國家忠節盡力卓越之段深

叡感ニ付被贈大納言候儀ニ付尙又於當中納言も繼其志爲皇國可有丹誠段
自幕府被申渡候様被遊度 思召候事

右一紙

十三日前夜ハ次御番謁長官

十四日乘舟木津川ヨリ住吉陣ニ到

十五日曇天半月出

十六日御番此日以後小頭場隔日出勤被命

十七日雨岡本八之助上京此夜江戸飛脚着

十八日白髮町松村屋嘉工門方へ移ル

十九日佐野長エ行下田船エ油澁キ物頼置

廿日

廿一日稻荷御社參之筈之處東邸之凶計ニヨツテ御延引

廿二日朝戎橋北側泉屋作兵工方へ歸ル

廿三日大坂御發駕網島及安口蹉駝御小休牧方御宿

廿四日葛葉淀御休伏見御宿

廿五日藤森並大佛前御休京都御邸ニ着我輩寺町了連寺ニ宿

經回山水數千程明月清風遠素情今日纔慰旅中苦侍來君駕入京城

已家組伍長定ル

廿六日雨大通院ニ御移吾輩慈雲院ニ止宿

廿七日當番雨

廿八日逢久坂玄瑞

廿九日當番

卅番 永野弘田二生東行

閏八月一日曇 當番

松本雄吉 島村恒三郎 弘田章三郎 山本伊の助 永野楠治 入交晋

二郎 入交五郎藏 長尾孫三郎 和田熊太郎 内田爲の助

御側拾人并小八木五兵衛殿江戸方差立此日郷土出足

二日非番

三日小八木氏東行朝訪本山氏

四日當番明日駒二郎歸ルト云

五日雨上京日光宮東歸

六日雨前夜八ッ時五條通出火

謁見願御聞届本山君東行小原君本藩行被仰付(欄外)大原殿歸京

七日乞謁見島津三郎君歸於關東

八日上洛

九日係風邪 三郎君參内○本山氏東行

十日雨

十一日郷信到

十二日

十三日平井周次郎御目付方御用ニ付呼出

十四日

十五日江戸ヨリ御使者到容堂様へ救命相傳

十六日

十七日雨矢ノ川真幸御雇步行

十八日栗尾源八於御國許病氣ニテ歸京日延願御聞届ノ書面來ル

十九日訪武氏

廿日雨昨日根野要輔志賀恭八松井孫衛門馬詰真七郎北村彦太郎御僉

議振ヲ以御國許へ被差下

廿一日雨上京逢小原氏昨夜本間精一郎ホント丁ニテ横死梟首於四條磧骸投於高瀬川

廿二日雨

廿三日昨夜九條家ノ諸大夫宇郷玄蕃守ヲ討取松原磧ニ梟首シ有之札ニ云玄蕃ヲ島田左兵衛ニ同腹セシメ主家ヲ不義ニ陷レ姦惡彼ニ勝ル依テ天誅ヲ蒙ラシムルト

廿四日御飛脚立紙入ヲ帷子ニ贈ル但岩三エ托ス

廿五日雨上京小原氏本藩行

廿六日

廿七日

廿八日長州侯御訪

廿九日

九月一日於御本陣再來ニ勤事其儘を以テ當分西國筋探索御用被仰付之寺

町へ出ル此朝三條磧ニ文吉ヲ晒ス

二日晝後木屋町平井收次郎宿へ投ス

三日御目付方改受取御勘定方届同斷

四日容堂様御交替ノ敕書下總殿御受取

五日晝後江戸飛脚到

六日

七日東山土地見分

八日晝々長寺へ移る

九日

十日明十一日西國出足日取被仰付

十一日微雨申ノ刻京都出足谷守部殿同行御小人下田村加奈藏召連夜ニ入伏見大佛屋に着す肥後人堤松左衛門同行夜四ツ時乗舟曉天大坂に還る

十二日人數改大坂御留守居へ出ス桔梗屋に宿谷氏堺御陣家へ行晝後御陣家ニ行吉田忠次殿及福川直三郎出テ街店ニ別盃ヲ酌此夜千屋喜久治に逢栗尾源八亦御國ヲ歸リ桔梗屋に宿ス十三日夜ニ入下關權右衛門船ニ乗小倉迄船賃上下三人ニテ金三兩貳歩十四日朝安治川ヲ發黄昏兵庫ニ至夜半同港を發ス十五日晴午後高砂ニ至明朝淡州路へ沿蒸氣船壹艘兵庫ノ方へ乘行米夷歟不分明

十六日晴朝備中高屋沖ニ至る黄昏雨御手泊に泊ス

十七日微雨上陸筑前屋ニ上リ入湯午後發ス夜上關ヲ過る

十八日朝下關ヲ距テ十八里ト云夕陽潮逆田ノ口ニ泊ス初夜過赤馬關ニ達ス遂ニ内裡ヲ過小倉ニ到

十九日朝改ヲ受小倉ヲ發ス黒崎ニ而堤氏に別る木屋瀬ニ宿ス小倉ハ六里宿かと屋ト云フ

廿日晴あし川ヲ渡農方町野方二本松飯塚内野ニ宿ス里數八里甘木屋宿ス加奈藏足痛後ニ落駕籠ニ乘來ル

廿一日山家松崎府中長崎屋ニ宿谷氏松崎にて樋口半四郎を尋投宿ス府中ノ後筑後川アリ隈城川ト唱里數九里内野ハ山家ノ間都て山路併險ニ非ス米價三斗六升俵ニテ四貫文ト云

廿二日瀬高へ五里柳川へ壹里三合

肥前屋にて宿ス安樂寺下村ノ人杉村大成ヲ使來ル

廿三日田中耕助ヲ訪酒ヲ設其父喜助津村行藏ヲ呼來る

由布市之丞旅宿ニ來訪夜ニ入横地玄蕃之亮來訪柳藩時機ニ後ルト雖雨士氣強壯

廿四日江ノ浦ヲ經宮部ニ至ル大石先生ヲ訪フ先生酒ヲ出ス暫時談柄三池に至堤松左衛門川上彦齋等來會遂ニ宿ス

廿五日寒風二里三合ニして林鹿三里而高瀬刀鍛居ル所三里而植木之驛

ニ宿

廿六日貳里強ニして熊本新町三丁目高塚屋ニ宿ス但し驛ニ至驛ハ宿を導キ出ル役手ニ手會ヲ乞フ林恒助田代七助兩人出來ル此人旅人應對役之三條家ノ真書ヲ君側ニ渡ノコヲ諾ス

廿七日曇前夜雨林恒助來ル云役頭早速御出會之筈之處種々手數も有之今日ノ御出會無覺東御斷ノ爲罷出るト云

青木彦兵衛來會岡藩ノ使者熊田藤太來リ居るト云中川氏去別細川氏ニ倚頼スト云且此度中川氏幕命にヨリ出府留守主中之事ヲ托ス爲ノ使ト云又聞小河彌右衛門等歸國後此度ノ幕命ヲ聞俄に幽閉申付ト云フ

廿八日林恒助來云側用人藪作右衛門御面會ノ爲罷出ルト云且云客邸エ御請待申筈之處此節御通り掛ノ義故本陣ニテ御面會仕段斷出ル兩人出テ對面ニ及三條家ノ御書相渡隨而時勢之談ニ及作右衛門云時勢之義ハ又其筋之役方有之候間其者御引合可申いつれ夕方迄御沙汰可仕夫ハ加

藤肥前ノ廟に謁す

魚住源次兵衛 宮 刀 鼎 三 末松勘右衛門 佐々潤二郎

今村乙五郎 山田十郎 加屋榮太 松村深藏

右八人來ル 夜林恒助來ル

藪作殿ハ三條家御書越中守に相達之様覺書差越

廿九日林恒助來ル本陣へ案内ス

奉行根締役水津熊太郎座接ニ出ル夕御宿に返る

轟木武兵衛 河上彦齋 青木彦兵衛 永井金吾 堤森太郎

松村深藏 魚住彦太郎 長沼小十郎 夏目徳太郎 來ル

卅日曇末森勘右衛門來る河上彦齋青木彦兵衛兩人送テ高橋ニ到酌酒而

去夜乘船盜島ニ泊ス退潮船大ニ傾舟子の醉眠可笑

十月朔日黎明苗船午後島原ニ到津吏應接刻ヲ費シ遂ニ筑後屋宿ス舟元長

崎ハ三里ヲ距茂木達スルコト約スト雖風順惡く轉シテ陸行トナル

二日仁井村へ一里大野村へ一里幸次郎村へ一里山田村へ一里愛津エ四里關ヲ越三軒屋ニ宿ス
三日山路山茶花夥シ有木江ノ浦横ノ春矢上是迄五里日見へ一里坂ヲ越長崎へ二里行程束テ八里新大工町芳野屋へ宿ス金子理吉廣瀬九左衛門ヲ喚フ

四日曇鍛冶屋町廣瀬九左衛門方ニ移ル云野村良平昨日歸帆ト北奉公人町醫生島田洞愿安田同柏原玄碩來ル兩人共大德寺境内ニ在學

肥筑之蒸氣船在魯西亞及英夷等ノ船十四五隻入津醜夷街房徘徊夜雨

五日微雨廣田太吉來ル

小浦ノ夷館ヲ見ル米夷英佛ノ館軒ヲ連ヌアラビヤ館未タ成ラズアラビヤ人黒色大人コンシユル館旗章ヲ建大村領ノ一寺コンシユルノ館トナル可憎夷館ノ築地天草人引受奉行シテ築之其已家猶在湟ノ橋ヲ造未出來 蘭通辭川原又兵衛ヲ叩約アレモ微疾ニシテ不果行

六日晴又兵衛使ヲ以申越今朝溶鐵場急用アリ今夕尋吳候様申來夜又兵衛ヲ訪横濱新聞志來ルト云奇説アリ又兵衛云横濱夷江戸ノ事ヲ知ルモノハ幕夷相通シテ機密ヲ洩ス故ナリト云々英夷又兵衛ノ問ニ答テ云和蘭人ノ質軟弱迂遠然共事ヲ謀ルニ最緩大故ニ小國ナレモ互市海内ニ治シ佛蘭西性武ヲ嗜ミ又遊伎ニ達ス咭性兇暴無禮跋扈遊伎ヲ知ラス其質變事能はず實ニ如何とも不可爲魯西亞質實万國無比當時碇陽ニ來リ館ヲ造ラズ互市ヲ爲サズ雖然毎ニ來舶夥是全兵庫ノ開港ヲ待ニアリト且魯人碇陽ニ於テ窮民ヲ救恤スルヲ最太シ○蒸氣船新製上海ニテ造ラシムルトキハ十八ヶ月ヲ期ス上海來津ノ船ヲ求ムル時ハ日數二十ヲ期ス○幕船上海エ使スルノ船損傷ノ處只今修復中也○鐵造蒸氣船年ニ三回ノ手入ナキトキハ傷損甚シ故ニ木製ヲ以テ勝レリトス且鐵ハ炮玉ノ破裂甚シ○修船場ノ費用頗多シト云フ

後ニ聞魯船碇陽ニ來ルモノハ船修復ノ爲ナリ何トナレハ碇陽ニテ修

造ノ價頗廉ナリ故ニ來ルト云

七日晴鎌居里正ノ二男岡林常之助來ル云シキボルトノ留守居トナルト
「シキボルト今上海ニ在

八日微雨後曇川原又兵衛手引筑前蒸氣船ニ乗船將松本主殿船長三十五
間外車烟管一箇鐵製カルロン風ノ礮五門臺ハ百機山斯風ナリ銅製礮一
門劍付銃十二挺劍十餘振船頭魔威シ鵬ドンドロス覆アリ蘭人ヤンセン
棟梁ニテ修復ヲナス○右船今年買入價九万ドルナルト云○船ハ古式ニ
テ古船ナリ筑前失策ト云フ

溶鐵場ニ到ル器械造都テ蒸氣ヲ用ユ薩ノ蒸氣ヲ鍋釜銅造ニナス○獨輪
運送車アリ玻璃器造處アリ

魯船七隻フレカヅト祝礮廿發許○ホルトガル天授教寺アリ
城島礮臺一見而歸

九日寒風岡林常之助新聞志持參川原又兵衛招飲

十日シイボルト宅ヲ叩歸路鐵翁ニ逢又兵衛伴廣太郎ヲ招新聞志四冊贈
來ル又横文新聞ヲ贈來

十一日鍛治屋出足廣瀬九左工門父子並金子理吉日見坂麓迄送り來諫早
七里夜舟ニ乗雨降來龜浦ニ泊ス

十二日雨龜浦漁家ニ上ル七ツ頃暈ヲ得舟ヲ發本庄川尻ニ泊ス

十三日晴本庄ニ着佐嘉ニ宿ス島岡右工門并武富文之助へ書ヲ贈ル便右
工門來ル一五十夜反射炬ヲ見る阿芴注文八十冊鐵造仕成中皆蒸氣仕掛ナ
リ

十四日黎明岡右工門送テ郭内外ニ至ル奇人ナリ堺原神崎豆津筑後川ヲ
渡久留米今町大黒屋ニ宿ス中村潤藏書ヲ贈則來ル途ニ被誘行投宿ス夜
雨

十五日晴若林岡右集來會人

兼上京柴山文平 老生井上彦一 樋口剛太郎 平八加藤幾二郎
ノモノ

山田辰三郎 老生 井上善三郎 池尻嶽二郎

議論紛紜君侯ノ歸國ヲ待テ欲一定

十六日樋口剛太郎送テ松崎ニ到里程三里十二町山家エ三里山家長崎屋ニ宿ス似諸士扶桑男子有誰憐日月光微五百年機會即今何再到拂來雲霧見青天

中村潤三次韵云 赤心報國共相憐險路不辭強仕年一蹟微軀雖寸斷誘衷千古是斯天

次韵山田辰三郎

時勢從來雖不期因循姑息太堪悲丈夫可死錦旗下何論人間小別離

十七日雨山家ヨリ木屋瀬十一里

十八日小倉ヨリ乗船下關未屋ニ宿ス

十九日曇白石庄一郎ヲ訪庄一郎ハ薩ノ仕送リシ土屋矢之助先達テ庄一郎宅ヲ過クルト云矢之助ハ細川氏使スルモノ也今春魯西亞船碇泊ノ説

ヲ問虚説ト云通過スル耳亡命人來宿スト云久留米人本間精一郎吉村虎太郎抔投宿ス廣瀬旭莊ヲ訪フ病氣ト云

廿日發下關長府へ二里小月吉田萩街道追分因州人中村左一右工門同道厚狹市村田屋ニ宿ス里數八里

廿一日昨日厚狹市ニテ朝鮮漂流人十三人石州ヨリ長崎ニ送ルニ逢○舟木山中小郡ニ宿ス六里程

廿二日川ヲ越山中雨ニ逢宮市富海福川富田ニ宿ス此日二川ヲ越行程九里廿三丁

廿三日富田出足徳山花岡久保市多尾市呼坂今市高森玖賀行程八里

廿四日晴寒風關戸へ四里小瀬川藝房堺也下關ヨリ小瀬川へ三十六里小瀬ヨリ尾方へ一里船ヲ賃ヒ渡島ニ渡ル夜ニ入汐干川尻ニテ夜ヲ明シ繪場ニ著城下満足屋ニ宿ス

廿五日雨船ヲ待此日藝侯四千人ヲ率テ發駕ト云